

●ともに歩く女たちの雑誌

ねぶ

wife・NO.179.

特集 成功したしつけ・失敗したしつけ

● **特集レポート** 母親はどんなとき子どもを叱っているか

● **どこが悪い？** 日本の子育て

● **討論** 「妊娠中絶禁止」のホンネとタテマエ

● **インタビュー** フィリピンの底辺に行く／三好亜矢子





株式会社 ミネルヴァ書房

〒104 東京都中央区堺町通順番附
☎(075)241-2349 振替 京都2-8076

発達

12

岡本夏木 監修
村井潤一

●特集＊母になること 子であること

母性および母性的なるもの……………守屋慶子

引き裂かれた子どもたち……………佐々木静子

家庭の崩壊と母子関係……………村岡末広

両生類ハイハイを楽しんで……………有馬晴美

一〇〇まん年あそぼう……………名雪君子

みみずの学校・遊学旅行記……………高橋幸子

カウンセリングルーム……………岨中 達

からみた最近の学生像……………

保育の科学／わが愉快なる日々―吉本直志郎／子どもの

自然誌―自我意識／動物の子育て／霊長類の子育てを問

う／発達と診断―情動の意味②／文献・ワロン論文集

定価 八九〇円千250 ●定期購読のおすすめ 購読料 4 回分

送料共四〇〇〇円 (振替・京都二一八〇七六又は現金書留)

真の「男女平等」への道を探る

現代女性の生き方

小森健吉編・何のための「女性学」か

女性について、さまざまな角度から論じたものは無数にある。しかし、この本のように、「女性とは何か」という問題に正面からとりくみ、歴史、社会、心理、生理、宗教などの角度から総合的に、また、本格的にとりくんだものはまれである。本書は、大学の一般教育の改革の試みから生まれたが、大学、高校などの学校はもとより、広く社会的にも読まれることを期待している。

永井道雄氏評

＊一七〇〇円千250

現代書館

東京都千代田区神田神保町2-22-11
電話03(261)0778 振替東京2-83725

家事・育児を分担する男たち

●福岡・女性と職業研究会編
男と女が自立し共に生き合える関係をきずくためには、共に自分の仕事を持ち、家事・育児を分担し生活する必要がある。現在、それを実行している数組の夫婦にその日常を語ってもらい、また外国の報告とも合わせて、今後の男女の関係を問う。新刊 1400円

わが家の思春記

1500円 新刊

●高三の息子と中三の娘と―門野晴子
万年「オール3」の平凡なわが子も校内暴力・いじめ・リンチ・セックスと「生徒は荒れている」とされる学校の中で様々な事件に巻き込まれていく。本当に荒廃しているのは学校と教師ではないか。本書は、強烈な教育批判をユーモアあふれる文章で綴った母親記。

いきいきと生き抜くために

●自立をめざす女子教育―好評重版出来 1500円
●柳 淑子
福岡県の三井高校では、十年前から全校で、性差別をなくし、男女平等の社会をつくるために自立をめざす女子教育にとりくんできた。

女たちのリズム

好評重版出来 1400円

●月経・からだのメッセージ―同編集グループ編
本書は全国の13歳から80歳まで、四〇〇人以上の女たちの声をもとに、月経を通して自分自身をみつめ直すために作られたものです。

徳村 彰・徳村杜紀子

新刊

子どもが主人公

定価 一五〇〇円

子どもたちの大きな可能性を開花させた「ひまわり文庫」のすべて

子どもの村へ

定価 一七〇〇円

管理された教育の場から脱け出した子どもたちの、可能性に満ちた出発

問いつづけて

林 竹二 定価 一五〇〇円

学校教育の荒廃を乗り越える「授業」

囚われの女たち

全十巻(既刊五巻)

山代巴文庫第一期

定価各一五〇〇円

人間の生き方を問う長編書下し小説

いのちの行方

高 史明
岡百合子

定価 二二〇〇円

自死したわが子を通して人間をさぐる

季刊 いま、人間として 好評発売中!

序巻 九八〇円 一巻・二巻各一、二〇〇円
三巻 特集生き方・食い方・かせぎ方

径書房

東京都千代田区三崎町2-13-5 ☎ 03-234-4608 振替 東京1 32726

ユック舎

東京都文京区本郷2-16-9 ☎ 03-815-6549

発売=批評社

東京都文京区本郷2-6-15 ☎ 03-813-6344

●10月新刊 シリーズ・いまを生きる 7 女・家族

950円

戦後社会の変化の中で、家族はどうなっているのか。どこに向かおうとしているのか。さまざまな家族を通して、男と女、人々の絆を探る。

父親不在の家族・社会 佐々木孝次 家庭裁判所の窓口から 前澤智恵子 インタヴュー 安藤登志子 私の家族観 川田文字 / 石堂徹生 / 宗秋月 / ヤンソン 由実子 / 宿澤あぐり 手記 宮子あずさ / 門野悦生 他
ルポ・家族を生きる女たち 向井承子 座談会 永畑道子 + 齋藤茂男 + 向井承子

●バックナンバー

- 1 女・31歳 950円
- 2 女の31歳 秋山さと子 インタヴュー 田辺聖子 950円
- 3 女・うたう・かたる 850円
- 4 女がかたること 牧瀬菊枝 対談 竹内敏晴 + 津島佑子 850円
- 5 女・あらわれた性 3
- 6 『結婚愛』より 女性の生理 丸本百合子 850円
- 7 4 女・再就職 950円
- 8 主婦の再就職 桜井陽子 インタヴュー 中島通子 950円
- 9 5 女・母と娘 950円
- 10 インタヴュー 原ひろ子 対談 俵萌子 + 河野貴代美 950円
- 11 6 女・41歳 950円
- 12 女の41歳 吉武輝子 インタヴュー 根岸悦子 950円

●表紙絵・松本をさえ
●表紙・本文レイアウト・岡島三紀子
●中扉・パウラ・モーダーゾーン＝ベッカー
●装画・カット・早乙女光子・伊福部薫子・岡田正子・松本をさえ

グラビア●自立する女たち

写真・文 野村路子

ブックパワー

インタビュー●フィリピンの底辺を行く 三好亜矢子

多国籍企業に食い荒される砂糖とバナナの島

特集●成功したしつけ・失敗したしつけ

《投稿》

子離しのはなし 高宮みか

オチンチンついてるの 折笠和子

しつけに終りはないけれど 属 静

特集レポート

●母親はどんなとき子どもを叱っているか

✓どこが悪い？ 日本の子育て 田中喜美子

わいふスクラップ帖 キリヌキ菌保菌者同盟

66

57

41

33

25

20

19

10

4

ねふ

179号

コミックライブラリー 青い目の間借人 絵・西田淑子 案・米津加代子

70

わたしのえらぶ画家⑩《野村順子》 佃 堅輔

100

バリカンとウーマンリブ 橋本チエ子

73

《わいふ家庭科》

あなたの食卓診断⑤ 竹内富貴子

81

✓「妊娠中絶禁止」のホンネとタテマエ わいふ編集部

90

妻たちの蟻地獄 木下律子

102

《読者のページ》

らぶる・てーぶる

121

■随筆■対話のページ■おしゃべり

サークルだより

63

書評

88

情報コーナー

118

投稿規定

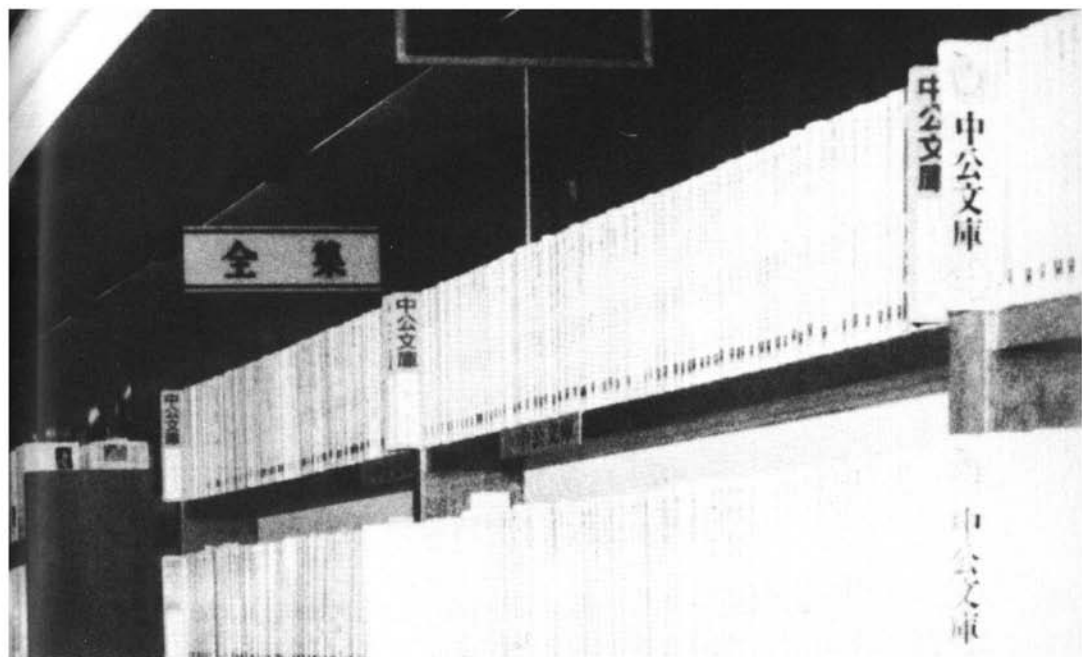
142

投稿募集

143

編集だより

144



女たち

ブック・パワー(株)

写真・文 野村路子





ミーティングで地域の書店の実情を語りあう

自立する

活字ばなれという現象が定着してしまった一方で、日本ほど出版物の数が多い国はないともいう。書店には本があふれているのに、書評欄などで見かけた地味な本は二、三軒まわっても手に入らない——奇妙な話だと思ふことがよくある。

「出版社の営業部にいた経験から、社員としてでなく、フリーの立場でのセールスが出来たらと考えたのです」と語るのは中川慎子さん（三十三歳）。本当の女の自立を考えるなら、男の仕事の補佐役としてでなく、女で出来る方法で働こうと、この二月、七人の仲間と資本を出し合って、書籍セールスの関ブック・パワーを、東京都内で発足させた。

出版界の販促競争は激しいが、その中で、ロング・セラーや文庫などの欠本調査・補給、読者からの反響や他店の販売情報などの伝達、さらには陳列棚の乱れを直したり、店員さんに話題を提供したり、女性らしいキメ細かさで、書店との信頼関係を深めている。

七人の仲間は、ほとんどが保育園、小学校に行く子供がいる。

「働くことは大事だけど、子供も大事、家庭



んな本が売れているかをチェック

も大事、地域の生活も大事です。だから仕事は話し合いの上に立って自主管理というのがたてまえ。それぞれが自分の住所を中心にエリアを決め、都合の良い時間帯を選んで書店をまわる。都内の大手をまわる人もいれば、府中や所沢の小型店に足をのばす人もいる。多い人で月に六十店、週一回のミーティングで、その結果や計画などを報告し合い、情報交換をする。

仲間に通して言えることは、読書好きとどこへでも入って行ける性格。「読まずに売めることは出来ない」と、月に二十五冊読んだ人もいる。

現在は、ある大手出版社との契約で、販売促進費をもらっているが、数社同時にこなすことも可能だし、そうなれば、ブック・パワーの推せん図書セットを組むことや、テーマによるブック・フェアの開催も出来る、と、中川さんとその仲間の夢は大きい。

その第一段階として、書評会を開き、現在ベスト・セラーの「積み木ぐずし」（穂積隆信著）など五点を「斬り」、B・Pニュース



を発行した。自分の体験や実感を通しての書評は、いわば読者側の目でもあり、書店にとっては有力な情報源でもある。

「暮しと仕事と地域とのかかわりを、夫と妻がともに共有することのできる新しい企業体は、女が創造していかなくては」と、この会社設立をよびかけた林慶子さんは言う。

さりげなくヨーロッパが香る 三井ホーム「モンブラン」



●モンブランは、完全洋風タイプと和室付きタイプ。「基本は洋風でも和室が欲しい」という方のご希望にもお応えしています。7つのバリエーションあり。それぞれ敷地の広さにあわせてお選びいただけます。

●モンブランはツーバイフォー工法。その独特の壁構造から生まれるのは、まず耐震性。一般木造に求められる基準の約2.3倍の強度。そして大幅に冷暖房費を節約する省エネルギー性。●優れた耐火性が高く評価され、木造でありながら公庫は「簡易耐火構造」扱いとなり「木造」「不燃構造」より融資額もアップ。最長30年返済なので月々の返済もラク。また火災保険料も約20%割安になります。●また、「アティック」と呼ばれる小屋裏スペースがつけられるほか、話題の「3階建」も可能です。

三井ホーム八重洲営業所

〒104 東京都中央区八重洲2-1-4
八重洲GMビル3F(電)03-281-3131

ねふ

179号

愛すること

考えること

働くこと

育てること

楽しむこと

たたかうこと

それらの

どれかひとつではなく

どれも

大切だと思っている

あなたへ



インタビュー

三好亜矢子

フィリピンの底辺を行く

多国籍企業に食い荒される砂糖とバナナの島

「先日、日本のある大きな調味料会社の広告を目にしたんです。その調味料の原料がフィリピンの砂糖きびだということ、背景にはあくまでも美しいフィリピンの風景が広がっていました。そこからは、その裏で働く労働者たちの貧しく悲惨な生活などまったく見えはこないんですね」

フィリピンのスラムや農村を歩き、社会の底辺にある人々の貧しさに接し

てきた三好さんには、そんな広告のうしろに、フィリピンの砂糖きびプランテーションで出会った人たちの姿が二重写しになる。

三好亜矢子さん、二十六歳。長身。すらりと伸びた脚をジーンズに包み、白粉っ気のない顔にショートカットの髪。まだ学生、といった風情だ。

昨年七月、二年間のフィリピン滞在を終えて帰国。スラムでの生活や各地

での体験をまとめた『フィリピン・レポート』（女子パウロ会刊）を出版した。現在は『イビル・イビルの会』代表。「青い海、緑のココナッツ」といった観光・レジャーの対象としてのフィリピン——そういったフィリピン像の裏に息づくふつうの人々の生活に関する情報を伝えようと、機関紙『イビル・イビル』を編集している。

WSCFの調査員として スラムに飛びこむ

——フィリピンにいらした動機は。

▼学生時代から社会問題には深い関心を持っており、アムネスティ・インターナショナルの活動などをしていました。アムネスティ・インターナショナルは囚人の人権擁護を目的とする国際的な組織で、私にとっても、広く人権一般を考える基盤となりました。それらの活動を通して、WSCF（世界学生キリスト教連盟）がFII（フロンティア・インターシップ）というプロジェクトにおいて、フィリピンで調査活動をする日本女性を求めていることを知ったんです。膨らんでいた東南アジアへの関心を満たすためにも現地に飛びこんでこの目で見るのが一番と思い、そのプロジェクトにアプライしました。アムネスティでの活動という背景、社会問題への関心の深さ、健康なことな

どから採用されました。日本人では一人だったんです。

WSCFとは、単なる個人的魂の救済ではなく、社会変革——彼らのことばで言えば神の国の実現——のために、クリスチャンとして関与できる方法を模索している組織である。FIIは、世界各国にメンバーを派遣して最低限二年間はそこにとどまって調査活動を行わせるプロジェクトだ。例えば、南米の軍事政権、南アフリカのアパルトヘイト（人種差別政策）の調査など、常時十六人ほどが世界各地で活動している。三好さんに課せられたのは、フィリピンにおける農村の問題、米軍基地周辺の売春婦の問題、大企業や多国籍企業の実態の調査などだった。滞在費と手当（月二百ドル）を支給され、調査報告書を提出するのがしごとである。

——フィリピンに着いた当初はどんな印象を持たれましたか。

▼貧しい国だという先入観があったのですが、最初泊ったところは観光客がよく出入りするようなところで、『意外にきれいで近代化されたところもあるんだなあ』と思ったくらいです。人口が集中している都市は活気に溢れ、人々も人なつこくて親切で、恐怖感を持ちませんでしたね。日本に対しては『技術先進国』『繁栄している国』といったイメージを抱いていて、『日本では十二歳ぐらいの男の子でもカメラ一台を組み立てるんだって』という話をよく耳にしました。

——はじめ下宿された上流家庭はどんな風でしたか。

▼父親はミンダナオにプランテーションを持ち、息子はパイロット、娘はマカラン宮殿に勤め、母親は専業主婦という、上流の下くらしい家庭でした。洋間、床は大理石まがいでツルツルに磨かれ、ピアノがあり、トイレは

水洗でビデ付き。メイドが二人に庭師、運転手もいましたね。

そのあと、三好さんは東南アジア最大のスラム、トンドに飛びこんで、住民たちと寝食を共にした。

三好さんの住んだドゥーロ村には、つぎはぎだらけの家屋が密集し、六千人くらいの人々が一ヘクタール足らずのところにひしめき合っている。水道の蛇口が村の入口に一つあるきりで、村の中に設置された十基のタンクの水も不足しがちなので、個人の水売りから買ったりする。トイレは板で囲われ、大小の小石がばらまかれていてだけ。海に面したところでは、海に突き出してかけられた小屋から二メートルほど下の海面に向けて用を足すという豪快なものもある。

道は、水汲み中にはねた水や家々からしみ出た汚水やらで、いつもじめじめしている。

▼やたら多い蚊と、暗がりそのそ歩くどぶねずみにはまいりましたが、スラムの人たちは皆、私にとってもよくしてくれました。

三好さんは、自分の手当の中から下宿代を払って、一年半の間トゥビロー家に世話になった。

▼トゥビロー家の生活程度は、スラムの中ではかなりいい方に入ります。トゥビロー氏はサリサリ・ストア（なんでも屋）をやっていて、三人の子供のうち下の二人は高校に通っています。スラムでは小学校にも満足に行っていない子供が多く、そういう子供たちは町へ行って物売りをしたりしているのです。

食事はごはんが主で、おかずは、真中の器に盛られた一匹の魚とか、スープの中にぼつんぼつんと浮んだささやかな肉とか、一つの卵とかを皆で分け合って食べます。

ある日、あちこち飛び回って腹ペコで帰ってきた私は、皆で分け合うべき一尾のバグースのフライを、遠慮しながらもついつい全部平らげてしまったのでした。でも誰も文句を言わず、『アヤコ、今日はたくさん食べて良かったね』と言ってくれた。

――電気は来ているのですか。

▼メーターを取り付けるのにお金がかかるので、皆、本線に針金をつけて電気を盗んできています。インスペクターにはわいろをあげて見逃してもらっています。

――電気製品は。

▼冷蔵庫を持っているのはサリサリ・ストアを経営している家くらいですね。テレビやラジカセなどは意外と持っています。出稼ぎに行つて稼いだお金で買いこんでくるのですね。

ガスは来ていません。煮炊きはトゥビロー家では石油コンロを使っていますが、石三つ並べただけのかまどといったたぐいのもあります。



マニラ市東部のサンタ・アンナ
池の上に浮ぶコミュニティ

お風呂はありません。買ってきた水をかぶったりしています。

かといって、スラムは決して陰惨な場所ではない。

▼仕事のない人達が昼間からぶらぶらしていて、スラムの中にはにぎやかです。スラムの住民のすべてが、名もなく貧しく美しくの精神で生きているという気はありません。私の印象では、しんどいだけで割りの合わない正業と呼べるものに就いているのは五割程度。漁師、ジーンズの仕立て屋、キャパレーやクラブのウェイトレス、ウェイター、ガードマン、バタ屋、露天商、タクシーやジプニーの運転手、船員、サリサリ・ストアの経営者、二、三流どころの歌手、ボクサー、沖仲士、タバコや新聞やお菓子の街頭売り、土方、お巡りなど。あとは皆、堂々たる非法手段で生活の糧を得ています。すり、強盗、ギャング、かっぱらい、万引き、

空き巣、売春、故買屋、ギャンプラーなど。

子を次々と売っていた母親もいました。

企業に収奪される人々

——ネグロス島の砂糖きびプランテーションに十日ほど滞在されたそうであるが。

▼フィリピンの砂糖つぼとして知られるネグロス島には二―三千を数えるプランテーションがありますが、これらのプランテーションは実際にはたった六つのファミリーによって牛耳られているということだ。

労働者の平均賃金は一日約十ペソ(三百円)。食べるだけ(ごはんだけでおかずがあるのはたま)で精一杯、働いても働いても借金だらけの一生です。

こんな例をお話しましょう。

父親は作業中に砂糖きびで目を突かれて失明し、プランテーションからお払い箱になりました。娘さんは幼い子

供二人を相次いで病気で失い気が狂ってしまい、その妹さんも病気ですが医者にかかる金もなく病床に伏したきりでした。私がマッサージをしてあげると、彼女の夫がお礼として二十五センタボ払うと言うんですよね。その人、賃金が六ペソ(百八十円)で、目の見えないしゅうと、気の狂った義姉とその子供、病気の妻と三人の子供全部を養っているんです。それが私のつたないマッサージに対して誠意を持って答えようとしたことに、すごく心を打たれましたね。

そういう人たちが四十万人を使って、六ファミリーが巨万の富を積み上げているって事実があるんです。

——その六ファミリーはネグロス島のプランテーションの持ち主というだけでなく、もっと大きな勢力を国内に持っているのですか。

「ええ、中には、かつて駐日大使を出したファミリー、また、知事をつとめているファミリーなどもあり、社会の

上層部を形づくっています。ちよつとやそつとではびくともしない強力な支配体制の下で、労働者たちは貧困と抑圧にあえいでいるのです」

——砂糖労働者たち、あるいはスラムの住民たちは、自分たちの置かれていく状況に怒りを感じてはいないのですか。

▼感じています。「どうして自分たちの食うものと地主の食うものが同じではないのか。神の前では皆平等ではないのか」と言っています。

ただ、自分たちを社会の底辺に置いている社会構造のからくりに対する認識や、人間の尊厳、自分たちの権利といったものへの目覚めがない場合は、自分たちの境遇を運命的なものと考えがちだし、宗教の教えがネガティブに働いて社会構造を維持する方向に向かってしまっている。

『働いても働かなくても同じだ』というあきらめの気持もある反面で、『こうしてまじめに働いている限り、神様

は悪いようにはなさらないだろう』という素朴な期待感が慰めの抛り所ともなっています。

スラムの人々は、彼らなりに一日一日を楽しく暮す技術にたけていて、パ一と騒いだりおしゃべりに興じたりして発散していますね。

組織化が行われているところでは、社会構造に関する教育も行われており、そういうところも徐々に広がりつつあると思います。

NFSW（全国砂糖労働者連盟）のリーダーにアクティブな神父さんが出て、地主たちからは『共産主義者』として排斥されていました。地主たちは彼がプランテーションに出入りするのを、ガードマンを使って追い出そうとするのです。

農民たちの権利を守るために尽力した宗教家が軍服のグループに殺されたり、組合のリーダーたちが獄につながれたりもしているという。



ドゥーロ村の子どもたち

——こういった状況を変えていくにはどうしたらいいのでしょうか。

▼宗教はもろ刃のやいばですね。宗教がネガティブに働いて社会構造を維持する役割をしている場合の方が多いかも知れません。

でも、一九八一年、ヨハネ・パウロ二世が農村を訪れ、とてもすばらしいことを言ったんです。『土地はすべてのものへの神の賜物。額に汗して働く人々が将来の希望を持つことがまったくできないような状況は許されるべきではない』と。これは一大原理だと思います。最終的には人間の善意を信頼するしかないし、社会変革あるいは正義の具現に神の意志があるんだと信じるしかないんじゃないんですか。

——しかし今までにそういう風に宗教が働いて社会構造を変えたことがあるのでしょうか。

▼これまではなかったけれど、これから先はわかりません。百年後、二百年後にどうなるか。

三十年前なら、三好さんのような女性共産主義者になっていただろう。しかし彼女は共産主義に夢を持っていない。

▼フィリピンのような社会では、一方に独裁政権、他方では共産主義しかないんだという状況に追いつめられていくわけですね。が、共産主義も別の独裁体制になっていく。人々がこういった二者択一を迫られる状況に追いこめられていくというのはほんとに悲劇だと思います。

——実際に現地に入りこんで見てもらったあなたの見通しはどうですか。

▼神の正義は実現されると思います。いつかはわかりませんが。

ともかく、誰かの犠牲の上に誰かが幸せになるという社会構造は許されないわけで、こういうことのない社会、ある人はそれを神の国というのですが……の実現のために、私なりに関与したいと思っています。

私たちの豊かさを支えるもの

——私たちは具体的にはどういう形で関与できるのでしょうか。

▼それは、生き方すべてに関わってくるんじゃないでしょうか。何を食べ、何を着、何をして食いぶちを得るか。

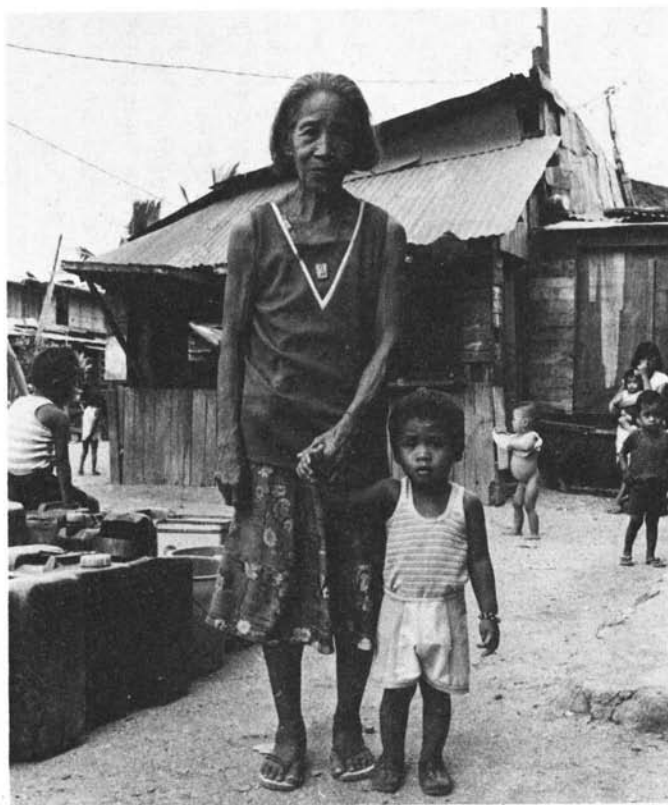
例えば、私たちは、自分たちの食べているものがどんな人たちによってどのようにして作られているのかに無関心です。日常何げなく食べているバナナにしても、その裏にある先進国と第一次産品の供給者である第三世界の人々との関係が見えてこない。そのバナナが、彼らの土地で彼らのためにではなく私たちのために作られているというところ、そしてそれを作するために、フィリピンの労働者たちが農薬づけになっているという事実が見えてこないんです。私たち消費者はするように見えなくされているからくりを知らなくてはならないと思います。

フィリピンの森林にしても、日本の

復興のためにほとんど使い果たされ、
今ではもう値打ちがなくなっちゃった。
すると、さらにパプア・ニューギニア

の方まで手を伸ばし、『あそこのジャ
ングルを一山』といった感覚で買いつ
けていき、その後の植林の努力などぜ

ドゥーロ村の祖母と孫



口に等しいですよ。

ミルクにしてもそうです。母国語も
満足に読めない母親たちに、イラスト
入りだから大丈夫というわけで、先進
国の文化の象徴みたいに送りこむ。煮
沸消毒しろって言ったって、石三つ並
べたようなかまどの生活で、消毒も何
もあつたもんじゃないでしょう。

先進国企業の第三世界の国々への関
わり方は、ただ自分たちの利益のみを
考えたやり方のように思えるんです。

私たちの豊かな生活が他国の資源の
上にのっかっており、第三世界の人々
の貧困の上に築きあげられているとい
うことを、知らなくてはならないと思
うんです。

私たちにできることは、例えば、消
費者として大企業を利さないようにす
る。使い捨て文化を一掃し、地球レベ
ルで資源を大切にすることを考えるな
どです。

また、『イピル・イピル』でやって
いるように、フィリピンのふつうの人

々の生活を取りあげて新しい側面の情報を流すことなども意味があると思うんです。まず、知ること。知らなくて行動は起せませんから。

——大企業で支えられている今の社会構造を変えられと思いますか。

▼思います。最終的には、地方自治的な小規模レベルの自給自足の共同体を作りあげてを考えるべきです。

今のところは、日本人が日本人の国土に合わせた生活のレベルに落とすこと。そのためにも、まず、自分たちの手で自分たちの食料を作る方向に持っていかなないと……。

——大企業優先の社会、後進国搾取はいけないと言っても、ではどういう風に変えていくのかという見通しを立てることは容易ではありませんね。

▼難しい問題ですね。私たちは最低限、第三世界の問題に関しては邪魔をしないこととしか言えないんじゃないでしょうか。彼らの運命は彼らに帰すべきですから。

三好さんは、皆が捨てた衣類しか着ない。肉も、多くの飢えた人々を養えるだけの飼料をつぎこまれて作られているものだから、と言って食べない。「第三世界の飢えと貧困を踏み台にして限りなく欲望を肥大させられている私たちのすべてが、今、生活のすみずみを総点検することを求められているのではないのでしょうか。自分自身の生活の中身を変えていくこと、これがいちばん遠回りのようにいて、私たち自身が、また、フィリピンの人々が、ともに人間として豊かな生活をおくることができる仕組みを作り出す、最も着実な方法のように思います。豊かさを分かちあうのではなく、貧しさを共有することがすべての道の始まりのような気がします」三好さんは自著『フィリピン・レポート』をこう締めくくっている。

(まとめ・片山美奈子)
(写真提供・長倉 徳生)

月刊

森の教育

12月号

発売中 / 定価480円

発行●毎日新聞社

特集

教員採用そのウラオモテ

●福永勝也

今、こんな学生が採用される!

●天野隆雄

これで、よい教師は選べるか

●新連載

新連載・これでよいのか

千葉の教育

日の丸校長の生まれる背景

●新連載

鹿住釈子

母子フランス留学記「ぼくは日本へ帰らない」

■今日の理工学レベルではIBM事件は起こるのもふしぎでない……鈴木真一

■私はこうして担任をはずされた(愛知)……………館崎正二

成功したしつけ
失敗したしつけ

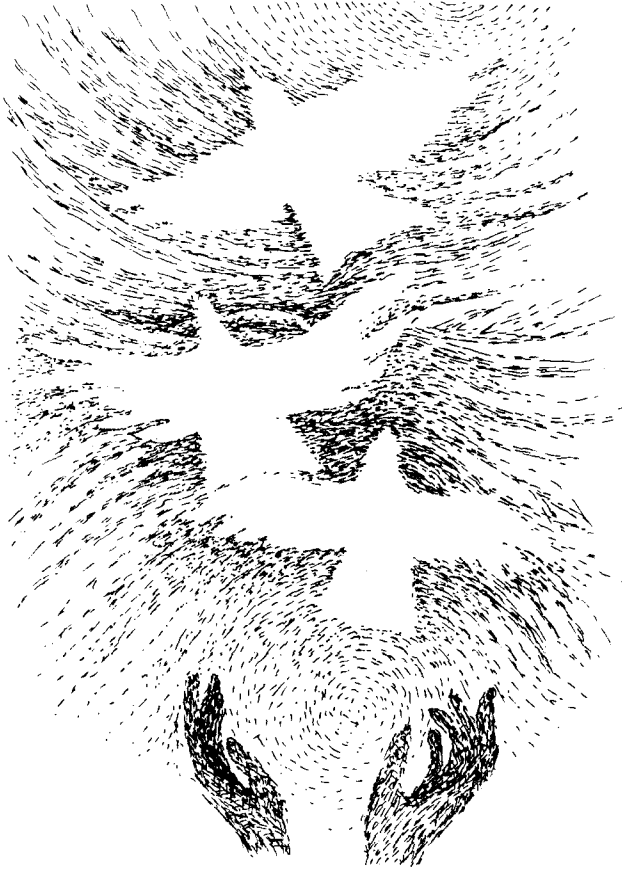
179号特集



パウラ・モルダーゾーン＝ベッカ・

子離しのはなし

高宮 みか
(大阪府豊中市)



環境をハングリーにして

子供を育てている人、育てたことのある人なら、誰しも自分の問題としてぶつかったことのあるこの「しつけ」について、では経験を語ろうとすると、これがまた大変な大問題である。行儀やあいさつ、毎日の習慣や社会のルールなど、一通りのことはしつけたつもりになっているが、さて客観的にみたらどうだろう。

毎日の習慣一つをとってみても、親自身の生い立ちやしつけられ方によって、さまざまなしつけがなされ、ものによっては善・悪などの価値観とともに、しっかり教えこまれている。なにを基準にした善・悪なのかなどと考えるはじめると、しつけをしたはずの自分自身、わけがわからなくなってしまうそうである。そこで親の人生観、世の中のしきたり、自分の生い立ちや理想、子供への期待などがごちゃごちゃにある中で、自分なりに何をしつけの柱に

特集投稿

してきたか、ふりかえってみることにする。

まず思いつくことは、現在のような恵まれた時代に生れ育つ子供たちに、どうやってハングリーな状況を作つてやるか、である。逆説的に聞えるかもしれないが、このことは私が自分の子供をできるだけ年齢的に接近させ、親（私）の面倒のゆき届かないよう希望したところから始まる。結果的には三人の子供は二年六カ月の間に生れており、育児は私一人の手で行った。私一人などと偉そうに言ったが、頼れる親類縁者が子育ての間、近くにいなかった、という意味である。子供たち三人は年子だが、私自身の兄弟は、嘘でなく五人年子である。だから、間違ひなく私の子育ての中に自分自身の兄弟のイメージがだぶっている。

おやつ分けかた、おもちゃの与えられかた、大人の手のかけかた、すべてが制限さ

れていたわけで、終戦直後に子供時代を過した私には、あのなつかしくも良き時代が規準である。クリスマス・プレゼントに入っていた、マープルチョコ、コレートの赤やみどりの一粒一粒を、数え数え食べたあのおいしさを子供たちにも味わわせたい。一年にその一回だけは欲しいものが買ってもらえた誕生日プレゼントを何年も何年も大切にしたこと、その一つ一つをまだ覚えてい

ること、そんなよろこびを教えてやりたい。

子供たちに、なにを、どう“与える”かはとても日常的でありながら、大切なしつけの材料であると思う。八歳になる長男にクリスマスと誕生日プレゼントが遅くなってしまった罪はろぼしをかねて、顕微鏡をプレゼントしようとしたしゅうとと、私はやり合ったことがある。子供の要求や興味がまだそこまでいっていないのに、ぜいたくである上に、自発的に育ってくるかもしれない芽をつむことになる、というの

が私の考えであり、しゅうとはその逆であった。環境によって育ってくる芽を期待したらしい。ハングリーな状況の中での方が、子供自身も自分の中に生れ育ってくるものを見分けやすいと思うし、経済的な意味でも先にまわって環境を作つてやろうとしてもキリがない。第一に親の私達が力不足である。高校生になった息子には、本当に大学へ進みたいと思うなら月謝は出してやる。その代り公立に限るところから宣言してある。これが塾よ、家庭教師よと頼んで勉強してもらっていたら、今ごろ金属バットをふり廻されていたかもしれないことを思えば、安心して眠らせていただいている分だけ、しつけは成功だったといいたい。

年子三人おだてあげ

子供を褒めてもらったことで、まだ覚えていることがある。もっとも相手は「お宅の子供さんたち、各々個性

ね」と鼻の上を向いたのや、目尻の下がりすぎたのを見ていっただけかもしれないが、私はうれしかった。その子、その子に別々の目を向けてやる。その子その子のいうことを聞いてやりそれに答えてやる。これが私の心してきたことで思い浮かぶ第二番目のことである。

男の子だから、女の子だから、あるいはお兄ちゃんなのに、小さいくせになどと子供に向かっていうのは嫌いだ。第一に我が家の子供たちの年齢差は生長の誤差範囲と思って育ててきた。が、そうはいってもオンブにダッコ、の時代、ヨチヨチ歩きの高男にスカートのすそを持たせて「いいのね、しっかりつかまって！」などと夢中で過した頃、つくづく一番上の子に頼っている自分に気づいた。今でも「貴方は我が家の燈台だから」と照れ笑いでごまかしているが、母親の初体験は全が一番上の子と一緒に背負い込むことになっていくのである。

次男はおやつでも兄貴と同じかそれ以上口に入れてきたし、長女はキャッチボールが男の子のようにうまい。中学生になってからの話だが、数が足りない近所の中学生に呼びにこられ、ソフトボールの仲間入りをさせてもらった時、「女だからって油断するな」と男の子たちが守備範囲をじりじりと広げたのを目撃した時は、さすがの私も自分の育児に自信を失いそうになった。

失敗をあげればまだまだいくつでも出てくるのだが、それでも年齢の接近している子供達の競争心やしつと心をこの手で随分うまく処理したと思う。運動会で一等賞をもらってくる子、こない子、作文で賞められる子、絵のうまい子、その度に「ママうれしいわ。ママのお腹から生れた三人が、それぞれ自分の得意なことでごほうびももらってきてくれるから、みんなママの自慢になっちゃう」などというとき、今度は僕が……ワタシが……という顔で納得

している。喧嘩仲裁もその手でやる。「二人とも、いい加減にしなさい！どっちかがどっちかを大ケガさせた」とすると、ママはケガ人の息子と犯人の息子のために、病院へ行ったり警察へ行ったりしなきゃあならないじゃないの！」などというと、これもちと気の毒だと思うのかシラけて止めてしまうようである。双方の言い分も聞いてやるとしまいに説明するのが面倒にでもなるのだろうか、兄弟喧嘩も少ない方だったと思う。

親にしみつきめられているという安心感から、自分の行動の責任を感じてくれれば、とこれは親の一方的な願いなのだけれど……。

・母親・役者を下りる時期

ここまで書いてきたがどうも、しつけ・という言葉が、私にもう一つピンとこない。行儀・作法に限定したものをしつけというのであれば、私のいう

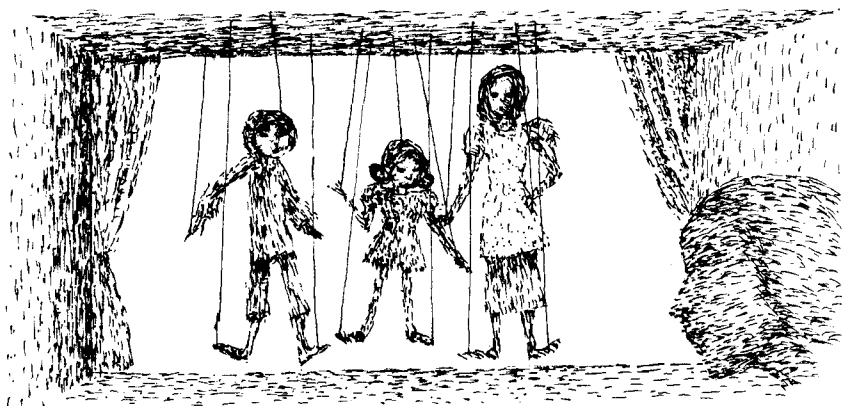
特集投稿

しつけはもつとずっと広い意味で、育てるといいなおしてもよいぐらいである。育てられる子供は、日日成長する。いわば主役は変ってゆく。主役が変化してゆくのにはワキ役が常に同じでよいというわけにはゆかない。

私は、母親役を演じてきた、とあえていいたい。

役者のことは全く知らないが、演ずるといふことは、役柄の自分と本当の自分との距離を感ずることではないかと思う。完璧な母親を演ずることもあれば、駄目親役で、子供をばげましたりもする。そして知らず知らず役柄の自分から多くのことを学んだ。育てながら育てられているのである。

舞台の上の主役（子供）と演じている自分、観客席からそれをながめる本当の自分、この点を結ぶ三角形は、時に伸びたり縮んだりしながら、いろいろな役をこなしてゆく。子供を育てる醍醐味はそんな



ところにあるのではないだろうか。

私はいろいろな母親役を演じてきたが、近頃では、そろそろと母親役おとりて、地を出している。三角形も二点を結ぶ直線になることが多い。一対一の対等なつき合いは、演ずるものではないのかもしれない。

子供たちが幼い頃、ママは優等生で通信簿はあなたたちよりよかった、とでたらめを言っているうちに、自分でもすっかりその気になっていった。先日、私の実家の物入れをひっくりかえし、子供たちと一緒に私の通信簿をさがし出し、引っぱりっこでながめてみたら、思っていたほど良くなって子供たちと大笑いをした。やっぱりどこか信用できない、という顔をされたが、信用されていない分だけ、荷が軽いような気持であり、子離し、親離れの準備万端おこたりなし、と内心はくそえんだ。

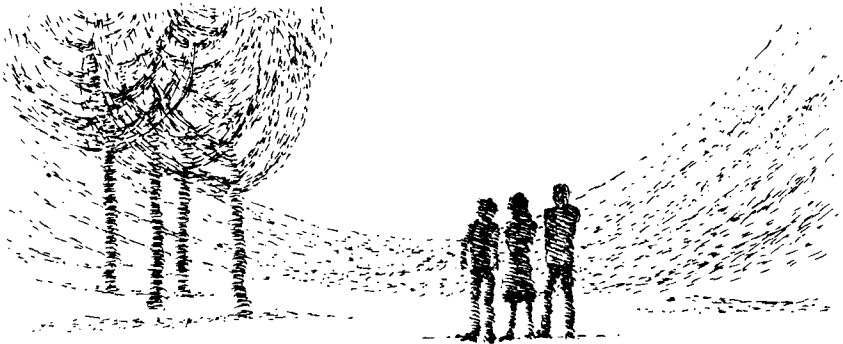
今年の夏休み、私たち夫婦だけで十日近く家を空けた。軽井沢の友人の別荘でテニスをし、昨年まで住んでいた

東北の友人たちを訪ね、関東へ下って墓参りや、老いた父を見舞うなど盛り沢山の内容で、二千五百キロの車の旅である。子供たちも誘ったのだが、それぞれ理由をつけて断られた。高一の長男は吹奏楽のコンクールをひかえているからという。中三の長女は受験生で、それではあんまり優雅な夏休みすぎるといふ。中一の次男は五日も先に友人と海の家に行く計画だった。海の家は私の妹のところだが、大阪から千葉の館山まで、まだ一度も親がかりでない旅を経験したことのないともだち三人を引っぱって行くのだという。東京までは夜行バスの切符を買ってきた。

軽井沢ではばっちり台風と重なってしまった。電気は消え、水道は止まり一時は電話も不通となりさんさんだったが、事件のない旅行は味気ないし、子供たちからは解放されているので私たちの気分は上々であった。長男は思ってもみなかったコンクール入賞を果

たし、その興奮さめやらず、友人宅へ外泊初体験となつたらしい。留守番の長女のところへは夏休みの応援訪問と称して突然担任が訪れたという。「うまくいったくてくれた？」とあわてて問いつめたが「先生、知ってたよ。私、友だちにママは旅行中だと言ったからね」と落ちついていふ。私は電話で事後報告を受けるたびに、青くなったり赤くなったりした。しかし、夏休みも一段落し、家中が顔を合わせた時、各自がそれぞれ自分の責任で行動した満足感がお互いの間にただよっているようだった。

「しつけ」おわりがみえてきて、私は今、自分の未来が大きくふくらんでくるような気持ちでいる。子供の年齢が十五、十四、十三歳では、ちと気が早すぎるだろうか。受験、進学、恋愛、就職、結婚。それらはみな彼ら自身のことである。私の母親としての役目で残っているのは、邪魔しないことぐらいかなと思つていふ。



おチンチンついてるの

折笠

和子
(神奈川県横須賀市)



幼児期は体罰

三歳違いで上が現在大学院一年の息子、下が看護学校三年の娘、しつけがよかったにせよ悪かったにせよ、もう出来上ってしまった。ふりかえると、よくまあ非行もなく落ちこぼれもせず、ここまできたなというのが実感だ。

私のしつけは、あまり模範的とはいえない。私自身も未熟な母親だったから、カーッとしてハチャメチャに感情的に怒ったりもした。子供を育てる過程で少しずつ勉強させられ、一緒に成長してきたと思う。いろいろあったその一つ一つにどう対処したか、今に至っても忘れないで残っている思い出を書いて、今子育ての最中のお母さんの参考になればと思う。

わが家では、子供をしつけるのはほとんど私の役目だった。夫は典型的な無責任父親で、子供が何か悪いことをしていると「ホラホラそんなことをす

ると、またお母さんに叱られるよ」といった調子で私に下駄を預け、自分で叱ろうとしない。だからコワイのはお母さん、優しいのはお父さんで、普通理想とされるのと正反対だ。そういう夫の態度が気にいらなくて抗議したこともある。

私は理想主義だから日本では子供を甘やかすが外国ではこうだなどと読むと、そうだそうだその通りと早速実行した。例えば電車やバスの中で大いの人の子供優先に座らせるが、私は、自分が座って子供は立たせた。「子供は元氣だからいいの。大人は年とってのから疲れるの」と言って……。

道に紙くずを捨てないようにというのも小さいときから教えた。お菓子を食べたあとの包紙や袋など、すぐ道ばたにポイと捨てる子がいるが、近くの家のゴミポリバケツに入れるか、見当らないときは家まで持ってくるようにと教えた。情けないことだけれど大人でも平気でやる人がいる。自分の家や

周りはきれいにするが、他人の家のそばや道は汚しても平気な人が多い。

わが家は谷戸といわれる谷の奥が行きどまりになったような低い山の中腹にある。田舎と同じで、蟬とり、木登りなど山遊びができる。自然に恵まれていて、それはいいのだが、子供達は、よその家の敷地内に無断で入ってくる。ちゃんとフェンスの柵があつて門の扉もあるのに、勝手に開けて入り、裏の山へ行くのに柵をのり越える。

私が家にいるときは、門がガチャガチャいうと窓をあけて、わざと「何か用なの」と睨むから、あきらめてコンコン帰っていくが、留守にすると門は開けっ放しにされ、畑は踏んづけられ、金魚のいる池に棒が突っ込んであつたりする。

息子には、よその家の庭に入つてはいけない。ボールが入ったり、どうしても通りたいときは「小母さん通らせて」と断つて許しがあつたらありがとうと通らせて貰いなさいと言つてあつ

た。息子はそれを守つた。あるとき、近所の奥さんが「小母さん通らせて、というのはお宅の子だけよ、あとはみんな知らんふりして通るんだから」と言つたのでうれしかった。

小学校の頃までは、約束を守らなかつたり親に向つてゾンザイな口をきいたり、自分勝手な口ごたえをしたときは、私は本氣になつて怒つた。主にモノサシでお尻を、ときにはほつぺたに張り手、ゲンコツで頭も、容赦なく引つぱらいた。子供に理屈でわからせようとしても駄目だ。ことに小さいうちは、悪いことをしたとき、すぐピシッと叩くのが私のやり方だった。だから息子は今日に至るまで親に向かってウルサイなどと一度も言つたことがない。小さいときから、そんなこと言おうものなら、えらい目にあうぞという雰囲気があつたから。

息子は小学校へ上がる一年前、風邪をこじらせ気管支喘息になつた。母親が厳し過ぎたり過干渉だと精神的なも

特集投稿

のから喘息になるという説もあり私も
気になった。ともかく喘息をなおすた
め身体を鍛えなくてはと小学校入学当
初は勉強の方はさておき、ノビノビと
遊ばせた。

学力で勝たせる

ところが一学期の通信簿はオール3、
3なら中くらいで、まあまあだけど、
もう少しいいだろうと期待していたの
で、がっかりした。二学期になると、
さらに2が三つもついて慌てた。個人
面接で受持の先生に、授業中、集中力
がなくて落着かない、おうちであまり勉
強もしてないようですねと言われ、こ

れではいけないと思った。

それから少しずつ家で復
習をみてやったそのせいかど
うか勉強の方は三、四年にな
る頃にはよくなった。ところ
で、息子は性格がお人よしで、
人に意地悪をされたりヒドい

ことをされても怒ってやり返すという
ことがない。ただ迷惑そうにやられっ
放し、雨の日に新しく着せてやったレ
インコートに傘の先で泥を塗りたくら
れてきたり、通学途中のドブ川に手提
カバンをほうり込まれたりしてくる。

「なんでそんなことされて黙ってるの
よ。やり返してやりゃいいじゃないの」
「だって向こうの方が強いんだもの」
「お前それでも男なのっ、おチンチン
ついてるのっ」「うん、ついてるよ、
どうして？」息子はキョトンとしてい
る。ああ情けない、勝気な私は頭にく
る。

あるとき、学校で絵の時間の終りに、
ひとのパレットを間違えて洗ったら、
「なんで人のものいじくるんだよ、謝
れ」と怒って、しつこくつけ回し、帰
路に駐車中の自動車の下にもぐれなど
と言ったという。自分のパレットを洗
って貰ったらサンキューとお礼をいっ
てもいいくらいなのに根性曲りという
か、いじめっ子は何でもいじめる口実

にする。

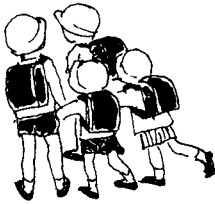
私も不安になった。親が子供の争い
に、いちいち口を出してはいけな
いと言われるが、そんなこと構ってい
られるかと思っただ。あまり不当なこ
とをされて黙っていると、だんだんエス
カレートして怪我でもさせられたら馬
鹿をみる。災難は未然に防がなくては
と先生との連絡帳に悪ガキのことを、
こと細かく書いて知らせ、注意して貰
った。これは効き目があった。

あまりやられっ放しの頃、私はこう
言った。「お前ね、勉強もできないし、
ケンカも弱いから、馬鹿にされてや
られるんだよ。勉強ができるか、ケンカ
が強いのか、どっちか一つよかったら、
やられないよ」ずっと後になって「お
母さんの言ったこと本当だね。僕、こ
の頃勉強ができるようになったせいか、
やられなくなったよ」と息子が言った。
近所に一年上の男の子がいて、これ
が、私や親の前では見せないが、陰で
は相当悪ガキぶりを発揮するらしい。

「お母さん△△君たらね、牛乳配達のお兄さんに向かって、デブデブと言ってからかうんだよ。僕ビックリしちゃった」と息子がいう。「フーン、悪いね。大人にそんなこというなんて不良少年のすることよ。アンタは真似してやっちゃ駄目よ」

そのときはなにげなく言ったのだが、息子は別なことでその子に意地悪されたとき、口惜しまぎれに不良少年と言ったらしい。それからというものの徹底的にいじめられ、いやがらせをされた。

遊ぶときはもちろん朝の集団登校のときも仲間はずれにされた。途中踏切があるがチンチンと信号が鳴り始めると、ソレッと渡ってしまつて息子一人を置いてきぼりにする。私は信号が鳴ったら絶対渡ってはいけないと教えてあった。息子はベソをかいて一人トボトボ学校へ行く。班長の上級生がいたが、これが頼りにならない子で一緒になつていじめから話にならない。班長は下級生をまとめて面倒をみて集団



登校するきまりなのに。

たまりかねて、意地悪をやめるように親にわけを話して注意してくれるよう頼んだ。すると、うちの子に不良少年などと言つた息子の方が悪いみたいと言われた。私は二の句がつけなかった。いじめられる原因が初めてわかったのだ。

向こうは聞えよがしに自分の子に「△△、学校に言いつけられたら困るから、もうやるんじゃないよ」と言つた。私も口下手で、もう何と言つていいか頭が混乱して、なすすべもなく引き下つた。後に「あの頃お兄ちゃん可哀そうだったね、よく泣いて帰ってきたね」と娘が言つた。

息子は生来、明るく楽天的で物事を暗く思いつめない子だからよかったが、そうでなかったら登校拒否児になつたかもしれない。

後で思つたことだが、その子をうちに呼んで息子と一緒に菓子でも食べさせながら、「うちの子が不良少年な

特集投稿

んて言って悪かったね、もう意地悪しないで仲良くしてよ。アンタも年上なんだから下級生のお手本になるように悪い行いはしないでね」と言えば解決したことなのだ。そのときは、そんなこと思いつきもしない駄目親だった。

こういうこともあった。夏休みに地区の子供会行事で鎌倉方面の神社やお寺巡りをした。私は都合で行かなかったが、役員のお母さん達が連れて行った。見る見ないは自由だったが拝観料をとられるところで、例の△△君と班長の上級生が、お前出しとけと言って息子に払わせ見物したが、それっきり知らん顔してお金をくれないという。

「アンタがおごとと言ったの?」「違うよ、立替えたただだよ」それじゃ小母さんのいるところでそう言っ返して貰ってくればいいでしょ」

そういうわけで息子は二人の子の家へ行って返して貰ってきた。班長の子の方は、あ

っさり返してくれたが、△△君の方はやはり一言あった。「小母さんがね、僕のお母さんはすごいねと言ったよ。何のこと?」と息子が言う。またかとうんざりした。こういう親だから、あんな陰ひなたのある陰湿な子に育つのだなと思った。私だったら、「あらそ

うだったの、悪かったわね」と言っただけで済む。他意なく返す。それを、まるで子供を使っ取り立てにくるすごい親、と言わんばかり、本当にいやになる。

小学生のうちは親になにがしかのおこづかいを貰ってる身だ。おごったりおごられたりなんて早い。買食いのときもそうだ。私は常々そう言い聞かせていた。どうしてもそういうところから悪いことをおぼえる。タカったりタカられたり、タカられた方は今度は自分が年下のものをおどかしてタカるようになる。そういうことに気がつかない親は困る。子供がおこづかいで何を買い、どんな使い方をしているか無関心でいると万引きなどということにな

るかもしれない。

暴力は柔道で受け

四、五年の頃、柔道を習いに通わせたことがあった。あまり不当なことをされたとき、男らしく対決する自信というか根性がついてくれればいいなと思った。息子は面白いらしく喜んで道場に通った。おぼえたからといって人にやたら使ったりしてはいけないよと言ったが、その心配はなく、受身をおぼえて、学校で友達にこわれるままにやって見せたり柔道のおかげでもてて、クラスの人気者になった。

ところが一緒に習っていたよその学校の子が、道場の帰り、時間的には、七時頃になるが、食べ物屋やゲーム屋に、おごるから寄っていいこうとしつこく誘うという。「僕いやなんだ。早く帰りたいから」と息子。それを聞いて、これはよくないなと思った。どうやら共働きの家庭の子で、親が与えるのか、

小学生には不相応にお金をたくさん持っているらしい。

復習をみてやるのも、算数など親の手におえないほど難しくなってきたし、そろそろ塾へでも行かせなくてはと考えていたのでこれを機会に柔道はやめさせた。一年くらい通っただろうが、息子も大して執着せず、あっさりやめた。

中学時代、息子と同じ塾に通っていた子が、自分をよく見せたいばかりに、何も知らないよその学校から来てる子にデカいこと言って自分のことを自慢した。本当のところを知ってる息子はおかしくて仕方がない。つい、「アイツ、あんなこと言って、本当は、こうなんだよ」と陰でバラしてしまった。それでその子はみんなにからかわれて面目丸つぶれ。怒ったのなんの、この野郎」と一発ブチかまされて、息子は片目が紫色のアザになりパンダそっくり、当分消えなかった。

「みなさい。余計なことというから、や

られるのよ。本当のことでも言う必要のないことは言わないのが利口なの。

いい勉強になったでしょう」と私。息子も間が悪そうに苦笑いして何も言わなかった。いろんな人に「どうしたの、ケンカ？」と聞かれて、いちいち説明するのに困った。学校の先生も「どうした？ やられたな」と言っただろうだ。喘息はこの頃には治っていた。

息子が高校生になってバイクが欲しい、それで学校に通いたいと言った。私は交通事故を起して死ぬかもしれないし、人を傷つけるかもしれないから絶対駄目だと言った。息子はいくどか言ったが、どうしてもいや、いやだからいやと言った。こうも言った。「そんなら高校を終わったら大学へ行くのやめて働いて自分で買ったら？ それならお母さんも文句言えない。ただし人に怪我させたときのために保険も自分で掛けること、親に迷惑かけないで」

大学には行きたいと思ってた息子は、こりゃ駄目だと思ったのか、それ以後

二度と言わなかった。「勉強がしたくないなら、無理に大学へ行かなくていいよ。お金がかかるんだから親はたまらないからね」ともよく言った。息子は「いや、行きたい」と言った。

世間を気にせずやる！

今になって抜けてたなと思うしつけども随分ある。朝起きておはよう、寝るときのおやすみも言ったり言わなかったりだ。なにしろ親の方が先にダウンして眠くなり、いつまでもテレビをみて去らない息子や娘に「テレビの音うるさいね。明るい眠れないよ」と居間で寝る私は文句を言い、「じゃね、おやすみ」と引き上げるときは半分夢の中にいる。

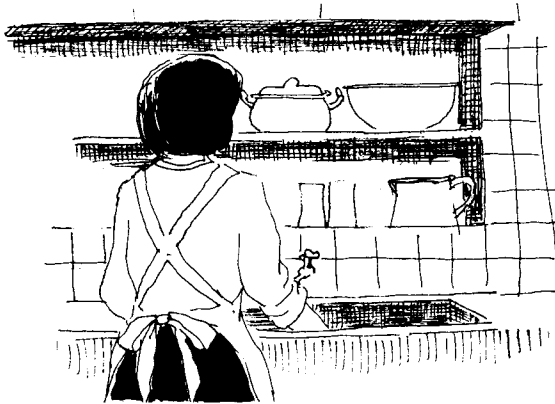
行ってまいります、ただいまは感心に言っている。私は玄関まで出るのは夫にだけ、子供には居間に座ったまま、「ああ行ってらっしゃい」台所で「ああお帰り」と返事する。本当は息子や

特集投稿

娘にも玄關まで出て、気をつけてねなどと優しく言うのが理想的なおふくろのイメージなんだろうが、今さらわざとらしくてやってられない。

言葉づかいもあまり上品ではない。ヤバイよなんて言う。お互いにズケズケ言いたいこと言い合う方だから、丁寧なのは氣どつてゐたいでテレくさい子供も内と外では使い分けてるようで電話など聞いていると目上の人、先輩などには、ちゃんとした敬語を使っているから安心してゐる。

食事のとき頂きます、ごちそうさま、も言わない。御飯よつと呼ぶと出てきて、ああ腹減ったと食べ始める。食べ終ると早喰いの夫が一番先に箸を置き、ああうまかった、幸せだなあなどと言ってゴロリと横になる。行儀もなにもあったものではないが、家庭はくつろぎの場だから仕方がない。食後すぐセカセカ動くのは大儀で流しに下げるだけにして三十



分くらいお茶を飲んだり横になってみ
んなでテレビをみる。

食器を下げるのを手伝うのは娘だけ。
娘は中学、高校時代家事を教えて手伝
わせた。これはいやがらず覚えてよく
やってくれた。お陰で私は安心して家

をあけて友達と二、三泊の旅行もでき
た。娘のしつけはまあ平均点くらいで
はないかと思っている。

息子にも小さいときからやらせるべ
きだったと思うが、今となってはあと
のまつりだ。共働きの場合、女ばかり
にやらせるなんて不公平だ。「お前ね、
嫁さん共働きだったら、自分から気が
ついてやらなくちゃいけないんだよ」
と言ってもフンと鼻の先で笑ってい
る。

自分のことは自分でやるようにしつ
けるべきだった。大きくなった今、い
くら自分の部屋くらい整頓しなさい。
スニーカーが汚れたら日曜にでも自分で
洗いなさい。使ったものは出しっ放し
にせずもとに戻しなさいとウルサク言
っても平氣の平左で無視する。私もや
ってやるの癪だから床に散乱してるも
のは全部机の上とベッドの上に放り上
げて掃除機だけかけておく。あとどう
するかと思ったら敵もさるもの、ソッ
クリ、また床の上に払い落してすまし

ている。ただ友達が来るというときだけ、慌ててバタバタかたづけろ。なにしろ座るところがないのだ。ガマアみろと少し溜飲が下がる。私のしつけの失敗だから仕方がないことだが、これは三、四歳頃から心がけるべきことだった。

娘は性質が私に似ず穏やかで、思いやりがあり、相手が傷つきそうなおことは言わない。女の子としてはいい性格だが、ちょっと根性が足りなくて物足りなかった。息子はケナされると何クソと奮発するが、娘はズケズケ言われるとスネてしまつて同じ兄妹でも勝手が違つてやりにくかった。将来のことも、いろいろ考へて看護学校へ進ませた。寮生活は先輩後輩と合部屋で、先輩に学び、また後輩に伝え導いていかななくてはならないことがたくさんある。おっとりしたお嬢さんだった娘も、精神的に逞しくなり、実習の話など家へ帰つたとき聞くと、大変な仕事だなあと、あらためて認識させられる。とて

もしっかりしてきた。

女はいい人を見つけて結婚するのが一番幸せと言われるが、それは、クジを引くような相手次第の人生だ。これからは、主体性を持って生きなくてはいいと思つた相手が交通事故や病気で死ぬことだつてある。そんなとき自立する能力を身につけていたら、こんな心強いことはない。

看護婦の仕事は大変だけれど、就職は引手あまたで女としては高給がとれる。四年制大学を出ても女子は就職が難しいと聞くが、うちの娘は成功だったねと夫と話した。

ふりかへつて言えることは、自分がこうしたい、こうなつてほしいと思つたら世間を気にせず、よそはよそ、うちはずち、と信念を持ってしつづけることだ。

今、息子と娘に言つてゐることは、就職したら最低三年間は働いて結婚資金は自分で貯めること。親だつて老後の貯えが必要だから、もうこれ以上の負

担は困る。高卒以後、息子は一浪も入れて七年間も東京の私大に通うわけだ。娘は全寮制の看護学校に三年、本当に痛い出費だった。娘の方は、そうしたいと、親が望んでやったことだから後悔はしないが、息子が大学院に進むのは予定外だった。これは親の大出血サービスだよと言つてゐる。

よその家は子供を至れり尽せりで甘やかすようだけれど、よそではこうだと言つても駄目、うちにはうちのやり方があるんだから、あまり早く結婚したいなどと言つてきても、知らないよ。自分達でやるのなら文句はないけれどと言つてある。

案外、腹の中で、ケチ、などと反抗しているかも知れない。子供はどう思つてゐるか知らないが、よそに合わせる気はない。私のやり方でこれからと言っていく方針だ。

しつけに終りはないけれど

属

静

(東京都小金井市)



子供を生まうと思ったのは結婚して五年もたっていた。迂闊には生めないと思っていたからである。夫とは学生時代からのつき合いでいわゆる友達結婚である。決して子供が嫌いなわけでもなく、また、非協力的でもなんでもない。若くて結婚したので、結婚しているからという理由でお互いを縛るのはよそうと話し合い、夫は結婚後二年目に職を辞して渡米して勉強したのだが、その時も迷うことなく私も一人で働いて自分の旅費を貯え、後追い渡米の計画をたてるなど、自分達の思ったことを実行に移すという二人だった。

夫は子供を望まない私の気持をかえようと一緒にホームパーティに連れていったり、よその子供達をあずかったりしたが、あくまでも他人の子なので何の支障もなく世話することができた。夫は諦めたようで、「子供のいない夫婦は、それなりに生きていけるさ」と言っていた。大人だけの生活は整理されていて無駄がなくすっきりしたもの

だが、何かしら遊びの部分が少なく、意見が衝突した時など全くどう納めればいいのか途方にくれるほど、スタスタに傷つけ合うまでやりあうことが多い。別れるに何の支障もないからでもあろう。

知合いの米国婦人は四人の子持。それがみな年子でしかも真中二人が男の双子という。一番上が小学校二年生だったので、子供が皆さわぎ出すと見事だった。その婦人が私に、「あなたは子供が嫌いと自分で言っているけれど、うちの子達はうちにみえる若いカップルの中じゃあなたが一番面白くて大好きといっているわ。子供は育てるものと思っていたけど、子供自身自分でも育つ力をもっているものよ。私もこの子達を世話しているだけ。一緒にくらしているうちに、良い悪いは皆で話合えるようになるものよ」と話した。ちょうど精神的に落着いた生活がほしいと思う時期で、今考えてみると三十歳に近い女が無性に子供だけが欲しくな

るあの気持ちも手伝っていたのかもしれない。私自身、母親が四十歳をすぎて生れたので、小学生の頃、親が年とっていることが非常に嫌だった。もし子供を持つなら三十までに生みたいという、ひそかな決意があったのかもしれない。面倒なことを考えなくなった時、新しい生命が宿った。

私には年の大きく離れた異母兄がいるだけなので、幼い頃より幼子が身辺にいたことはない。どのように世話をすればいいのか、どうやって育てていくものか全くわからなかった。そういう状態を救うものは本―すなわち、ハウ・ツーもの。妊娠七カ月を過ぎた頃「スポック博士の育児書」を手にし、毎日あきずに読んだ。

これは昭和四十七年発行のもので、最初に親となる心構えから準備すべきもの、生れてからの世話一般、少し大きくなって諸々の生活習慣から病氣、発育、食事から思春期の問題、そして特殊な問題の中には仕事をもっている

母親、お父さんのいない子という項もあり、実に入門書プラス、エトセトラ。何でも見事に親切に書いてあった。この本一冊あれば何とでもなる。そう思っ、重要な箇所はしおりも入れていつでも開けるように、そして手近におくようにした。

じっくり子供とつき合おう

年子で二人の男の子の母親になった私は、スポック博士の育児書を熟読し、方針を立てた。

先ず自分については、母親代りとなつて彼らを世話する人が容易にみつからないので仕事はしばらく諦めること。この二人とじっくりと徹底的につき合うこと。赤ん坊から幼児そして少年・青年と成長していく過程できつと生後五年くらいまでが一番親を必要とする時であろうから、この時を大切にしてお子育てを楽しもう。真面目に真剣にというだけより楽しみながら子供と共に

特集投稿

育つてみよう、と考えた。

また二人の子供については、将来こ
うなつてほしいという具体的な像を描
かず、人間として深みや巾のある人にな
ってほしい、それには経験と探究心
が必要だから大いに経験させようとき
めた。

自分が子育てを楽しむのだから小さ
なことに文句を言わないという気持も
大切だ。

もう一つは彼らが生きていく社会は
限られた場ではなく、広い場でなけれ
ばならない。コスモポリタンとして生
きてゆけるようにものの見方・考え方
など、自分としての目が持てる育て方
をしようと考えた。そして諸外国の子
供の育て方・しつけ方につい
て機会あるごとに読み聞かし
た。

日本ではしつけは礼儀作法
をしこむことだが、私は正しい
生活習慣を身につけさせる
ことと考え、日常生活にうま

く組込んで何気なく生活するうちに自
然に身についたものとなるように図つ
た。割合とうまくいっただのは彼らの個
性の違いがそれを助けたとも言える。

長男は細身でおとなしくおだやかな
子、次男は太目で活発ではっきりした
子である。各々の二歳くらいまでを比
べてみると長男は食がほそく一人遊び
が上手で、何かと遊びを見つつけ出し、
次男は食欲旺盛で足りぬとギャーギャ
ー騒ぎ、少しもじっとしていられない。
自分が注意されぬようにするにはもう
一人をまねればよいわけだ。

小さい子の食事時、これは母親にと
っては戦場とも言える。こぼさない子
はいないだろう。私はうるさく「こぼ
すな」と言うかわりに食事のあと、椅
子のまわり、テーブルの下に自分がお
としたものは全部皿にひろわせた。「あ
ふんじやうとベチャーと足にくつつ
くよ。気持がわるくなるから、ひろっ
ちゃおうね」という具合で少しひろっ
てやると一緒にやり出すので、根気よ

くそれを見守ってやった。ぬれ雑巾を
その間に準備しておき、汚れたところ
はひろった後、こすることも覚えさせ
た。

食事のたびごとにそれをさせられる
と彼らもあきてきたのだろう。こぼさ
なくする工夫をした。椅子を自分の身
がやっと入るほどしかテーブルから離
さない。こぼれそうなものは皿を持っ
て食べるなど……。もちろんあついス
ープ類はなるべく食卓の中央において、
ひっくり返しても大丈夫なように気を
配ることは当然である。

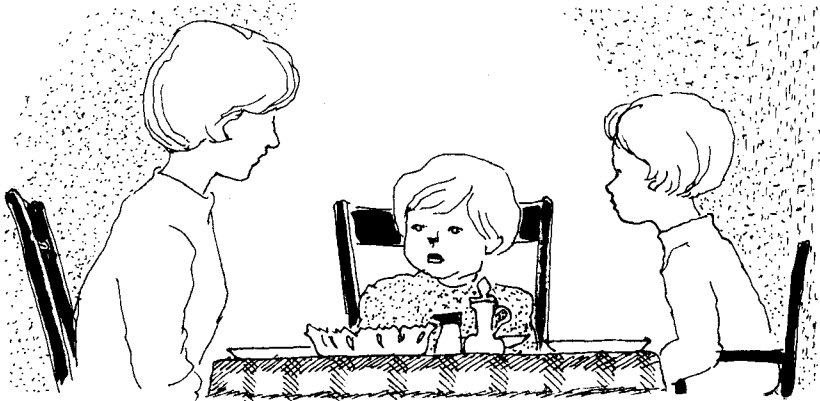
それと常に気をつけたのは、子供だ
けで食事をするのではないようにとい
うことだ。親は子供と一緒に食事をす
ると、自分が何をどのくらい食べたか、
おいしいのかどうかもわからなくなる
ほど忙しいが、大人の姿勢や食べ方を
みながら学ぶことも多いことを考え、
まねをさせながら食事をした。ナイフ
・フォークの使い方ともテーブル・マナ
ーとして言うとうるさくて面倒だが、

「今日はお箸を使わないごはんにしない？」などと水を向けると、「ええ？手でたべるの？」という疑問からはじまってフォークを使い、やがて、ナイフの使い方を見て、実際に使って、慣れてという段階をふんで、少しずつ使えるようになっていった。

お箸は「大豆つまみ」の競争を遊びの中で繰返しやり、皿の大豆を箸でつまみ他の皿にうつすスピードを競いながら、段々と上達していった。

ちょっとした遊びの気持が子育てを楽にすると同時に子供も知らず知らずのうちにそれらを身につけていく。スプーンを音をたてずにのむといったような比較文化的なことは、食事の折に話としてきかせ、童話のシーンなどを一緒に思い出しながら、実際にみそ汁の時とスプーンの時のちがいを体験していった。

楽しい食事は実にいろんな話題や話の拡がりを、そして満足感を与えてくれる。この時が充実していると、間食



も多くは要求せず、従って、親も自分の時間が持てることにもつながっていた。一緒に本を読みながら、本を汚さぬこと、本を大切にすること、そしてあった場所に戻すことなど、自分でもあきれるくらい、集中的に繰返しやらせていくうちに、子供はそれが当然なすべきことと体で覚えてしまうようになる。もう大した注意や言葉かけはいらなくなる。

おもちゃの片付けも同じ。「全部片付けて！」はどうも遊びの世界から自分を運び出す嫌いな言葉のようだ。子供の悲しそうにそして迷っている顔を見て、「全部片付けて！」の号令はやめて「一つだけ君の好きなものを残していいよ」にした。すると遊びの余韻を感じつつ、いやな片付けの作業がはこぶ。そして最後にその日の遊びで一番大好きだったものが残りそれだけを楽しむ時間が持てることで、遊びのパターンから他の生活のパターンへの切りかえができたようだ。

この子供らは、現在小四と小二のワ
ンパクざかり。ひまな時は一人または
二人で室いっぱい何かを拡げて遊ん
でいたりもするが、時計の針かあるい
は「夕方よ」の声をきっかけにサッ
と片付けをし、その日のお気に入り一
つが寝床に入る直前まで、机の上に在
るという状態だ。

留守番の教育効果

留守番は比較的計画的にやらせて慣
れさせていった。一番はじめは、二人
一緒に母親の買物の間、家で留守番を
させた。雨の日、風のひどい日、寒す
ぎる日など、下の子が二歳を過ぎてか
ら、よく遊び込んだ頃に遊び
続けながら待てるように、つ
まり母親が外出したから、じ
っと待つのではなく、遊びか
ら抜けていったけれどしばらく
くしたらまた、戻ってきたよ
というスタイルがはじまりだ

つた。
長男の通った幼稚園は父母会は原則
的に子供を連れずに出席することとい
う了解事項があった。それは、子供に
一つの留守番という役目を与える良い
機会であるという教育効果を考える一
方、父母会の二時間くらい、子供を安
心してあずけられるような日頃の近所
付き合いも大切であるというような地域
と子供のつながりといったことも考え
たいという姿勢だった。
近所は日中留守のお宅も多かったの
で、私はこれを留守番タイムに活用し
た。当初、とにかく安全であることを
主眼とし、必ず二人一緒に留守番をす
ること。留守番は家の中にいないと役
目が果せないのでは家の中で遊ぶこと
お互いに仲良くしないと楽しい留守番
ができないこと。誰かがドアをたたいて
も「お母さんよ」のききなれた声じ
やない時は決してあけないこと。（ま
るで狼と七匹の子やぎさながら）など
を話したりかいたりして、わからせた。

遊びは二人一緒にできるようなこと
を考えて至全体を使った車輛遊びをす
すめ、積木でトンネルをつくってその
中をミニ電車が通ってといった具合の
スケールの大きいものを考えた。親の
方は必ず帰る時間を時計で示して、長
い針がどこ、短い針がここに来たら帰
ってくることを子供にわからせると同
時に必ず守った。最初が肝心。絶対に
裏切ってはいけない。約束通りに帰る
ことによって安心感が増し、子供もこ
の次もまたきつと約束した時間に帰っ
てくるからという信頼の気持が一層強
くなる。半年くらいは確実に守った。
だが大人の会、特に女の会は長引く
ことが多い。偶然にも子供達が遊びに
熱中していて時間を忘れてくれていて
助かったこともあったが、そうそうう
まくいくとは限らないと思い、電話を
とることを教えようとしたが、うまく
ゆかなかった。

ベルが鳴り出すと、「もしお母さん
じゃなかったらどうしよう」と考える

と受話器がとれないらしい。これで諦めるわけにはいかないと思い、留守番をさせるたびごとに、今家を出て、あそこの公衆電話に行ったら電話する。

だから電話に出て、という方法を繰返してやってみた。弟の方がこれにすっかり興味を持ち、電話を楽しむに待っているようになった。性格の反対な二人が、補いあって一つの役目を果たす方向へと動いた。これは全く予想外だったが大して年齢が違わぬのだからどちらが対応しようというんだと自分を納得させ（やはり兄が先に電話に出てほしいと願っていた）、三度に一度は兄が受話器をとって話してから次に弟がというように手順を話合った。こうなると留守番電話ごっこになってしまう。

こうしてやがて電話になれてくると、親が束縛された気持で外出することから少しずつ解放されていった。留守の間に一番恐いと思っただのは冬の暖房だった。二階の陽当りの良い室を子供達の室としていたので、日中晴天の日

は心配ない。しかし曇天や雨の日、これは困った。暖房抜きで暖かさをと考えて、室のスペースに毛布でトンネル



をつくったり、軽いふとんでお山をつくってそこで体全体を動かすような遊びを三人で見つけ出した。多少はこり

っぽくとも、また多少後片付けに時が必要であろうと、どうせ遊びの延長なのだから、という具合に考えると、全くたのしい。

ある時、ドアの鍵を外からあけて家に入り、子供室をみるとシーン。あらっと思つてよくみると、つんだふとんがひそやかにかすかに動く。ああくれんばかり。じゃ即席におにになってやろう、というふうにな。

そうとはいえ、やはり心配。お隣の家に必ず声をかけ「大きく長く泣き声が続いたらちよつとみて下さい、二人だけ残していますので」とお願いした。子供はすぐに育っていくもの。二回目の冬にはもう慣れっこになり、喜んで留守番をしてくれたが、弟の自己主張が強くなると、帰宅してみるとお互いに泣いた顔だったり、ふくれっ面だったりといったことも出てくる。

そうなれば、時には仲裁のために二人とも話をきいたり、また二人並べて叱ったり、各々の主張をきき流した

特集投稿

り、ケースバイケースだ。二人とも、気まずい時間を二人きりで過ごすのは苦痛らしい。だがその後をきいてみると、雲行がややしくなった時はどちらかが一步退いて、うまく衝突を避けているようだ。彼ら二人が見出した、生活の知恵なのだろう。

乗物のエチケットを守らせよう

幼児を連れての外出は結構楽しいが、長時間電車に乗り続ける時は、退屈しきって注意する方もたび重なるごとに嫌気がさして、他人様に迷惑のからぬようにとただひたすらに気を使う。長男は乗物が大好きだったから問題は

なかったが、弟の方はじっとしていられない人だから、全くきじめだ。電車にのつてもちっとも楽しそうじゃない。私は必ず「こどものとも」のような軽くてうすい、そして子供の好きな絵本をバッグに

しのばせた。ソワソワし始めると、一緒に絵本の端を持たせ小さな声でよんでやる。日頃、何度も繰返して見る絵本はそんなに新鮮味もないはずだが絵をみて登場人物が同じでも違ったお話を一節ずつ創ったりすると下車してもストーリーが未完という事態もしばしばあった。

あるいは、ポケットに入る小さなおもちゃ（ミニカーでも、プラモデルでも）一個を持ってもいいこととし、とにかくうるさくしないように心掛けた。席が空いていない時、乗車距離が短い時などは、三人どこにもつかまらずに立って、どこまで立派に立ってられるかと競争をしたり、とにかく、遊びの中のあるいは生活の中のひとこまとして、生活習慣の体得に力を入れた。これらは、完全には言えないが、ほとんどが身につけてきており、結果的には、電車に人をおしてでもはやくのって空席をみつくてといった何ともあさましい、あの行動だけは決してとら

ないし、老人をみれば自分から席をゆずる子になった。

私も三人連れで出かけて席が一つ空けば必ず自分が座り、子供のために席を譲るなど決してしない。ふつうに健康に育っていれば、耐久力なんか自然に体力としてついてきていると思っている。

親の姿勢が子供をつくる

観劇や映画につれて行った時、座席ではたとえ給一個でも食べさせない。どうしても何かがほしい場合は必ず休憩時間に休憩場所までと限っている。守るべきマナーである。この範ちゅうに入ることは例えば、病院・医院の待合室では静かにすることや、整列乗車などの順を乱さないこと、道路やよその家の塀に落書きなどをしないこと、屋外でゴミは必ずゴミ箱にすてること、ゴミ箱がなければ家に持って帰ることなど、個々人が必ず守らねばならない

社会生活上の小さなルールなのだ。誰でも簡単に守れることを一人が守らないことに始まり、多くの人が見倣って守らなくなり、そして守られぬことが当り前のような風潮になってきている。

そのようなマナーを守ることもしつけの一部なら、原則は必ず子供が小さいうちから、教えて守らせねばならないと思う。要は子供を育てる時に両親がどんな姿勢で自分達の人生を、そしてその家庭の在り様を、考えているかということ、しつけが決ってくる。

そのやり方は父親や母親そして現に子育てに当る人が、よく考えてその子供に一番あったやり方をとらねばならない。「あそこの場合こうやって成功したからうちの子にも云々」というのは一番反感を買うし反抗される原因となるのではないだろうか考える。

夫は私のしつけについてとやかく言わないが、自分が子供と数時間すごして気がついたことは、必ず子供に言う前

に私と話合うという心配りをしている。私と話して、事前に必要な予備知識を得、そこからどのようにすると一番効果的か、ということを考えて上で、息子達と話合っているようだ。男の家事参加についても、彼自身の山登りの経験から男でも自分の食事くらいは自分でできなくちゃという考えで、私の言う「自分の使った食器は自分で洗うこと」などは全く当然のこととしており、主に外回りの仕事、庭の草むしりや飼犬の世話、ペンキ塗りや庭木の始末、車の掃除など積極的に息子達を指導してやっている。これなどは男親のしているしつけだと私は思っている。

普通の生活の中でおだやかにしつけができていったら一番いいと思う。ルールを厳しくして小言をいって守らせる方法は、一時的に効果はあっても長続きしないし、言う方もくたびれる。もしそうだと、私は小言をいう自分に嫌気がさす。「いやな親だなあ」って

思ってしまった。

子供が成長するに従ってしつけも変化するが、それはやり方が変わっていくだけである。親として自信をもってその任に当るには、人間としての絶えざる成長が要求されるのだろう。ここが私が子供を望まなかった本当の理由なのかもしれない。そんなに努力しつけられるヒトじゃないことがわかっていたのだと思う。

明日も朝になれば必ず太陽が昇ることを信じて疑わないように、私も明日の育ちを信じて生きたいと思う。これが息子達の明日をより確実なものにしていくと信じている。

イラスト・早乙女光子

特集レポート

母親はどんなとき

子どもを叱っているか



“三つ子の魂百まで”とやら“鉄は熱いうちに打て”とやら、子供のしつけについては議論百出。ならば「お宅はどんなしつけしてる？」ということで、わいふサークル中心に『子供への注意または叱りの言葉』を口から出たそのまま、もちろん、その時の状況や原因も含めて、まる一日記録してもらったところ、次のような結果となった。

それにしても「よくもまあ」と呆れるほど、どここの家でも母親ばかりが叫んでる。朝の目覚めから夜寝るまで、食事も入浴もテレビも歯みがきも、登校も登園も勉強も子どもが視界にいるかぎり、「命令」と「禁句」は限らない。

この中から何を読みとるかは、読者の自由。何はさておき迫力溢れる現場からのレポートをお読みください。

A家

八歳・小学三年・男
六歳・小学一年・男

◆朝の食事、「ハシの持ち方をちゃんと」二人に注意、大分直ってきたがまだ中指の位置が少しおかしい。

◆出かけるとき、弟へ「体操服をちゃんとランドセルに入れなさい」ランドセルとカバンの間にはさんであるだけで箱の中に入らなかったから落ちそうだったのだ。

◆学校から帰ってから、「オヤツの前に手を洗ってうがいでしょ」いつも言われなくちゃしないんだから、今度から、自分で忘れないでやらなきゃオヤツ出さないからね」と言う。

（弟の方が兄より少し先に帰るが二人共に同じことをくり返す）

◆弟がオヤツを食べている最中に「学校からプリントか何かもらってこなかったの？ 帰ったらすぐに出しなさい

よ」という。プリント一枚あり。

◆弟あそびに出かける。「どこでだれと遊ぶの？ 鐘がなったらすぐ帰るのよ」という。（我が市では五時半になると夕やけこやけのチャイムが鳴る）

◆兄が帰ってきたので「オヤツの前に……」をくり返す。学校からのプリントはむこうから出したので何もいわない。

◆テスト（算数100、社会80）をテンケンする。点数については何もいわずに「どこでまちがえたかを確認」だけするようにいつも言っている。問題の意味がわかっていたかどうかたしかめようとしたら、「正解は……」と言うので、「聞いていることに答えなさい!! 相手が何を聞いているのかをたしかめてから答えなさいからテストだってまち

がえるのよ。覚えてなかったり忘れてたしめたことはいつでも本などを見てたしかめられるけど、人とお話できない人は学校へいっても勉強にならないし、仕事だってちゃんとできませんよ。聞かれていることにちゃんと答えなさい」質問の意味がわからないならどこがわからないのかを言いなさい」とひとくさりぶつ。

◆兄、「○○君と遊んでくる」と出かけてすぐ戻ってきて「○○君まだ帰ってなかった」と言いまた出ていく。どこへ行くのかうっかり聞くのを忘れる。

◆夕方二人帰ってきて絵などをかきはじめ。私も同じテーブルで手紙をかく。ガタガタさせるので「ゆらさないで!!」という。しかし私の机は別にあるので本当は私の方がそっちで書くべきなのだ。

◆夕食の仕度をはじめ。子供はテレビをつける。「もっと後ろで見なさい。近いと目が悪くなるわよ」という。見る番組はきめているのでとくに口出し

しない。

◆「自転車しまいなさい」「玄関のくつをそろえていない」などのことをやらせる。これもいつも言わないとやらないのだ!!

◆夕食そろそろでき上がる頃一年生の弟が「宿題あった」とやり出す。「先に宿題やらなきゃダメでしょ」というがあまり迫力ない。自分がいつもギリギリまで仕事ためているからあまり子供に強いことはいえないのだ。宿題は拾ってきた石にクレパスでもようをかくとかでテーブルの上に出すので、「あつ新聞紙書いてやりなさい!」という。◆今日は二人とも夕食を運ぶのを進んで手伝ったので文句をいわなかったが、やらないときはどなる。

◆弟がホーレン草がきらいでぐずぐず食べている。兄の方はもうおわってみかんを食べる。「ホーレンソーは体にいいって学校でもいわれたでしょ」という。「あと五分で食事おわらなかつたらみかんを食べてはいけない」とい

う。実際は少し五分をすぎていたけれどもどなくずしに食べていいことにする。◆食後の歯みがき「よくみがかないと虫歯になるわよ」という管理的セリフはあまり言いたくないのですがねえ。親の立場上しかたがない。

◆兄がちょっとだけ漢字の勉強をする。今日はまあまああの出來だったので平穩。できの悪いとき(というよりダラダラやる気なくやっていると)は「やる気ないなら学校なんかすぐやめなさい!!」かわりにお母さんがいくらでも学校にいきます!! あんたがうちでソージやセンタクやりなさい」とどなる。こういうことを言っではよくないと思うがいつも気づいたときには叫んでいる。

◆子供二人でフロに入る。さてやっと寝ようというときになって、「あッ今日おはしの日でしょ! 二人ともおはし持って帰った?」二人とも案のじょう忘れている。「フケツになるでしょ! 明日必ずもってかえんなくちゃダメよ」という。内心、毎週水曜だけ

給食にはしを使わせるなんて学校も中途はんぱだなあと思う。毎日もっていき毎日もって帰るほうが子供だって忘れないのに。

◆あーあやっと寝た。と思ったらあちこちに本が出しっぱなし。「野球ルール大百科はいらないの?! 子供会のゴミの日に出しちゃうよ!」という。二階からドタドタおりてきてかたづけろ。

しかしこのように書きつらねてみると我ながらビックリの管理的子育てだねえ。広岡野球も顔負けというかんじ。「○○しないと××してしまうからね」というキョーハクはなるべくよそうと思うのだけど、世の中一般と同様罰則のない規則は形骸化するのですよね。他の人の見るのが楽しみなあ。



B家

長男（五歳八カ月） 次男（三歳一カ月）
長女（一歳六カ月）

朝夕の忙しくて子供も身近にいる時間帯はテープレコーダー、忙しくなく子供も静かな時はメモで。

△長男▽

- ◆工作の手伝いを頼まれる「忙しいからダメ」
- ◆アイロンかけをしていて「危いからあっちへ行ってらっしゃい」二回。
- ◆工作がうまくできたので「ウワーカッコいいなあ」二回。
- ◆友達のを、幼稚園に行く途中ふざけていたので「よしなさい」
- ◆妹のしたイタズラを、それと知っていて弟のせいにする。「そういうのをイジワルというのよ」
- ◆寝る前なかなかふとんに入らないの

で「早く寝なさい」

△感想▽

- ◆家にいる時間が少ないので、あまり怒ったり注意したりしていない。基本的な生活習慣は自立できている。
- ◆力も弱く知力も劣る従順な弟に対して少し暴君的な所が見えるので、現場を見たらその場で注意し、言い聞かせることを、隣家に住む私の母と主人と三人で申し合わせている。⑤はその一例。しかし幼稚園から帰ってきてから弟と外に遊びに行くので、目が届かないことが多く、そのせいかあまり成果はあがっていない。
- △次男▽
- ◆「おもちゃノドにつかえないようにしなさいよ」
- ◆「ウンチしたからふいで」と何回も

言うのでイライラする。しかし忙しくて怒るのも面倒でふいてしまう。

◆アイロンかけをしていて「危いからあっちへ行ってらっしゃい」二回

◆幼稚園の制服になかなか着替えないので「パジャマを脱ぎなさい」と五、六回、制服を着なさいと三回。しかしついに手伝ってしまふ。

◆幼稚園の帰り、みんなと違う道を行くと言って騒ぐので無視。泣いて追いかけて来た。家に帰ってから抱きしめる。「みんなと同じ道を帰った方が楽しいでしょ」

◆幼稚園から帰って制服を着替えないので「服を脱ぎなさい、着なさい」等五、六回。

◆風呂に入る時「服を脱ぎなさいよ」二回。

◆風呂からあがり、私と競争で服を着ながら「どっちが早いかな、ウワータクの方が早い。じょうずねえ」

◆台所で調理している私の傍をウロウロし、魚に触ったりガスレンジに火を

つけたがる。「じゃまだ、どいて」やめなさい」「危い」等拒否的に五、六回。

◆夕食の時「ふりかけはごはんにかけて食べるのよ」「口に入れたものは出さないで」「何この食べ方は」「ごちそうさまなの?」

◆トイレから出てきてパンツもズボンも脱いだまま。「パンツはいて」「そこよ、そこにあるのよ」「早くパンツはきなさい、早く早く」

△感想▽

◆排泄、服の着替え、食事の仕方など基本的習慣が自立できていない(できるのにさっさとやらない)ことに、うるさく注意したり怒ったりしている。

しかし、忙しくない時間帯には大目に見たり、ホメながらうまくやらせているのに、忙しいと怒った揚句手伝わっている。子供のペースを無視した自分の都合主義の部分を反省。

◆調理をしている時、時間に追われていたのと面倒なので、手伝いたかつたのに手伝わせなかった。どんな小さなことでもいいからやらせるべきだった。

△長女▽

◆セロテープ「いじっちゃダメ」ととりあげる。

◆糸箱をひっくり返す「コラ!」ととりあげ高い所へ。

◆うんま(お菓子)をねだる「ダメ」おばあちゃんが来てヤクルト与える。

◆公園にて、他人のおもちゃを使ってしまう。「よその子のよ、知佳のじゃないのよ」と言いつつ気をそらして場所を移動、数回。

◆図書館の本をいじる。「いけない」と言いつつ抱く。二、三回。

◆食べ物をはき出す。「ダメよ!」

◆昼寝を何時になってもせずイライラ。怒りたいのを抑えて。

◆うんま、うんま。「ダメ」

◆うんま、「ダメ」おばあちゃんタッキーを与える。

◆牛乳をごはんの中に入れて遊ぶ。「コ

ラ!」

◆長男、次男が眠る時間なのにハーモニカをふく。「ウルサイでしょ」ととりあげる。

△感想▽

◆危険な物、遊んではいけない物をイタズラするが、まだ言ってもわからないので、目の前からそれを隠してしまふ。気持をそらせる。

◆他人のおもちゃが珍らしくて触りたいらしいが、自他の区別を教えるため「よその子でしょ」と言いつつ目の前から隠す。

◆イタズラも、他人の物を触るのも、まだ意味はわからないが繰り返し繰り返しとりあげているうちに、わかるのではないだろうか、まだわからない、と思って放っておくよりは自然に身につくように思う。

◆私の母と隣り同士に住むようになってガラ食いの癖がついた。要求が強くて拒否するのが難しい。

最後に……編集部から子供の躰調査のため、母親から子供へ怒った言葉、注意等を記録し、感想を書くよう依頼を受けました。当初、ほとんど記録するようなものはないと思っていたが、いざやってみると意外にも、無意識にしていることが多くて驚きました。年齢別に三人共躰の内容が全く違い、長男はかなり意識して理性で躰けようとしているのに対し、次男には生活の基本的習慣の自立ができていないと感情

的に焦立っているのがよく分りました。しかしよく考えてみると、次男は排泄も衣類の着脱も全部自分でできるのに、長男ほど早くやれないことで「できない」と思い込んでいたみたいで、競争心をうまく利用したりホメルことで次男なりにやらせることができるのに思い到り、猛省。長女に対しては、忙しいのと私の母の影響で安易にお菓子を与えてそれが癖になっていたので反省。やり直しを決心。

C家

五歳の男児 三十三歳の母(時々アルバイト)

朝の食卓で

母 時計見なさい。幼稚園バスに間にあわなくともママは知りませんよ。
子 (時計を見上げあわててかき込む) くつ下がないノ
母 シャツとくつ下は自分のタンスから出しなさいノ (ついでに早口で) 顔

と口は洗ったの。

子 口はぐちゃぐちゃペーやった。

母 そんなんじやダメ。五歳なんだからちゃんと歯ブラシでみがくの。

子 (制服に着がえながら) このくつ下これ裏かな。

母 このひげが出てるのが裏なのよ。

よく覚えときなさい。ブラウスのえりが内側にかくれてる。鏡みてごらん。変なんだから。

子 (鏡見ながらなかなかできない)
母 (もうまったく、とか口の中でモゴモゴ言っただけ)

時計見てノ まだ出なくていいの？
子 あっ八時五分だノ 行ってきます。
母 エレベーターじゃなくて階段使いなさい。

(我が家はマンションの9F。その後母親はエレベーターで降りる)

幼稚園バスのバス停で

母 あっバスが来た。はいみんな並んで(子供達に)はやくしなさい。

いってらっしゃーい。

(ヤレヤレ朝は戦争)

お帰りのバス停で

母 (子供達に) さようなら、また明日ネー。はい弘有帰るわよ。あらまたそんな所に上がったやダメ。

(道路標識のポールに木のぼりしてる。

本心はやらせたいのだが、人通りの多い道路なので他の人の手前)

母 そんなことしたらその棒たおれちゃう。はやくおりなさい。はい帰るわよ。はやく、あつ車が来た。まって。家に帰って

(制服のまま遊び出す)

母 あら、まだ着がえない。はやく着がえなさいよ。帰ったらすぐ制服は着がえるの。

(子供は家の中あっちへ行ったりこっちで遊んだりぐずぐず制服一枚ずつ脱ぐ)

母 ちゃんとハンガー(と言ったら)

子 わかっているたら、もう。

母 はい、おやつ。(とみかん二コ)

子 エー幼稚園のデザートもみかんだったんだよー。

母 ほんじゃいらない?(と持っていくまね)

子 あダメー。

母 手は洗ったの。

子 洗った、ほら石けんのおいがす

る。

母 どれどれ。(子供の手を点検)

ワキきたない。石けんのにおいがしてもよく洗ってない。

もう一度! 石けんで! よく洗い流す!

子 ちゃんと洗ったんだってば。ママのいじわる。(バタバタ洗いにいく)

遊びに出かける

母 車気をつけてね。左右よく見て、

車にひかれたら死んじゃうんだからね。死んじやつたらもうパパにもママにも

会えないんだからね! (子供、返事のかわりにおふざけ調の節をつけて、「パパパパパー」)

母 横断歩道渡る時は左右よく見るの

よ。はい行ったらっしやい。弘有こっち向いて。

子 エ?(とふりむき) パパパパパー

母 弘有ってほーんとママに似てかわいいわね。だけど他の人に自分でかわ

いいなんて言っちゃおかしいんだからね、わかっている? 行ったらっしやー

い。

夕方

(子供、アニメマンガのテープをガンガンBGMにして、家の中でおもちゃをひろげちらかし遊び出す)

母 ちよっともう少し小さな音にしてよ。お前耳が悪いのかな! ママ頭痛

くなった。

子 (エッと少し小さくする) 耳のわるい人は大きな音にするの?

母 ソ、大きくしないと聞こえないから。あなたは小さくても聞こえるでしょ。隣の赤ちゃんびっくりしてとび起

きるわよ。

母 車でお買物行くけどどうする?

子 行く行く、このギャパンの歌終ったらね。

母 そんなじゃ行く前にちよっとこの部屋片づけんのよ、足のふみ場もないわ。

(子供、おもちゃを片すみによせる)

母 まっいいか。帰ってからもうちよ

ときれいにね。

夕食

子 僕のフライにケチャップかけてよ。
母 ウッー、ケチャップかけるの、きもち悪い、ソースにしたら。

子 ケチャップノ

母 あつまたサラダ残してる。全部食べなさい。本当に給食でも毎日サラダ残してないの。

子 ぜーんぶ食べてる。おかわりもだよ。

母 エー、ホントー、サラダよ、

子 あつ、おかわりはごはんだけだね
サラダも食べるよ。

母 幼稚園で食べているのにお家でどうして食べれないの、野菜食べないと背がのびないのよ、横ばっか太っちゃってかっこわるいんだから。ほら全部食べなさいサラダ。

母 まだ食べてない。(ほらっと口に入れて実力行使)

子 少しづつ入れてよノ いっぺんに入れないでノ あつ忍者ハットリ君の時間だ。ママ⑩、⑩ (チャンネルのこと)

母 自分でしなさいノ まったく立っている者は親でも使えていうのか。

母 終わったら①のニュースよ、ついでにお風呂の火つけて。

子 七時から子供の番組ないの。

母 七時からはいつもニュースにきまっているの、ママがバカになってもいいの。

子 ニュース見ないと頭悪くなるの？

母 そんな明日見たら？

母 ニュースはすぐその日を見ないとニュースじゃないのよ。だから英語でニュース新しいという意味よ、わかる？

(子供、わかったようなわからないような顔)

母 サラダ全部食べないんだったらデザートないよ。

子 食べるってば。

母 サ・ラ・ダノ

子 この野菜食べると味がわかんなくなっちゃう(ドレッシングの酢が強い意)

母 いいからはやく、

子 せっかくママが作ったんだから全部食べてあげるネ。

母 食べて上げるじゃなくて食べますでしょ。

母 (食べ終って) いい子いい子全部食べたネ。(頭なでてあげる)

お風呂

母 はい後向いて、ちゃんと立ってな

さいよ、洗いにくいから。自分でちゃんと洗えないからママ洗ってあげてるんだからね、もう洗ってあげないわよ。

子 きおつけノ

母 おしりなんかウンコからからくつついてるみたい、ばっちなー紙でちゃんとふきなさいよ。

子 紙につかなくなるまでふいているんだけどな。

母 いやだな、きたなくて、におってごらんくちやいよ。

子 (鼻をクンクンさせておおげさに) ウワーくちやい。

(先にながった子供がまだ裸のまま)

母 あらまだパンツはいてない、体よくふいたらちゃんと着なさいよ、風邪ひいたら幼稚園お休みですよ。

それでいいの？

寝る前

子 そんなじゃ僕寝るからね。

母 えっずい分口あらうの早いじゃんちゃんとみがいた？

子 みがいた。本読んでエ

母 早く字覚えると一人で読めるのにネー、一冊だけネ。

子 OK「小さいうち」

母 (読むとすぐく長い本なので内心めんどろ)「はね」にしないよ。最近読んでないじゃない。日曜日にはこの本返さなくちゃいけないし、キラキラ文庫に(……と短い本をおしつける)子 じゃ明日「小さいうち」ネ。

母 はいよ。

子 電話なってる。(母親より耳が良
い)

(とんで行って電話とるが切れた)

母 いっぱいだったの？

子 十コぐらい。

母 なんですぐ教えないのよ、なっている時が付いたらすぐ言いなさいって言うてるでしょうが、はら切れちゃったじゃない。

子 だって本読んでいたんだもん。

母 今度からちゃんと教えるのよ。

D家 六歳女児(幼稚園) 母・三十三歳

七時二〇 早く起きてノ 今日はずはりだから八時半に家を出るんだからね。

七時三〇 こら、まだ起きないか。

起きろ!! 遅れるよノ

八時〇〇 ひじつて食べちゃダメ!!

八時〇三 ひじつかないの!!

八時〇五 まだ目やがついてるよ。

もう一度洗って!! 右の日のこととこ。

八時十五 歯みがきした? 早くね。

子 わかったよ。(ブスッと)

母 はい、おやすみ、チュ。

子 おやすみ、チュ。

はっ、やっと寝た。後は夫が帰るまで私の時間。でもこのアンケート書いてから案外長いんでくたびれたから、あとテレビでも見て寝るか、ああしんど。手がいたくなった。

八時二〇 トイレ行ったの? ウンチ

出た? そうよかったね。バスはトイレついてないから。

(バスに乗るからお通じのこと聞いた。

ふだんは聞かない)

八時三五 そこ走っちゃダメ。ブルドーザー来てるから手をつないでいこう。

スキップしたらあぶないのにノ

(送っていく道で)

一時〇八 帰宅

そのソックスぬいで、足ふいて、園服から名札はずして洗たくカゴに入れなさい。

弁当箱とハシ、洗い桶につけた？

本読む前にハンガーにかけて!!

一時三〇 オルガンの音、小さくして!!
おとなりにめいわくでしょ。

二時―四時 昼寝(ふだんはしないけれど親がばててねていたら、ヨコに入ってきた)

ちゃんと枕持ってきなさい。

五時〇〇 買物へ(どうしてお母さんはいくつで、自分は運動グツばかりなのかと聞く。お母さんの足は大きくならないけど、あなたの足はすぐ大きくなるからおしゃれなグツはもったいないと説明。大人はいいなあとうるさく言う)

うるさーい、行くぞう。

(せっかく歩道橋があるのに、どうして横断歩道をわたるのかと聞く。お母さんは、せっかく横断歩道があるのにどうして歩道橋の階段のぼるのかフシ

ギ、というと、歩道橋のほうが面白いからあっちにしようという)

お母さん疲れてるからヤダ、一人でいきなさい! お店の前で待っているのよ。

五時二〇 こら、指で押したらへこむでしょ。

(キウイフルーツをつついた)

六時三〇 ご飯だから、本とおモチャかたづけて!! かたづけてからごはんです!!

お皿をペロペロしちゃダメ!!

七時〇〇 テレビの音、小さくして!
七時三五 暗いところで本読んだら、目がワルクなるでしょ。こっちへ来なさい。

こら、聞こえないのか!!

八時〇〇 お風呂、自分で入ってね。

パジャマはこれ。(他のがいい、という)かわいてないからこれにしなさい。
(そこへ父親が帰宅して、掘ってきた芋でオマンジュウを作りはじめ)

蒸し器に顔もつくとヤケドするよ!!

これだけにしときなさい。もう遅いから、太っちゃうよ。

おかわりはダメ!

九時〇〇 歯みがいた?

もう寝なさい。

(お父さんとトランプするんだもん、という)

じゃ一回だけよ。

(何度もトランプしている)

もう寝なさい! お父さんも協力しなさい!!

九時三〇 (起き出してきて、お母さんゲンコー書けた? と聞く)

まだ書けてないよ。もう寝るの!
(書けるようにアタマ直してあげるよ、と石頭でゴチン)

いたーい、もう寝なさい!! あしたチコクするよ。



巨家

潤・五歳十一カ月

主人の朝食時間、潤が横から電車の事をいろいろと聞いている。主人は新聞を読みながら少しうるさそう。

「今、パパは食事中でしょ、後にしなさい。少しはパパが何しているのかよく考えてごらんなさい」

主人出勤後、すぐ本を見たり、おもちゃで遊び始める。

「ほら、早くふとんたたんでよ」

食事終り、ごちそうさまを言わない。「ごはん終ったんでしょ、何んて言うの、やりなおし」

「パジャマしまつてよ、洋服に着がえたらすぐしまえばいいのに」

私、後かたづけや洗濯をしている。

潤がいろいろ話しかける。

潤「よしき君ネ新宿に止まって代々木に止まらないんだって」

私「へー、よしき君が止まるの。」

潤 あ・ちがった。中央線だ。

私 中央線って代々木に止まらないんだっけ？

潤 あっそうだ、とまるんだ。

私 バカネー。

潤が山手線の駅名を早口でしゃべる。

私、イライラして、

「そんなに早く言ってたって何いってるんだかわからないわよ。第一聞きたくない人にそんな事言ったってしょうがないでしょ。毎日毎日いやになっちゃう」

登園途中、昨日遊びに行った友達の家で、ちょっとした事が起きたのに、我家に帰って一言も言わなかったの。私は驚き、「どうしてそんな大事なことを話さなかったの、だめでしょ。皆のおかあさんに迷惑をかけたじゃない。」

ちゃんと説明して」 少しショゲて幼稚園へ行きました。

お帰りの途中お友達と約束したが家の事情でだめになったので、家に帰るまでずっとその事を言うので、「約束してもダメな時はしかたがないでしょ、毎日毎日遊べると思っはダメよ。あきらめて他のお友達を探しなさい。ママにいくらいつまでもどうしてもあげられないよ。いつまでもぐずぐず言わないの」

帰宅してからすぐに遊んでしまう。

「ほら、手を洗ってうがいをして」
しばらくして、まだカバンをテーブルの上にそのまま

「カバンはどうするの？」

「園服を脱いで」

「やる事やってから遊びなさいよ」

おやつ時間、ちょうど来客あり、すぐにテーブルの上のおやつをさわり出す。手をピシッとたたいて

「すぐ手を出す、手洗ってからでしょ」

よそのお母さんのバッグの中をのぞいているので、

「あんた、何てことするのノ そんな事しないの。だったら家を出ていきなさい。さっき約束したでしょ」

「ママ達これからお勉強するんだからおしりの一つ二つビシッピシッと。」

いつまでも、おやつをほしがるので「もう、これで最後よ、いつまでも食べてないの。夕飯が入らなくなるでしょノ」

夕方テレビを見ていて、

「そんな寝ころがってテレビ見ないの」

六時テレビ終わり、おかたづけ。

「おかたづけしているの」

「遊ぶの後にしなさいよ」

夕食をとりながら。

「潤ちゃん、あなた少し人にバカみないだつて言いすぎるわよ」

「自分が言われたらいやでしょ、やめなさいよ」

お風呂に入る時間。

「さあさあ、お風呂に入るわよ、早くしなさいよ、何度言ったらわかるの」

一日をふり返ってみて何度子供をせかしているのでしょうか。ほんの五分位まってみると、子供はそれなりに物事をはじめていきます。そこを待てずについ「早く早く」

それでも今日一日は書き留めるという事で、少し意識しておこり方が少ない

い様です。それでも少ないのかと驚くかも知れませんが、体調その他いろいろな事で、もっと罵倒している時もあります。

夕方から寝かせるまでは母親も疲れが出て、つい感情まかせになってしまっています。母親は神様ではないのです。読み終えて、「かわいそうな我子達」。

一日の反省になりました。ありがとうございます。

F家

父・四十歳 母・三十四歳
息子・十歳(小五) 娘・六歳(幼稚園)

AM 6:40 「お早よう、ベッドは？」

(ベッドは直してあるか? の略)

息子ボーッと出てボーッと室にもどる。またボーッと出てくる。

「顔、洗ったか？」(父)

息子ボーッと洗面所へ。兄が注意を受けていることを耳にして、娘「チャーンとベット直してあるモン」「チャーンと顔洗ったモン」と自分はチャーンと

やっていると云う。

息子ボーッと新聞をみている。

7:00 「ホレ、さっさと牛乳飲んでノ」
だまって牛乳をのむ。

「いただきますをしてノ」

「背中!!」(父)

「左手も出して」と娘へ。

△食後▽

「やるべきことはやったの?」

(トイレ、歯みがき、名札をつけて登校の用意すべて)

息子新聞を一人前の顔をして読んでゐる。「うん」と返事。

「机の上は?」ゴチャゴチャあると捨ててしまふわよ!!」

息子「ア—ッ」と室へ。

娘の歯みがきケンサ。

「歯、みせてごらん?」

7:45 「くつをチャンとはいいて!!」

息子登校、かかとを踏んでクツをはいて出ていこうとした。

8:40 「行くよ、カバン持った!」

娘登園。自転車にのせる。

「うごかないのよ」

(カーブなどで何度か言う)

PM 3:00 娘降園、自転車。

「うごかないのよ」

(カーブなどで何度か言う)

△帰宅後▽

「チャンともって行きなさい」

弁当ガラなどを片づける。私に手わたしたので台所まで自分で持ってい

せる。

「モノをお口に入れてブラブラしないの!」 「はいは?」

おやつたべながら歩きまわっていた。

友達がさそいに来た。

4:30 4:00 「外だよ」 (外で遊びなさい)

「そのくつ下脱いでよ」

「バカ、そのまま歩かないの!!」

息子、ドロつきくつ下で帰って来る。

玄関で脱がずに洗面所へ行く。おやつ

をたべながら「アイスもいい?」と聞いた。(一つしかない)

「いいよ、摩子にナイショよ」

「手紙は?」ハンおすものは?」

学校からの連絡「ナイ」と言う。(テスト、ノートも見たハンを押すように

言われることがある)

学校でのことを話しながら「あのネー今日ネー二十分休みにネー……」と

「ネー」を連発して話す。大キライ!!

「ネーネー言わないの!」

5:00 娘を外に呼びに行く。

「五時になるよ入りなさい」

わいふバックナンバー

165号 夫の貞操 (三五〇円)

167号 主婦の近所づきあい (同右)

168号 悪妻 (四五〇円・以下同じ)

169号 母親が働き出すとき子育ては?

170号 変貌する夫たち

171号 ただの女の防衛論議

172号 夫の成功は妻次第?

173号 女とお金

174号 主婦の再就職

175号 子どもたちの心がこわれて行く

176号 わたしの恋愛体験

177号 肉親の老いを見つめる

178号 女・からだの履歴書

送料は一冊二〇〇円、二冊二五〇円
三冊五冊三〇〇円、六冊九冊ま
で三五〇円です。十冊以上は編集部
で負担致します。ご注文は編集部へ
どうぞ。(03) 二六〇一四七七

三十分程ピアノのけいこで指示多発。

「もう一度」「チョガウヨ」「ゆっく
り ゆっくり」etc

台所で仕事をしながらピアノとの間
を往復、隣りに座ったりすると、昔と
った杵づか“でイライラするのでな
るべく離れている。

6:00 娘、「アーツお兄ちゃんアイス
べたでしょ!! アーツアーツ」
と叫ぶ。おやつのアイスの紙も棒も皿
にのせてあるまま、

「ホントニ、バカだね。お前の妹がど
んなに目ざといか知ってるでしょう。
あとは片づけるのよ!!」

「あした買って来ましょう。一つしか
なかったんだから、キイキイ言わない
の!」

6:30 「大きいよ」「さがるのよ」
テレビの音が大きく、前の方でみて
いる。

7:00 「ごはんよ」
二人洗面所に走りあらそい。
「いっしょに洗えるでしょう!!」

デン気を消してしまふマネをしている
兄に「ダメーッズルイetc!!」

「いちいちキイキイ言わないの!」
「待っててやりなさい!」

おかずだけたべている娘

「ごはんもたべて」「ひじ!」

7:30 「やることあるでしょう」

(宿題として毎日、日記がある。時間
割など明日の用意)

「うん」と室へ。

「さがるの!!」

テレビの間娘へ二度。

8:00 「オフロ、たのむね」

息子にフロの用意をさせる。

「チャンとした?」

(栓は? 湯にしたか? 水位報知器
セットetc)

8:15 「ホレ! 祟!!」

風呂の水位報知鳴るので湯をとめに
行かせる。

息子が「摩子もおいで」と言ったの
で、

「お兄ちゃんの言うことをきいて一緒
に入りなさい」

「洗うのよ! きたないと私と一緒に
入ることになるよ!」

(オドシ文句、よほどイヤらしくよく
きく文句)

「いつまでチンタラチンタラ入ってい
るの!!」

シャワーでケンカをして泣いて風呂
から出てくる。

「ギヤーギヤー言わないの!」

風呂のフタがしてない。オケは散乱。

「もどきなさい——い!! あとをみるの
よ、ボンヤリして!! (バカは略してあ
る)」

ついでにオシりを二つ三つたたく。

八本当にぶつときは、高学年の男の子
は太モモが一番無防備で失敗がすくな
く、たたきやすい。子どもが立って親

が腰かけたままやれるヨ！。小学生の間は半ズボンですからね▽

8:45
「オシッコは？」
寝る。

九時になって我が一日の発声練習？はおわるのでした。私の最愛の息子が

G家 長女・十二歳 母・三十八歳

次女・十歳

ドジをしない平和な一日でした。十日に一度は **!!!** があるのですが、このところは静かでして。

我家はセンター・コア式のため、私は「流し」の前に立って、居間（左手）も子供室（右手）も見えます。

●休日なのに友達の家には昼食事過ぎまで居たので「休みの日は友達のお父さんもいる事だし、食事時にはよそのお宅には居ないこと／＼」

●前日に着た洋服、見た本をそのままにしておく。「整理が悪い、ちゃんと片づけなさい!!」

●夕食の後片づけで二人の娘がどちらが洗うか、ふくかで大騒ぎする。妹が洗い、姉がふく事になったが姉は気に入らず文句を言いながら不満の態度を示し、茶わんをガタガタさせているの

で、「どっちをやってもいいでしょ、

いやいやするならやめなさい」といつでも「妹はいつもいい方ばかりとるんだから」とプリプリ、「どちらでも気持よくやる事が一番よ」と返答を返す口を一発たたく。

●帰宅時間を守らなかったのて念を押す。「約束の時間は必ず守る事」

●暇さえあればラジオの歌番組ばかり聞いているので、「聞くのが悪いというわけではないが、はじめをつけて勉強する時は勉強、本を読む時は本と、



もっと身を入れてやりなさい」

●学校より帰宅し、カバンを自分の部屋にもっていかず、居間にほうりなげ遊びに出かける。カバン・セータ等を

玄関に出す。「六年生になっても自分

の身の回りも管理できないならすて
しまいます。机もみんなベランダに出
してしまおうよ!!」

●友達から借りた本をそのまま返さな
い。「人の物は人の物、自分の物とは
っきり区別をつけなさい。読み終った

H家

長女・小二 次女・四歳半

●学校から帰ってすぐに玄関で、「ど
うして鞆がここにあるの。帰ったらす
ぐ二階に持って行きなさい」といつも言
っているでしょう」

●ピアノの練習中

「そんなにひどい弾き方しないで。途
中でリズムを急に変えないで。やさし
くと書いてある所はもっとやさしい気
持で弾くの」

「そんなにめっちゃめっちゃ弾くならご近
所に迷惑だからもう練習やめなさい」

●夕食準備中妹とけんかを始めたので

らすぐ返す事」

●四年生、六年生共、遊びから帰るの
が遅くなる。「夏と違って日が短かい
のだから、暗くならないうちに帰って
くる事」

●テレビを見ながら新聞を見ている。
「どっちかひとつにしなさい!」

「ゆきは小さいのだから、あなたが力
いっぱいぶったりけったりしたらけが
しちゃうでしょ。つまらないことでけ
んかしないで。もうやめなさい」

●就寝時に

「どうして吸引(喘息用の)しないの。
夜中に苦しくなったら困るでしょう。

お母さんは起きてあげないわよ。自分
の身体は自分で治そうと思わなければ
いつまでたっても丈夫になれないわよ」

●口答えがあまりひどいので、

「あなたのように素直にお母さんの言

うことをきけない人にはもう何も言い
たくないわ」

●二女に。遊びに夢中でおもらしした
時(これはほぼ毎日)

「何をしてもちゃんとトイレにい
けない子は幼稚園に入れてもらえない
のよ。お母さん幼稚園の申し込みする
のやめようかな」

●次の日

「教会(日曜学校)はどうしたの。自
分が入りたいと頼んで入れてもらった
のだから、やめたいならちゃんと自分
で断っていらっしやい。何も言わない
でズルズル休んでは先生方に迷惑
をかけるばかりでしょう。クリスマス
会だけ行くなんで恥ずかしいからやめ
てちょうだい」

●妹とパジャマのままふざけ合う。

「二人とも早く着替えなさい」と繰り返し
返すこと数回。たまりかねた父親が大
声で一喝。

この日はどこへも外出しなかったの
で、一日中妹と遊び、小ぜり合いも度々。

イラスト・松本をきえ

どこが悪い？ 日本の子育て

田中喜美子



Ms. ドミニック・ペルグラ

踏んだりけったり
日本の母親

「とび出しちゃダメノ」厳しい声とともに子どもの頬が鳴った。

打たれた子はシュンとしている。

わが家を訪ねてきたフランス人の夫婦が、門口で私と話している間に、連れてきた六歳の男の子が、門から道へ通じる石段をとびはねて、いきなり道へとび出したのである。

幸い自動車も通っておらず、彼はこれといった危険な目には合わなかったのだが、目ざとくそれをみつけたお母さんが、やにわに息子の頬に平手打ちをくらわしたのだ。

指のあとが、すきとおるような白い頬の上に赤く残った。

相当の痛さだったにちがいない。

顔を歪めながら、それでも子どもは泣かなかった。

フランス人が子どもをひっぱたくと

ころを見たのは、その時がはじめてであった。

聞きしにまさるきびしさである。そして日本人である私は、内心、大いに子どもに同情したのであった。

あんなにひっぱたいいいものだろうか。あんまりしつげがきびしいと、子どもがいじけるのではないかしら。親子関係が冷たくなるのではないかしら……。

子どものしつけに関しては、相当気むづかしいほうである私でさえ、フランス式のきびしさに度肝をぬかれ、大きな疑問を持ったのである。

ところが、ところが。

これほど子どもをきびしくしつけているフランスの母親のほうが、日本の母親よりよほど子どもに評判がいいとしたらどうだろう。ア然、ボー然だ。

一九七九年九月、総理府が国際児童年の事業の一環として行った調査をみれば一目瞭然である。

「お母さんはあなたにきびしいですか」

という答えに、「ハイ」と答えている子ども、日本では四七・五％。

ところがフランス、たったの一四・九％。ウッソー、といたたいがホントなのだ。

もっとユーウツなデータ。

「お母さんはあなたにやさしいですか」「ハイ」日本、六三・九％。フランス、九七％。マサカノ、あの、あの、子どもに平手打ちの、フランスの母親が？

蛇足ながら、家庭崩壊が伝えられるアメリカでも、この問いに「ハイ」と答えた子どもは九八・三％もいる。実に、調査の対象となった米、英、仏、日、タイ、韓の六カ国のうち、日本のお母さんは最低位。ビリから二番目の韓国だって、八八％の高率だというのである。

おまけに、母親への尊敬度も最低。アメリカなんか、九九・三％。どの国も、百％に近い高率だというのに、日本はあわれ、ただ一国、七九％。ガクンとおちるのである。

総理府のお役人さん、例によってあの教科書スタイルの作文で「こうしたことから見ると、我が国の母親は各国と比べてみると相対的に低い評価しか与えられていないのではないかと思われる」と、イモの煮えたか煮えないのかわからないような表現だが、こまかくれば隠しようがない、子どもにきびしいフランスの母親が、「やさしい」と慕われ、尊敬され、子どもを甘やかし、しつけがわるいと罵られながら子育てにのめりこんでいる日本の母親が、いっこうに子どもに評価されていない事実が、ありありと浮かびあがってくるのである。

これではあんまりだ。日本の母親たるもの、踏んだり蹴ったりではないか。
**・やさしくない、おかあさん
　　いっただいどが悪いのだろう**

いっただいどがわるいのだろう。

今回の「母親はどんなとき子どもを叱っているか」のレポートをみて、

日本の若いお母さんは決して子育てを放棄してはいない。いやむしろ、一所懸命である。絶えず注意したり、命令したり、叱ったり、はてはオドカしたりして、子どもに注意を集中している。寄せられたレポートは、ぜんぶで四〇〇字づめ原稿用紙で百枚もあり、それを通してらグッタリ疲れてしまったほど、母親の絶えまないしんどさが伝わってきて、「いまだきの母親は——」と、放任主義だの、自己中心だのと、あしざまに伝えられる評判が、少なくとも「わいふ」の読者層に関するかぎり、濡れ衣であることがよくわかったのである。

しかし不思議なことに、それだけのエネルギーを払っているのに、しつけがあんまり効果があがっていない様子もうかがわれるのだ。

「何度いったらわかるの！」という母親の苛立ちが、これまた行間にありありと読みとれるのだから。

どうしてなのだろう。

絶えずガミガミ注意してるのだが、いっこうにしつけが身につかない子ども。何度いっても身につかないので、母親のイライラはこうじ、ガミガミがますます増幅する——ごく単純化すると日本の母親のしつけはどうやらこんなパターンにはまりこんでいるように思われてならない。

「あなたのお母さんはやさしいですか」という問いに、ハイと答える子どもが世界最低なもの、こんなところに原因があるのではないだろうか。

実際、総理府の他の統計を見ても、「子育てが楽しい」と答えた日本人は二〇・六％で、欧米諸国と比べるとおどろくほど低い。フランスは七六・六％で世界最高である。

あれほどきびしく子どもをしつけているフランス人が、一方では子育てを楽しいものと感じており、子どもを甘やかすことでは世界的に定評のある日本人が、いっこうに子育ての楽しさを感じていないなんて、いったいどうな

っちゃってんの、といたいのだ。

しつけ不在？ 日本の子育て

「日本人はともかく子どもを叱ろうとしないわね」

私の疑問にこたえて、フランスのリセで教えているシルヴィ・オーダンはいった。

日本では、フランスでは考えられないほどの子どものしつけの悪さを目にする、というのが彼女の実感である。

夏休み、ビーチでねころんでいたシルヴィの額に子どもたちのボール遊びのそれだまが命中した。たまを拾いに来た子どもから、「ゴメンナサイ」の一言もなし。そばで見えていた母親も、まったく知らん顔。

フランスでは考えられない不作法である。

道でボール投げをしている球が外れて、よその家の庭にとびこむ、ということは、洋の東西を問わずあることだが、「日本の子は、断りなしに入っ

きて球を拾って逃げていく。フランスだったら、ちゃんとベルを押して、家の人に、タマがお庭に入ってしまったのでとらせて下さい」って断って、お礼をいって拾って行くわよ」とシルヴィはいう。

でも子どもがボールあそびして、よその家に入るときのことまで母親の目が行き届くものだろうか。

「母親ばかりじゃないの。無断で人の庭に入りこんで逃げていったりしたら、隣りの人が黙っていないもの。その時つかまらなくても、必ずあとで両親の耳に入るわよ」とシルヴィ。

日本人だったら、子どものイタズラと軽く見過されることを、社会一般が見逃さないのだ。

日本ではちがう。「ワンパクでもいい。のびのびと育ってほしい」というコピーにも現われているように、たかが子どもじゃないか、少しぐらいのイタズラやワガママに、目くじらたてることがあるもんか、という気持は、日

本人の心の底深くに巣食っている。

たかが子ども、と大目に見ているあげくのはて、日本では大抵の子どもが、西欧人の尺度ではかれは、野放図もなく甘やかされた駄々っ子になっている、といってもいい。小さな子どもを持つた母親が、親しい友人を訪問しても、おちおち話もできないのはそのためだ。子どもがうるさすぎるのである。

シルヴィは五歳のときから、家族的なパーティのときには食卓に加わることを許された。その代り、大人と同じく、みなのお事が終るまで、立ち上ることを許されなかったという。

「食事に加わることができるのは、私が十分大きくなって、一人前にふるまうことができるという意味でしょ。もしきちんとそれができなかったら、みんなの仲間入りができないもの」

フランスの子どもは、いわば小さな大人としてふるまうことを期待されている。

もちろんシルヴィも、いつもいつも

いい子でいられるわけではない。そんなときは容赦なく叩かれた。叩かれても親のいうことに筋が通っているから、怨みはしなかった、という。

日本人のしつけの特徴

それではいったい日本の親たちは、わが子にどんなしつけをしたいと思っているのだろうか。

前述の総理府の調査によると、親が子に身につけてほしい大切なこと、という質問に対して、日本人のあげた第一位は「基本的な生活習慣」で、六カ国の中でも一位の高率である。

「わいふ」のレポートにもこのことははっきり現われている。

「歯をみがいたの」「顔洗いなさい」

「脱いだものはカゴの中に入れて」

「テレビの近くでみちゃダメ」と、

朝から命令と禁止の連続。まさに、基本的な生活習慣の確立のために、総エネルギーを結集している。

これに反し、フランスの親が重視し



Ms. シルヴィ・オーデン

ているしつけの第一位は「責任感」そして第二位は「礼儀正しさ」だ。

これはシルヴィの言葉とも重なりあう。彼女は言ったのである。

「私たちが教えられることは、他人を尊敬すること」と。

他人に迷惑をかけぬこと、不愉快な思いをさせぬこと、できれば他人にサ・ービスすること。フランスの「礼儀」の基本はそこにある。

人を指差して「お母さん、あの人がおかしいよ」などといったらひどい目に会う。イギリスでもこの行為は、

「No pointing!」と手ひどいたしなめを受けるのだが、日本の母親は、はたしてどれほどの人がこの行為を手ひどい叱責に価すると考えているだろう。

そう思って「わいふ」のレポートを見直してみれば、なるほど、基本的な生活習慣に関する命令、禁止は限りなくあるが、対人関係のしつけは、ほとんどなきにひとしい、ということに気がつく。大体、暮しの中に「他者」がいないのだ。

「他者」とはいったい誰だろうか。私たちはここで、欧米の子育てと、日本の子育ての基本的な相違をつきつけられる。

アメリカ人にせよ、フランス人にせよ、子どもにとって最初に存在する他者とはまず「親」なのだ。

だから「他人を尊敬する」ということは、まず親子関係の中の、言葉を基本として叩きこまれる。

もの心ついたところから、「ありがとう」「どうぞ」「すみません」「失礼」

こうしたことばが、くり返しくり返し教えられる。三歳の子どもに「Will you please?」ではなく「Would you please?」といわせようと、くり返し

教えていたアメリカの母親の姿を、いまでも私はありありと思い出すのだが、いったい私たち日本人の間に、こうした言葉のしつけが存在するだろうか。

日本では親と子、いや母親と子は一体だ。一人の人間として子どもをしつけるのに必要な心理的な距離が、そこにはほとんど存在していないのである。そしてこうした親子関係をもとにして、他者との関係も構築されて行く。

アメリカの子どもが大人のパーティの仲間に入れてもらえるときには、小さいながらおつまみの皿を人々の間に持っていく、「どうぞ」とすすめたり、テーブルの上ではお皿をまわしたり、相応の役割を分担させられる。

日本では、子どもは神様、王様だ。

大人の間にしゃしゃり出て、大人同士の話に口をはさんだり、テーブルの上

を引っかけまわすことさえも、親が真先に黙認し、他人は内心イライラしながらも、笑って見過している。

家の外に出たらば出たで、親がわが子にいうことは「そんなことするとホラ、そのお姉さんに笑われるよ」「おまわりさんに叱られるよ」のワンパターンといった言い過ぎだろうか。

そこにあるのはただ、人に後ろ指をさされまいという受身の態度ばかりだ。

母子一体感今やマイナス

東京女子大の柏木恵子教授らが中心になって行った「母親の態度・行動と子どもの知的発達」(一九八一年・東京出版会)の中に、興味深い分析がある。

親が子どもをしつづけるとき、アメリカの母親は、きっぱり「いけません」「こうしなさい」。日本の母親は「ごちゃごちゃ理由をくつつける」「せっかくお母さんが作ったんだから、これ食べてくれないと悲しいわア」あるいは

「食べないと大きくなれないわよ」

米国は断言型、日本は情緒型なのだ。何となく相手の情緒に訴えていることをきいてもらおうという態度、心理学者はこれを、母子の感情的な近さによるもの――要するに母子の一体感によるしつけと考えている。

一体感というときこえはいい。しかしその結果、どんな子どもが、どんな親ができあがったか。「他者への尊敬」どころか、基本的な生活習慣さえ、なかなか身につかない子ども。絶えずイライラと、子どもに干渉する母親。

雑誌記者で日本通の、ドミニック・ペルグランはいう。

「日本の母親のイライラが昂じるのは当たり前。一人ぼっちで子育てをしているんだもの。フランスの父親は、夕食の時間には帰ってきて、ちゃんと子どもの相手をしてくれるもの」

父親不在の家庭の中で、母子一体感は無限に肥大し、母親は潜在的に子どもの自立を望まないまま、子どもに干

渉しつづける。ドミニックもいうように、「日本の女たちは、いつまでこの状況に堪えるつもり」だろうか。

●ウーマンス・ダイヤリー

こんなのがほしい、と思っていたのにピッタリのダイヤリーを、グループ・エスアールが作ってくれました。ヨコハ・五cm、タテ一七・五cmの厚さ約五mm、左頁に一週間の曜日と日づけ、右頁は余白。これは本当に使いやすそうです。女に役立つニュースがついていて一冊千円、送料一七〇円。わいふ編集部でもまとめて申込みました。おすすめできます。申込は立川市柴崎町二ノ二一ノ一七ノ二〇一グループエスアールへどうぞ。

サークル だより



●丹沢グループに改名、

ご参加を！

伊勢原グループとして添田氏宅で長い間集まりを持っていました。添田氏が新しく仕事を始められたため、場所を秦野市に変更。

また、メンバーもふえ、松田・箱根方面から参加してくれるようになり、一つの地名にせず広く丹沢一帯で連帯してゆこうということになり、わいふ丹沢グループと名称も変更致しました。

と同時に秦野市の「委託成人学級」というものに合格し、学習援助金五万円を受けられるようになり、これは目下のところ、

城谷正雄氏による「子供に教えるSEX」円より子氏による「夫婦の関係」(題・未定)の講演会を予定、他にも添加物、年金の学習等もくみいれ、雑誌わいふのテーマに基づく話し合いから、身近な問題をわずかずつでも真剣に話し合い考える場にして行こうと計画しています。

子持ちの主婦の集まりのため毎回メンバーが揃うということのはめったにありませんが、月二回の定例会で頑張っています。

隣の部屋で遊んでいるはずの子どもたちが時々こちらにおしよせ、話が中断したり横道にそれることもしばしばです。楽しく続けて行きたいと思います。

丹沢附近にお住まいの方、仲間に入っているだけでもいい。まだまだ未熟です。よいご意見ありましたら聞かせて下さい。

秦野市桜町二一四一六五
〇四六三三八二一六八〇二

威能 和子

●サークルだより「八王子」

言いだしっぺがたよりなのですが、集った人がみなしっかりした考えをお持ちで、この分では何とかなるのではないかという感じでスタートしてきたのサークルです。

はじめて顔を合わせたのが十月十五日。無理を言って編集部の和田さんにもお越しいただき「わいふ」の成り立ちから説明していただきました。今のところ八人。まだ何も決まっていませんし、各自が初対面ということ。第一回目はそれぞれの考えや「わいふ」に関しての話にはなが咲き、二時間という時間はあっという間に過ぎてしまいました。

しかし、井戸端会議では得られない充実した時間でした。近辺の方で意欲のある方、一緒にいろいろなことを考えていきませんか。連絡先 〇四二六(六六)一四一七

八王子市長房町五八八都営住宅

一一五一四

小宅 昌枝

●横浜サークルだより

(その一)

おびいひもとおしめをかかえて、サークルの中のお荷物だった祐子に、今では「あんたが八人の中で一番のお姉さんなんだから」とたしなめる迄になったこの三年半。メンバーの中で子供の手が離れた人達はサークルの卒業生として夫々自分の道に進み、残されたのは乳幼児をかかえている者達となりました。

いつもワサワサと小さい子を従えた中で、サークルが運動体となり得るか」と問うた時、私達の武器は、この子供達と一人一人の誠実さでした。色々な会（県や市の主催の会等）に、とにかく子連れで参加して託児の必要性を示そう、とある例会で確認。大根公民館の託児のすばらしさに触れたりする中で、託児制の要求は親のわがままでなく、小さい子をもつ親の参加を互いに保証しあう為に必要なのだとの確信を強くしました。本当は、障害のある人、又その介護者や老人をかかえた人の参加の保証までゆけばよいのですが……。

そして今日、横浜市の婦人会館で催された藤井治枝氏の講演会に、市の教育委員会、会館他の主催という形ではじめて託児がもうけられました。託児を要求したものの、利用者が少ないと、又逆もどかしそうなので、皆で子連れで参加しました。十月十四日からの同氏の十回講座にもつくとの事です。

私自身の夢としては、会館そのものに常設の託児所があれば一番ですが、せめて、



会館の各部屋に畳二畳程の子供用コーナーをつけること。子供たちから乳児を守るためのベビーベットを各階に一つ位備え、必要な時に持ち込んで利用できること、ロビーにデパートにあるような遊びのコーナーをつけること、会館利用団体用のロッカーを設置することなど、まだまだサークルのすばらしい仲間としてゆきたいことがありますが、私個人はたおれた実父の看護生活

に入らねばならず残念です。

サークル発足当初、何回か私の家で会を開いた事がありました。が、その中の一人が、個人宅での開催にとても難色を示し、そこで、公の施設を利用した故に、様々な問題にぶつかってよかったと考えています。

〇四五―三三三―五二六五 武田 睦

(その二)

会員六名と入園前の幼児三名の出席。

引き継ぎ・連絡事項として早々とクリスマス会の日程などの事務連絡の後、一七八号の合評会。（十月二十九日、横浜婦人会館にて）戦後女性解放が性に関わることから手がけられ、当時の女性たちにとっては隔世の思いを抱かせるほどの変りような昨今、特集記事に大いに期待した。が、性についてどれだけ能動的になっても女も社会の一員として自活できる基盤を作らなければ問題解決にはほど遠いと思う。特集記事が暗い印象のものばかりだったのにはがっかりした。受身的で被害者意識的で自分の生き方がハッキリしていない。と、言っても今の世の中では思想・信条を夫と全く違ったものを持って共同生活を営むことは

非常に難しい。男だから女だから、ではなくて男も女も、という風に考えられないだろうか。毎日の生活の中で少しづつ自己主張を広げて行きたいと思う。

山住正己氏のインタビュ、今一步物足りなかった。教科書裁判にも関っていらっしゃるのだから経過的な、模範的な応答ではなくてもっとつこんだ、最先端を行く生の声——政府の対応の仕方・山住氏の本音等が聞きたかった。またいつもあざやかなまとめ方をなさる早川さんのサエも今回は余り感じられなく残念に思う。

この会から職を見つけて自立なさった方、今年に入って七十八名。毎日の家族との小さな摩擦で滅入ってしまう私の大きな励みになっている。

横浜市金沢区西柴一—一八旭荘一号室

目下 博子



●編集部訪問

十月十九日、渋谷サークル同輩の木村道子さんと新宿区加賀町のわいふ編集部訪問。

わいふでお馴染みの和田好子先輩、原田静枝先輩、それに一七六号でヤップ島の記事をお書きになった目下恵子さんにお目にかかり、それに私達二名が加わっての会話。田中さんは、フランス人のジャーナリストを下宿人に交渉中とかで、赤い髪の女性をお連れになって、フランス語で御案内、会話にあまり入っていただけなかったのがとても残念でした。

座は、和田さんが巧くリードして下さって、優生保護法から女の自立、再就職、子育て、戦争等に話が及びました。最初編集部の皆様は、世代の相違によるギャップを非常に懸念していらっしゃる御様子でしたが、お話を伺った限りでは、それは全くと言って良い程感じられず、むしろ日頃モヤモヤと感じていてうまく表現し得なかったものを、豊かな知識と体験の裏付けのもとに、確かな言葉で表現して下さった和田先輩に、多くの共感を持って参りました。そ

してそれは、今迄何かと世代の相違で済ませて来た人間同志の分かりあえない部分、それが実は世代の相違によるものではなくて、個人的相違だった、と考えを正すほどのものでした。

私はと言えば、我が不肖の娘が、編集室をかき回したり、騒ぎ立てたりするのに恐縮、それと日頃お書きになったものに畏敬の念を表していた大先輩の皆様にお会いできた緊張感が手伝って、まともな話もできずに退出してしまいました。殊に、渋谷サークルの仲間と話し合って問題点となっていた「再就職の際、どこまで子供を切り捨てるか」について質問できなかったことは、心残りです。

また機会を見て編集部を訪問し、昔風に言えば、丁稚奉公している気分、先輩方の文章、知識、言動などを盗んでみたい、と密かに思っているところです。

杉並区 根本由果里





キリヌキ菌保菌者同盟

表の顔は「わいふ資料部」

裏の顔は「全日本奇女連盟」

七つの顔をひっさげてまたまた登場、
恐怖のキリヌキ菌保菌者同盟なのだーっ

早いもので「わいふ」が厚くなってからもうまる二年、これが十二冊目ですね。「人妻ボルノ？」なんて言われたので編集部じゃ相当メゲてるようですが、㊤同盟の中年キヤル共ときたら例によってワル乗り「そうか!! ボルノと思わせりや男も買うんだ、さっそくビニールカバーもしなくっちゃ」編集部改築するんですよ? ついでに地下にバー「わいふ」を開店して、ス

数字に注意!

さて、今年の新聞週間の標語は「新聞が大きく育てる小さな主張」とか言うのでしたがミニコミ関係者としてはいささかカチンとくる面もありますね。どうせ我々は小さな

主張でござんすよ。

ところでマスコミはしょつ中「何とか調査の結果によれば」という記事を流していましたが、こういうのは相当気をつけて読まないといけません。十月五日の各紙朝刊に、子供の骨折に関する日教組の調査結果が報じられていましたが、サンケイと日経が「母親の働いている家庭の子供は骨折しやすい」と書いているのは実に問題です。五種の日刊紙をよくよく読み比べた結果、この調査でわかったことは、「骨折する子供は親も兄弟も骨折経験あることが多い」「よく運動する子は骨折しにくい」「好ききらい、間食、栄養バランスと骨折は関係があると思わ

れるが、リン摂取との関係ははっきりしない」などであるようです。以上は全国にわたって千人以上の子供について調べたもので、朝・毎・読の三紙はニュアンスの差はあるものの、大体この線ですとまとめています。これと別に、百六十人の子供(首都圏のみ)を調べた結果、骨折したことがある専業主婦の子供は五十八人、骨折していない専業主婦の子供は六十二人、この四人の差をもって「カギっ子もろい」と堂々の見出しをつけるサンケイの見識、皆さんどう思いますか。

もっとひどいのは、サンケイのこの記事には、何人調べたのかという数字が全く出て

WIFE SCRAP BOOK

おらず、始めから終りまでパーセントのみで書いているのです。PTA広報や子供のカーベ新聞だってそんなことはやりません。日経は五紙の中で一番小さくとり扱っているが、数字はさすがにキチッと出ているのに「その結果母親の就業の有無が子供の骨折にも影響を及ぼしていることがわかった」これがよい。マスコミの一部では、とにかく母親が家にいないから悪いんだ、子供が非行に走るのも、郵便ポストが赤いのもといった感情がいつもあって、何か事件といえはソレツ、調査といえはソレツ、と「働く母親」を原因にひっぱり出す傾向が強いように思います。他にもマスコミの持っている先入観、意外に多いのではないかと思うのですが、読者がそれに引きずられず、常に「本当にそうなのか」「どこからそういう

ことが出てくるのか」という眼をもって読むことが、本当に必要なでないでしょうか。

毎日新聞での 大論争！

一七八号の編集後記にもありましたようにわいふ再就職セミナーを発端として、主婦が働くことについて活発な論議が毎日新聞紙上で続けられました。限られた紙面のため、田中さんの「自立可能な収入」の論は、やや結論を急いだ感もあり、わいふ読者の中でもとまどいが見られるようです。一連の論議について、毎日購読していない方で詳細を知りたい方、コピーお送りしますのでお申し出下さい。希望者が多い時は実費(三百円くらい)負担をお願いします。この論議はぜひ、「わいふ」一七三号「女とお金」の特集と共に読んでみることをおす

めます。特に田中さんの「主婦は仕事をしない人？」と和田勉氏のインタビュ、読み返してみると実に示唆的。しかし、この問題は、一筋縄ではいかない面が非常に多い。田中さんの「夫のサラリーが家族を養うために決定的に足りない場合、妻はごくすんなりとフルタイムで働きはじめ夫婦の関係も自然に変わってくる人が多い」という意見、たしかにそういうケースもあるでしょうが、共働き家庭ですら平均六分という日本の夫の家事時間や、日本と同様家事を男性がやらないソレでは、ほとんどの女性が経済的理由から働いているものの、女性の状況は決して好転せずむしろ女性の多い職業の賃金が低くおさえられている(ニューズウィーク誌からサンケイ九月二十五日で紹介)現状、また「性と平等」誌などで伝

えられるように男女雇用平等先進国である北欧諸国ですら、賃金・昇進の格差がなかなか解決されないというようなことを考えると、「あくまで家事育児に支障のない範囲」という限定は、はたしてあくまでも正面からぶつかって攻めくずすべきものなのか、からめ手から徐々に「範囲」を広げていく方が効果的か、当分は結論の出ない問題ではないでしょうか。

もう一つ、日本独特の、社会の二重構造が、主婦の就業問題においても色濃く反映しているように思います。低成長期に入り、大企業と中小企業の給与待遇などの格差は、より大きくなったことが日銀、中小企業庁、労働省などの統計(日経九月二十三日)でも、国税庁の民間給与調査(いわゆるサラリーマン白書 九月二十六日各紙朝刊)

WIFE SCRAP BOOK

でも報じられています。

田中さんが歯がゆがる所の、再就職セミナーに集まっても一歩をふみ出そうとしない主婦たちの夫は、ほとんどが、この二重構造の大企業サイドにいるエリート層です。彼女たちが田中さんの叱咤激励に奮起して、よっしゃやるかとフルタイムの仕事を探したとしても、この二重構造の中で夫と対等な立場に立つことは、いったん主婦になってしまった後ではまず不可能です。セールスなどの適性のある主婦なら、夫とほぼ同じ収入を得ることは、努力次第で可能かもしれない。またOAなどに挑戦したり、人材派遣業を利用したりして、夫も喜ぶ時間効率のよいアルバイトに精を出し、ナウいミセスとやらやましがられることも出来る。しかしこれらはしよせん、メス（女性）のスペシャリスト

で、医師や弁護士など、主流のスペシャリストとはつきり格が違う。

そしてここが肝心な所ですが、再就職を望む彼女たちのうち何人が、夫と対等の地位を求めているでしょうか。自分に手の届かない地位にいる男だからこそ、結婚したのではないのでしょうか。戦後の男女同等の教育を受け、楽しみも遊びも覚えてしまった世代の高学歴女性にとって、結婚というものにそれ以外の何のうま味があるのでしょうか。

田中さんの提起した問題は、労働問題というよりも、今後の女性解放運動の最大の焦点となるべき大問題であったことがこうしてみるとよくわかるのです。女が男と同等の教育をうける、能力をみがく、それが男と、対等になる手段にならずに、より強い男に自分を、高く売る、ための

商品価値アップの意味をもつてしまう。女自身がむしろそう動いている。自分と同じレベルの能力・地位しかない男、自分より劣った男を女は愛せるものだろうか？ という疑問にいきついてしまうのです。「家事育児にこだわって一歩をふみ出す決心がつかない」というような単純なことではないのです。

主婦の再就職の問題も、よい悪いは別として二重構造を無視しての対応は意味をもたないでしょう。今述べたエリート層主婦の問題、そして一方では、酒乱、パクチなど性格破綻の夫と離れて、とにかく乳幼児を抱えて食べてさえいければよいと仕事を探している主婦たち。この層の主婦たちは、わいふ再就職セミナーなど存在すら知らないでしょうが、いったん女ひとり、子供を抱えて生活できるとわ

かればもう恐いものは何もない。そうしてみると女性解放の曙は、非エリート層からということになるのか。それとも、自分の力で子供を抱えて生活していても、やっぱりエリートの奥さんで優雅にくらす人がうらやましいと思うだろうか。

一つ確実にいえることは、今後ダメ男はどんどん女から見捨てられていくということです。エリート層の妻たちは、先に述べたように、性別分業を受入れてもまだ結婚のうま味がある。しかし地位なし、収入低し、そして昔ながらの男権思想をふり回して妻を束縛しようなどとする男はもはや見放されます。男性の結婚難について、ちらほら新聞もとり上げはじめましたが（サンケイ四月十四日、日経九月二十四日）女にとって結婚のうま味とはいったい何である

のか、男性諸氏もよく考えてほしいものです。とても「結婚は女の幸福」などというきれいでない現実がみえてくるでしょう。またエリートは大丈夫というのも現役での話。定年退職して、タダの人になった後は……？

おたより広場

「過日はお願い申し上げた「食物レポート」の切りぬきその他を早々とお送り下さりありがとうございます。（中略）今、ほんとに深刻に悩んでいます。家族ってなんだろう、って。（夫が深夜帰宅のため）父親不在の食卓、いれたいで口やかましいお説教を聞きながらの食事、母親が「笑顔で味つけ」「笑顔の食事」を実行すればいいのかもしれないが現実としては正に反対のことをやっています。切りぬきコピーをさっそくトイレ

の壁にでもはっておこうと思います。一日数回は確実に訪れる場所だから夫の目にも入るだろうし……クサイ期待をしております。」

——「食物レポート」の貸し出しが、一七七号発刊と同時に相次ぎ、びっくりするやらうれしいやら。食べることで本当に生活の基本だものね。

「実は「わいふ」一七八号と「いま人間として」両方拝見しておりました所から、㊤同盟のことを知りまして、いったいどういう方がされているのかと考えておりました。私もひそかに切りぬきをはじめてから二年ぐらいたちます。（中略）私の切り抜きのことを知った上司から、そんなことをして何になるという意味の忠告を受けました。しかし平凡な私には切り抜きを続けることしか能がないと思います、細々ながら続けています」

——どーゆー性格の上司じゃ。ふつう部下が保菌者だと上司は喜ぶものなんですが。メゲないでがんばって下さい。

㊤同盟からのお知らせ

㊤同盟に興味ある人は、菌の汚染度により次の各段階で参加できます。

第一次汚染 毎号「わいふスクラップ帖」を読む。

第二次汚染 ㊤同盟に手紙を出したり自分のキリヌキを送る。キリヌキ貸し出しを申し込む。

第三次 保菌者集会（不定期）に出てきてしゃべり合う。

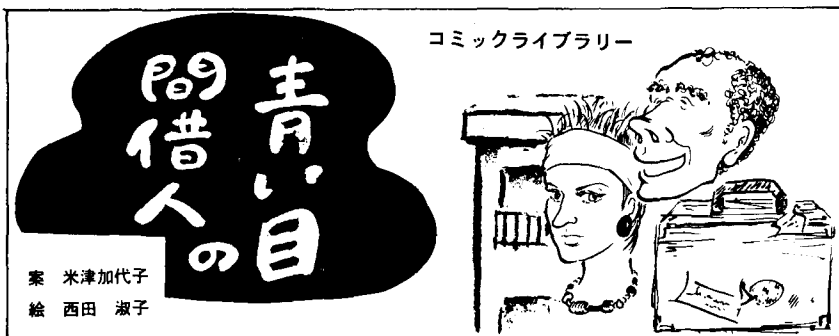
第四次 ㊤同盟のファイルを担当する。自分の興味ある分野のファイルを所持することができます。ただしマコトファイル（一七八号参照）だけ現在の担当保菌者が死守しております。

第五次 「わいふスクラッ

プ帖」その他の原稿を書く。（原稿料を他の保菌者にたかられても同盟は関知しない）

キリヌキ菌保菌者同盟は、マスコミ情報の受け手から送り手へのフィードバックを通じて、多様化する価値の中で情報について考えるグループです。（カッコいいなあ!!）こうしたテーマでの編集・出版・各種調査企画など何でもお手伝いします。ただしギャラは高いゾー。（もったもったイイ男の依頼だとタダでも仕事しちゃう保菌者がいるというウワサ）連絡は左記へ

○電話は声美人の亀山和枝
○四七三・四五・七八六二
○手紙は筆美人の四方愛子
〒277千葉県柏市増尾三六一



バカンスで日本にきたというこの夫、一日ゴ
ロゴロ。妻はファッションモデルとか。



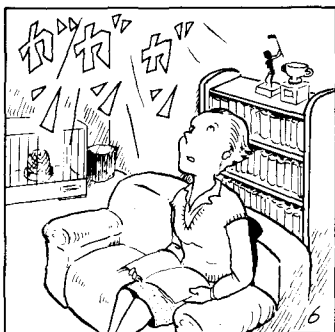
子どもたちの巣立ったわが家、広すぎるので
二階を家具つきで貸すことにしました。



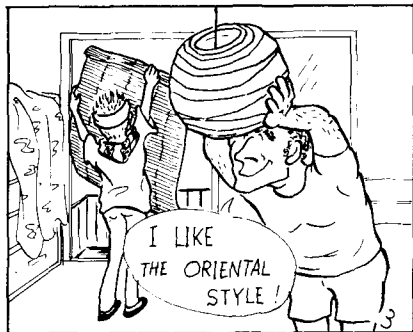
夜は夜としてドンチャンさわぎ。



周旋屋が連れてきたのは何とアメリカ人の夫
婦。



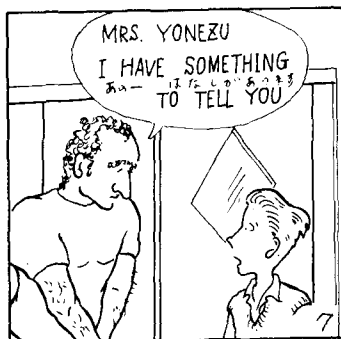
ある日夜遅くまで本を読んでいると、二階か
らすごいもの音。



その翌朝……



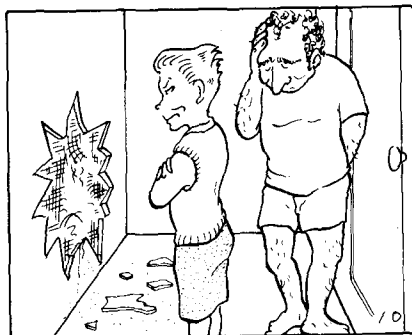
すぐに大工をよんで見積らせた。



御見積書		
開口材料	doorway band	22,000
石膏ボード	wall board	1,100
釘・接着材	nails	1,500
壁紙	wall paper	30,000
大工手間	carpenter's work	8,000
〆手元		17,000
〇塗り	painting	17,000
片開き扉吊込金	door hanging	6,000
養生材処分	expense for bus	2,000
運搬費	transportation	4,500
諸経費諸公課	other expense	6,900
合計		116,000



一週間後、大工が直しにやってきた。



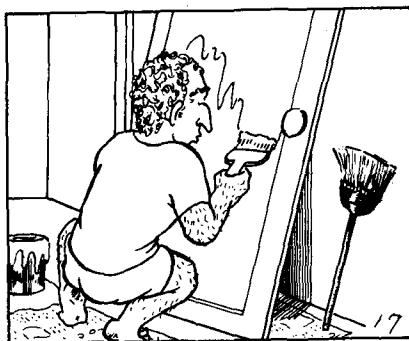
いざペンを塗るだんになったら……



請求書	
開口枠材	22,000
石膏ボード	1,100
釘・接着材	1,500
壁クロス張り	30,000
天井クロス	11,000
大工手間	8,000
大工費	9,000
片開き扉取付	6,000
養生材処分	2,000
運搬費	4,500
諸経費諸公費	6,900
合計	92,000
	99,000

21

再交渉の結果、請求書は再び書き換えられたのである。



さて支払いのだんになると……

バリカンと ウーマンリブ

文●橋本チエ子

「職人の仕事は見て習うものだ」と夫はいう。少なくとも理容師の場合よくいい当てている。お客様の頭は、とりはずして預かることはできない。つまり師匠と弟子で、お客様の頭を中にしとかんかんがくがく、講義や研究をしたりはできないのである。下手でもい

いからやってみて、失敗したら新しいのを弁償しよう、などということは一層できない。

だから弟子は、ただただ一生懸命、師匠の仕事を見ているより仕方がない。そんなある日、くせ直しの作業が終わっても、一向に師匠はそばにやってこな

い。客をはったらかしにはできないので、弟子はおそろおそろはさみを入れる。いくらたっても師匠は知らんぷりだ。実はこの時こそ念願の「仕事をさせてもらえる時」なのだが、とうとう最後まで髪を刈ってしまいながらも、「この刈り方で、いいのだろうか」と

気が気ではない。

お客様を前にして「お前やって見い」などといえ、けいこ台にされることが当の客に歴然となってしまうから、師匠は「この頭なら、この弟子にできそうだ」と思った時には、ただ黙って知らんぷりをしているだけである。だがその時、師匠は全神経を働かせて、弟子が間違ったことをやらかさないと注意している。こりゃ駄目だと思った時は、ちゃんと交替にやってくるのだから、師匠の知らんぷりは「そのやり方でいいよ」といつているのと同じことだ。

私など今でも仕事をしていて、「このお客様、この刈り方でよかったのかな」と思うときは、夫が黙っているのだからこれでいいのだろうと思うことにしているが、時には一生懸命仕上げた部分を、交替した夫のバリカンでアッという間に消し取ってしまわれる時もある。つまり、その客は私が判断したのより、もっと上の方まで刈り上げ

るヘヤースタイルの持ち主だったわけだ。こんな時、そのお客に対してきまりが悪くて、いたたまれなくなる。だがそんなことにめがけては、理容師にはとてもなれない。

なにしろ理容師は、一丁前になるまでに客から、「あんたじゃ駄目だ。他のものに替ってくれ」といわれて、しよげかえった経験の一度や二度ないものはいない。理容師の卵達はじめにそういうわれた時、店の外に飛び出してしまったり、床にしゃがんで泣き出してしまうたりする。中にはそれっきり修業をやめてしまうものもあるのだ。

少しずつ仕事をさせてもらえようになつて得意になっている時や、反対に、刃物は切れないわ、手は思うように動かないわで、体が熱くなって、泣きそうになつて頑張っている時、そういうことをいわれるのである。そんな時、理容師の卵達は悲しいやら、はばかりしいやらで、身のおきどころもなく

なるのだが、私も例外ではなく、まことにつらかった想い出がある。インターン生達よりなまじ年をとっているの、で、「もういい大人なのに」という思いが先にたち、はばかりさも一しおであつた。

＊

なにしろ理容師の仕事は、お客様に直接さわってするものだから、つらい修業はすべて公開授業。お客様の目の前で恥のかきっぱなしだ。

理容師の卵達はそこで、傷つき傷つき、一歩ずつ前進する。いや、いつも前進するとはいえないし。歌の文句じゃあないが、三步進んで二歩さがる。敏感な皮膚に鋭い刃物をあてる仕事であれば、時にはすぱりとをはを切ることもある。おかっぱの髪と一しよに、子供の耳たぶを切り落としたインターン生もある。そういう時にはとても二歩や三步の後退などでは済まなくて、

幾日も幾日も御飯がのどを通らなかつたり、かみそりを持った手が動かなくなったりする。

仕事はことのほかむずかしく、ごく簡単そうなシャンプーでさえ、職業としてのそれはちょっとした技術である。ただ汚れを落とすだけではなく、客のかゆいところを我が感覚として読みとり、指先の力もある時は強く、ある時はしなやかに……と心を込めるのである。しかも、それらの作業はなかなかの重労働でもある。

私が始めてお客様の頭を洗った時は、なんと着物を着て白いかっぱを着つけていた。今思い出すと、仕事をするのによくあんな重くるしいかっこのをしていたものとおかしくなるが、その時私は客の前で、楚々とした若妻姿を、夫のために演じているつもりだったのだ。そして、シャンプーぐらいが、着物姿でできないほど、重労働だなどとは思ってもいなかったのに、客の脇にいてやらなければならないそれ

は、どうしてどうして。私は一つの頭のシャンプー半ばにして、腕が動かなくなってしまうものだ。

重労働といえば、手動バリカン（電気バリカンがあっても、手動でやらなければならぬ時もある）で丸刈りをする時もそうだ。バリカンはジョッキョキと、一回一回の刃の動きをいかにげんにはできない。すなわち、一度刃にはさんだ髪は確実に切らなければ、髪の毛の中にバリカンが喰い込んでしまうのだ。たとえ見習いといえども、素人のように、切り残した髪の毛をバリカンと一しよに引っこ抜いておきながら、痛いといって泣く子供を叱ってなどはいられない。

なれた理容師はいとも簡単に、一つの頭をすっぽりと刈り取るけれど、それは苦勞の末に、その作業に必要な筋力をつけているからである。私が始めて手動バリカンで、まがりなりにも一つの頭を刈った時のこと、お客様の手前、すまして、しかも必死に刈り上



げて、その直後に（つまり、後は夫に交替してもらって）つけのお客の家へ集金に行ったら、手がふるえて受領書に書く文字が、どうしても書けなくて途方にくれたのを覚えてる。

なんと、手がびくりびくりとひとりでに動いて、3という字が何度書き直しても、おでこがもう一つ余分について（3）になってしまったのである。

＊

ところで私は以前、なにかで、理容所での顔剃りのことを書いた文章を、一度ならず読んだことがある。名前も忘れてしまったけれど、どれも名の通った文化人のものであった。内容もほぼ共通で、「どここの理容店へ行っても、皮膚をつまんだりひっぱったりしてまで髭を深く剃るのはかなわない。特に、石鹸のついた指で唇をつまむのはいやだ」という主旨だった。

けれどこれは理容師にとって酷な言

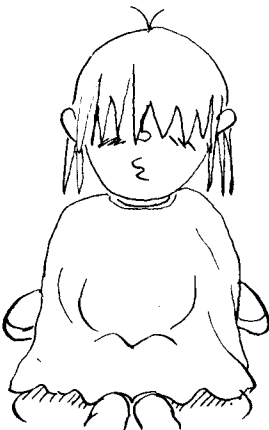
葉である。お客様には、それを望んでこられる人がたくさんおられて、理容師達もそれをするために、一生懸命修業をしてきているのである。けれどもそれは、先天的に皮膚の弱い人には不向きな剃り方なので、理容師達は直感的にそういう人を見分けて、「軽く剃りましょうか？」と声をかけるし、また、一度そう注文された方は覚えてもいる。

最近では（軽い方が好みかな）と見当をつける客の中に、身だしなみのいいホワイトカラー族も加えはじめた。電気髭剃り器が普及して、毎朝の髭剃りが苦にならなくなったので、そういう御希望が増えたからである。

時間に余裕のある人を主として、軽く剃るのがお好みのお客様が大分増えたけれど、それでもまだまだ、理容店ならではの髭剃り後を楽しめる人は多い。だから、そういう文章を書く前に、一言、嫌いなら嫌いと注文してはしいと思う。

注文さえすればすぐに解決することなのに、こういうことを書く心には、現業者への蔑みとまではいわないまでも、ある無遠慮さが感じられるのは、私のひがみだろうか。

話がわきへそれてしまったが、理容師の仕事の中で、髭剃りという作業はひときわむずかしい。特に、鼻の下やあごなどは、なんともややこしい形のところに、ことさらたくさん髭が生えている。こういうところへ鋭利なかみそりをあてる。やや斜めにそらしながら、シャッ、シャッと。理容師ならそんなことはできて当たり前だが、誰もはじめから理容師だったわけではない。



しかも、髭は皮膚の中に埋まっている分まで剃り取らなければならない。そこで皮膚をつまんだりひっぱったり……ということになるのだが、つるつるによく掘り込んだ剃り方の好きなお客様は、済んでから必ずあごをなでてみる。下手な理容師はこの時、身がちぢむのだ。

私が昔、兄をけいこ台に髭を剃った時のこと、兄は「○○（行きつけの店）で剃った髭は明日のびる。この父ちゃんの剃った髭は明後日のびる。お前のは昼からもうのびている」とぬかしたのだ。おのれ兄ちゃん、忘れないぞ。

＊

若い人とは違って、大人になってから職を習うものは、意職ばかり先にたつて、どうもあせり過ぎるようだ。私も仕事を教えてくれないだの何だのといいいながらだが、それでも最近は少し自信がついてきた。

多くの女性が、結婚によって大きく人生を変えるように、私も思いもかけなかった理容師に、とうとうなったのである。

子育てを終わってから働く女性は多いけれど、その時から修業をして、手職を身につける人は少なからうから、その点ちょっと誉められていいんじゃないかなあ、と内心思っているのだが……。

先日、どうしたわけか夫が、お腹をこわして二、三日店に立てなくなった時には、いささか参ってしまった。

店を持ってから二十七年、夫は体が悪いなどといって仕事を休んだことはない。だが夫の場合、鬼のかくらんとこの言葉は似合わない。「鬼」というには夫はいかにもきゃしゃな体つきでもあり、また今までも全く病気をしないというわけでもなかったからである。

夫は元来、丈夫なたちではあるが、それにもまして、少々病気を患っていても、店の信用を重んじる頑張りやなのである。理容店というものは、いつ

行ってもやっている店、そしてそこに必ずいる理容師、でなければお客様の信用は得られないのだ。

ともかく私は、「夫が病気で店に出ない日」があるということをも、それまで考えてみたこともなかった。親類の葬式や結婚式などで仕方なく、ごくごくたまに休むこともあるにはあったが、それは私も一しょに店自体を休む日であつたから、私にとって夫が店に出ない日ではなかった。

幸いなことに、夫が病気になるのは土・日曜日のかき入れ時をはずれていた。私は「心配しないでゆっくり休



んでいてね」といって一人で店に出た。「なあに、大抵のヘヤースタイルならまかしとき、それに今日は天気が悪いから、それほどたて込むこともなからう」と、たかをくくって店を開けたものだ。

ところが、困難は意外なところにあった。いつもはへっちゃんに自信のあるヘヤースタイルの客でも、一言「きようは父ちゃんいないのかい」というと、「私じゃ気に入らないのかな」と思ってしまうし、一見の客（はじめての客）が来ると、客が何もいわないうちに「なんだ、女一人でやってる店かあ」と思いはしないかと、自らびびってしまうのである。

いつもは夫を前にしながら、私に愛なじょうだんをいって困らせるふとどきな夫の友人も、その日ばかりは真面目そのものですましているから、いたたまれなくなつて、テレビをじゃんじゃんかけると、そんな時にかぎってテレビまでがコチコチの放送をする。

とこうするうちに来たのである。いつもは夫でなければやらない客が――

「どうしよう、どうしよう」と思っているうちに、客がトイレに入ったので、その間に急いで夫に電話をかけると、十数回も呼び出し音をさせてからなん

とも頼りない夫の声が「もしもし」と聞こえた。「もうなおったから今から店へ行くよ」とでもいってくれないかと、一の望みをかけて電話をかけたのだが、こりゃ駄目だ。仕方がないので「店の方は大丈夫や、体の具合はどうかと思つて電話かけてみたんやけど……」といつてごまかす。

度胸を決めて椅子に直したものの、客が、「せっかくきたのに女じゃつまらんな」と思いはしないかと、故のなひけ目がつきまとして、心理的にやられてしまう。

それでもどうにかそつなくこなして、客を送り出すことができたのだが、なんと情ない気持である。世の中には女だけでやっている理容所もあるし、

男以上の腕を持っている女性もたくさんいるというのに、私は夫に頼つてばかりいて、まだ一丁前の理容師として自立していなかったのである。

＊

夫が病気で休んだ日のことは、近ごろ私の胸にずんとこたえた。

「ウーマンリブのチーちゃんとはわたしのこった」と、常日ごろから自負して、このほど理屈をつらねて一冊の本まで出した私としたことが、実践の場ではこのていたらくなのである。

職人として男でなければ一丁前でない、客が思いはしないか。なんだ女か、と思いはしないかと、相手は何もいわないうちからおそれおののくとは。

私が、世の中に、いや人々の心の中に、ひどい女性差別があることを知り過ぎたせいもあるけれど、なんといつても常日ごろから、ここ一番という技術は夫がするものと、決めてかかつて

いるからに違いない。

一つ、心機一転、今まであまりやらなかった、一番むずかしいヘヤースタイルに挑戦してみよう。ということ、今私がひそかに目指しているのは、スポーツ刈り、ブロー、角刈り等と呼ばれる、頭全体を髪の毛の断面で形作るものである。

このヘヤースタイルこそ、理容師として一番の腕の見せどころである。他のヘヤースタイルはいくらでもごまかしがきくが、このヘヤースタイルだけはそういうわけにはいかない。今、一丁前の理容師のような顔をしているものの中にも、このヘヤースタイルの苦手なものもいるらしいから、その風潮にのっかって、私は自分のことを○・九丁前などといっているが、本当はこれができるければ半丁前ともいえないのだ。

いいモデルで、しかも上手に仕上がったこのヘヤースタイルは、眺めているとそれはもう、神聖な気分がただよ

ってきて、体がしゅんとするぐらいである。だからこのヘヤースタイルの男性は、一たいにこり性で、気に入らなかった時おこりだししかねない。そうはしないまでも、直後に別の理容所へ入ってやり直させたりすることもあ

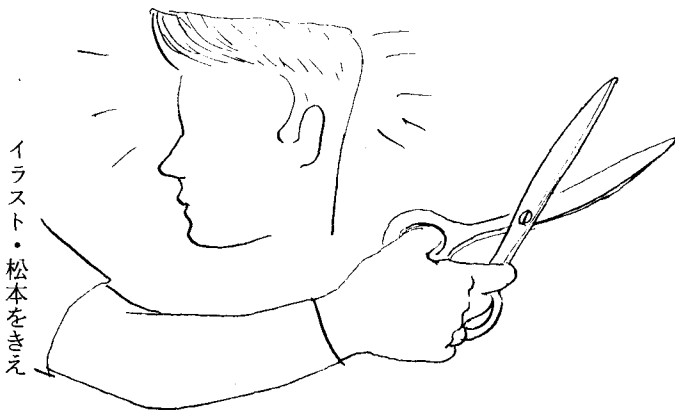
るはどだ。

私は今まで、このヘヤースタイルだけはとても、自分一人ではできないもの、とあきらめていた。だから、たまたまやりはじめても、早く夫が交替してくれないかなあと思って、目顔で夫にサインを送りつづけていたのである。けれど今私は、夫がこのヘヤースタイルを作っている時はもとより、その客に補助サービスをする間中、髪型を穴のあくほど見ることにしている。このヘヤースタイルは、技術もさることながら、形をしっかりと頭の中に入れる必要があるからである。

なにしろ、見習いとは見て習うことだ。一丁前への道は遠い。

(完)

筆者の橋本さんのユニークな作品、「草の根のウーマンリブ」(悠々舎)の在庫がまだ編集部に多少あります。送料編集部持ちでお送りしますので、直接編集部へお申し込みください。定価は九八〇円です。



イラスト・松本をきえ

無数の子どもたちが、アリの群のように表紙を埋めている。真中には赤地に白ぬきで「子どもが主人公」とタイトルが。妙な題だな、と思うけれど、読みすすむ中に、これ以外の題はつけられない、とわかってくる。

著者の徳村夫妻は十一年前、自分の住居を子どもたちに開放して「ひまわり文庫」という子ども図書館をはじめた。子どもによい本を読んでもらおう、という「善意溢れる」希望を持っていたのだ。

「善意」は手ひどく裏切られた。やってきたのはおとなしい、可愛い「よい子」ではなかったからである。

一日中、声を限りに叫んでいる子。屋根に出て遊ぶ子。台所をのぞいて「きったねえや」という子。妻の杜紀子さんに向って「このクソババア」と浴びせかける子。

みんなを集めて、さあ語り聞かせをやるう、と思っても、こづきあいのはじまり、わめきあいになり、取っくみあいになる……。

「腹がにえくり返って」いながらも、徳村

さん夫婦は我慢した。半年だけ待とう……と考えたからだ。文庫にやってくる子どもが七十人、百人、二百人……と、どんどんふえ、そして徳村さん夫婦には、なぜそんなふうにも子どもたちの数がふえるのか、本当の理由が分からなかったからである。

半年たって、それが分かる。子どもたち

私の一冊



は、「ひまわり文庫」が自由の場だからやってくるのだ。

それからの徳村さん夫婦の実践は、読む者を圧倒する。子どもたちが大人によって管理されるのではなく、自分たち自身でやりたいことを考え出し、行動に移すときどうなるか——徳村さんたちはこの破天荒な

試みを、実行に移した。移した中で、子どもたちを通じて、「新しい自分」「思ってもいなかった自分」を発見した、と徳村さんはいう。

教育に関する私たちの先入主を打ち砕くすさまじさが、この本にはある。徳村さんたちの実践の意味を肯定するにせよ、しないにせよ、とにかくにもこの本に描かれていることが、真の「実践」によって支えられているからだ。

「ひまわり文庫」の中で、子どもたちが何を試み、どう育っていったか、その一つ一つは、私たちを驚嘆させる。

なぜ、子どもたちがその力を発揮できたのか——それは一人の子どもが言ったように「文庫」の中に、「生活がある」からだった。子どもたちにとって、真の「生活」とは何だろう、何であるべきだろう……現代日本の子どもたちに、「生活」は本当にあるのだろうか——この本は、この恐ろしい問題を私たちに投げかけるだけでなく、新しい未来をも示唆してくれる、稀有な一冊である。

(径書房千五百円) 田中

わいふ家庭科

男女共修

●簡素で健康的な食生活を求めて●

あなたの食卓診断

診断・ダイエットクリエーター

竹内 富貴子

5

聞き手・わいふ編集部

和田 好子

朝食の効用と取り方

▼この方の献立はですね、一群……乳製品と卵が足りないんですね。一日平均で一点くらいしか取れていない。だいたい必要量の五分の一です。

——乳製品が決定的に少ないわけ？

▼卵もです。というのは、結局朝食を召し上がらないか、あるいはあまりにも簡単にしてしまい、昼・夜は乳・卵を取りにくい、ということが原因でしょうね。

二群（魚・肉・豆製品）はかえって多いくらいに取れています。二日の日以外は五点くらい……ですから蛋白質としては不足してるといえることはないんですが、わりあい油の強いものを使っていますね……それから豆類などより肉・魚に片寄っていてはとんどそれですね。

それから野菜がすごく不足しています。

——朝食に食べてないんですね。

▼はい、朝はまったくなしです。朝食そのものも、トーストとミルクティを召し上がってる日がいちばんまし、なくらいで、食べないか、果物だけという日もあります。その日にはミルクティは飲んでない。朝食が平均して二点……二、三点というところです。ふつう少なくとも五点左右くらいあるので、一日に二十点とすれば、六、七点取りたいところなんですけれども、二点ほどしかない。

——朝食を食べないために野菜も少なくなり、乳・卵も取りにくいわけですね。▼そうです。夕食は、帰って来てとても忙しいから、簡単だとおっしゃっていますけれども、そのわりにはきちんと召し上がっている。お昼は外食で単品物になってしまうと、ちょっと栄養が片寄りますが、それよりいちばん問題なのは二食だということです。朝食があまりにも少ないのが、必要量取れない原因ですね。

——お勤めして昼間は活動していらっ

しゃるわけですから、もっと朝食・昼食をしっかりと取るとは必要でしょうね。

▼そうです。やせていらっしやるけれども、これで年齢を追うごとに、こういう食生活では太りがちですね。夜たくさん食べて朝食べないというパターンでは……。だいたい一日の必要量の半分以上を夜食べている感じがですね。——三分の一でいいわけですよ。

▼そうです。

——この前にもありましたね。こういうパターン……朝食と昼食をうんと簡単にして、夕食だけでやるという……これ、よくやりがちなんです。ですからちょっと、朝食のとり方……面倒くさくなく取れるやり方があると思うんですが、それをご指導願えませんか。▼やはりごはんよりパンのほうが簡単ですよ。ごはんでも前の日が残っているなら別ですが……いちばん簡単なのはトーストでしょうね。トーストにミルクティあるいはミルクコーヒー

……もちろん牛乳でもいいです。むしろお湯でカサが増えているティやコーヒーより、牛乳をとるのが目的なんですから、牛乳そのものの方がいい。

——インスタント・コーヒーならば、牛乳の中へ入れる？

▼その方がいいですね。温めても冷たいままでも、とにかく牛乳が取ればいいのです。それと卵料理……目玉焼かゆで卵。最低それくらいは欲しい。それに野菜が加われれば理想的ですけれど、たとえば前の晩に、マヨネーズのサラダとか、炒めものをなさっているならば、それを取って置かれて、朝食べるということだっていいわけです。わざわざお作りにならなくても……。この方ですと前の晩にシー・チキンのサラダを召し上がっている。シー・チキンにきゅうりとマヨネーズを混ぜているわけですが、朝はそれにレタスを添えるとか、トマトのくし形切りを添えるということで、シー・チキンの量を減らし形を変えればいいのです。そ

	料 理 名	材 料 名	概量	重量	10月18日 (月)				No.
					合計点数		1	2	
①	トースト	食パン(8枚切)	1枚						1.5
	ミルクティー	マーガリン		50	0.4				0.3
		牛乳							
		紅茶							
②	中華ソバ(外食)	中華めん・スープ	1/2個	少々	0.4				1.8
		ゆで卵			0.5				6.0
		もやし	1枚				+		
		チャーシュー				0.2			
③	白 飯		1杯		0.5	0.2	+	6.0	T 6.7
	肉じゃが	豚肉	80			3.2		2.0	
		玉葱	1/4個				0.2		
		生しいたけ	3枚						
		しらたき	1/4						
		じゃが芋	1個				1.0		
		生姜						0.7	
		油						0.5	
	シーチキンサラダ	さとう・しょうゆ				1.3			
		シーチキン	1/4缶				0.1		
		きゅうり						0.6	
		マヨネーズ・塩							
	ニラのお浸し	ニラ	1/2束				0.1		
	みそ汁	みそ				0.3	+		
		わかめ・長葱							
④	ぶどう		少々			4.8	1.4	3.8	T 10.0
	クラッカー		4枚				0.2		
								0.7	
							0.2	0.7	T 0.9
	1日合計				0.9	5.0	1.6	12.3	Total 19.8

んなやり方で、これからはミカンが出て来ますからミカンを一コ、召し上がればもうそれで十分ですね。もっと簡単なのはコーンフレックスの類で、牛乳をかけて、一緒に取れてしましますね。それに果物と卵料理……卵料理ができない日は、チーズをかじって行くとか、ハム一枚サラダに添えて食べるということ、蛋白質と野菜を取ればいいわけです。

朝とにかく眠りから覚めたという状態と、胃に食物が入って体が目覚めたという状態とは、仕事の出来栄というか、能率が大きく違うものです。ですから体を全部目覚めさせるという意味で、朝食はしっかりと取るべきで、決して手間を掛けるということじゃなく、効率のいいものを食べる、ということでしょう。

私、以前関西に住んだことがありますが、あちらでは朝お茶漬けを食べる習慣が残っているようですね。前の晩の冷やごはん、ふたものに入った

					10月19日(火)				Na
					合計点数				
	料 理 名	材 料 名	概量	重量	1	2	3	4	
⑤	ゆで卵	卵	1個		1.0				
	カステラ		1切					2.3	
					1.0			2.3	T 3.3
⑥ 外食	白飯		1杯					3.3	
	冷奴	豆腐	¼丁			0.5			
	精進揚げ	長葱	少々						
		玉葱	¼個					0.2	
		ピーマン	1個					0.1	
		竹輪	½本			1.0			
		衣油						0.3	
								1.7	
	みそ汁	みそ				0.3			
		わかめ							
スパゲティサラダ	スパゲティ		50					0.9	
	きゅうり								
	マヨネーズ						+	0.6	
						1.8	0.3	6.8	T 8.9
⑦	白飯		1杯					2.0	
	生姜焼き	豚肉		50		2.0			
		レタス						+	
		もやし						0.2	
		生姜							
		油							0.4
	コーンとベーコンの 卵炒め	コーン(缶)		50				0.6	
		ベーコン	2枚				1.3		
		卵	½個			0.3			
		塩							
みそ汁	じゃが芋						0.3		
	みそ					0.3			
					0.3	3.6	0.9	2.4	T 7.2
⑧	コーラ(缶)		1缶					1.2	
	ビスケット		4枚					2.0	
									3.2
		1日合計			1.3	5.4	1.2	14.7	Total 22.6

煮豆、つくだに、いろいろな漬物、だし巻(甘味の入らない卵焼き) 伏見とうがらし(長いピーマン)の焼いたのとか、なかなか豊富で、手間も掛からないように思いました。

▼それも簡単に食べられていいんですが、お茶漬けとか雑炊というのは、かまないでしょう。卵をかけたごはんもそうですが、消化はあまりよくないので、おすすめということはできない。ただ冷やごはんが残っているということだったら、それはかまいません。お味噌汁の中にごはんを入れて、卵を落してもけっこう、とにかく何かモノを食べるということですよ。

——考えてみれば簡単に朝食を取る方法はたくさんありますね。

低血圧をいいわけにしないこと

▼この方は便秘がちなんじゃないかしら。朝食を召し上がらないとどうしても便秘になりがちなものです。この方もお手紙にありますが、低血圧なんで

すね。皆さんよく低血圧だから朝よわい、夜強いとおっしゃるけれども、これはやはり生活の問題でね、低血圧でも朝早く起きられないということではないんですよ。この方六〇―九五（最低―最高血圧）と書いていらっしゃる。私は五四―八五くらいです。だから朝起きられないというのはやはり幸せな方で、起きなければならぬなら、起きられるものです。朝ごはん食べられないというけれども、食べようと思えば習慣で食べられますよ。それはもう、だんだんに変えていращやるほかないでしようね。

それから運動をなるべくなさるといふことで、仕事をお持ちで時間がなければ一生懸命歩くというようなことで、低血圧の症状は軽くなると思いますが、低血圧というのは結局自覚症状がなければいい。だるいとか、階段上がると胸がどきどきするとか、めまいがするとか……。そういうことさえなければ、低血圧そのものは、寿命が長いという

くらいのものですからね。症状を防ぐには、私の経験ではもう、運動しかありませんね。

この方は保育園の送り迎えで二十五分とか、かなり歩いていращやるけれど、もう少し、心臓がどきどきするくらいの運動をなさることが必要でしょうね。テニスとか水泳とか、そういうことをお休みのときになさるといと思うんですが……。心臓がだんだん強く働いて、血液の循環がよくなるような全身運動がいいんですね。

――共働きの家庭では、忙しさにまぎれて食生活が簡単になりがちで、家族の健康上気に掛かっている人が多いと思うんですが、どうしても処理しやすい野菜ばかり使ってしまうとか……。

▼それはもう、やり方次第ですね。この方の場合、野菜が少ないでしょう。しかし夕食にはかなり手をかけているんですね。それなのにたとえば、野菜の点数は多いんですが、それはおいも、コーンなど、野菜より穀類に近いカロ

リーの高いものが多いためで、その他の野菜は不足がちです。この点数は少しおマケしてありますが、一日一点のところ〇・四点しか取れていません。とにかくこの方の場合、全体に生活を改める必要があるのでは？ 手を掛ける掛けないの問題ではなく……。

まったく夜型の生活で、このお手紙に「夜中の二時に書いています」とある。(笑) 献立を見ますとかなり間食が多く、アンドーナツ、ジュース、コーラ、ビスケット、朝ごはんにかステラを召し上がってます。(笑) ぶどうにクラッカー……これだいたい夜上がつてるんじゃないでしょうか。夕食が七時ごろなんです。二時まで起きていращやるればおながすきます。(笑) 夜型の生活といっても、夜と昼がまったく引っくり返って、夜働いて昼寝するというのなら、それはそれなりの生活のサイクルができますけれど、この方のように夜寝る間に食べ物がたくさん体に入って、昼働いている間

	10月20日（水）				No.			
	合計点数							
料 理 名	材 料 名	概量	重量	1	2	3	4	
⑧ 外食 ミックスサンド 紅茶	タマゴ マヨネーズ ハム きゅうり バター パン	3枚		0.5	0.3	+	0.6 0.5 3.0	
				0.5	0.3	+	4.1	T 4.9
⑨ 白 飯 サンマ塩焼 白菜のキムチ アサリのバター炒め きゅうりの漬物	サンマ 白菜 アサリ バター ニンニク きゅうり	1杯 1尾 少々 ½本	50		3.0 0.3	0.1 0.1	2.0 0.5	
					3.3	0.2	2.5	T 6.0
⑩ アンドーナツ オレンジジュース		1個 1缶					4.2 1.1	
							5.3	T 5.3
	1日合計			0.5	3.6	0.2	11.9	Total 16.2

ロクにない（笑）というのはいちばん悪いケースなんです。車にたとえれば走るときにガソリンが必要でしょう？この方は走ってるときにガソリンが入ってなくて、休むときに入ってる。結局それは脂肪になりやすいんですね。

手を掛けるよりバランスです

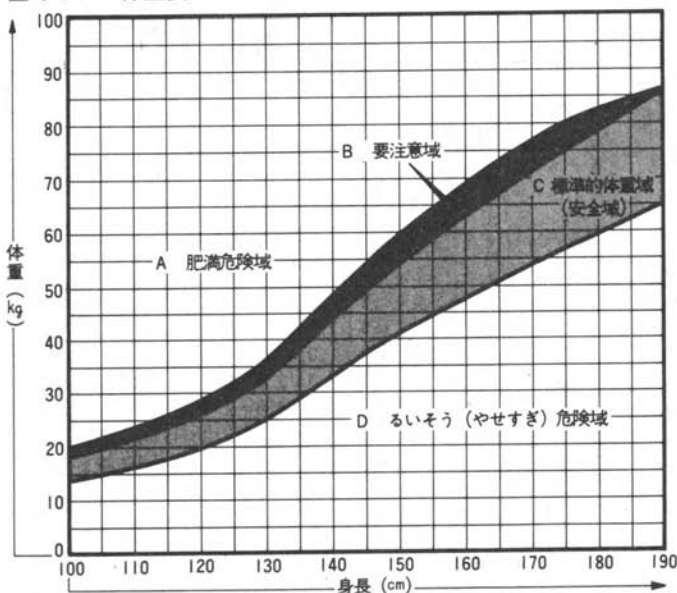
▼全体、そんなにカロリーが高くないですけどね。ただそのカロリーの大半が四群と二群で取られているので、バランスが悪いわけです。お忙しい方はべつにお料理にこちゃこちゃ手をお掛けになる必要はないんで、バランスさえとればかまわないわけです。この方は一群と三群が毎日足りない。一群は朝食を召し上がればもう大丈夫、二群は、昼が外食ですからそこでもう少し野菜の多いものを上がって、夕食はこの程度。できればお使いになる野菜の種類をもう少しお増やになれば、と思いますね。

— 青菜を全く使っていませんね。

■ 1日20点(1,600kcal)の食品のとり方

食品群	群別食品	点数	とり方の1例	点数	
第1群 ♠	乳・乳製品	2	牛乳 $\frac{3}{4}$ 杯(140g)	1	必ずとりたい 9点
			チーズ1切れ(23g)	1	
	卵	1	鶏卵1個(50g)	1	
第2群 ♥	魚介・肉類	2	カレイ(80g)	1	
			牛もも肉(55g)	1	
	豆・豆製品	1	豆腐 $\frac{1}{2}$ 丁弱(120g)	1	
第3群 ♣	野菜	1	緑黄色野菜(約100g)	1	増減可能の 11点
			淡色野菜(約200g)		
	芋	1	じゃか芋小1個(100g)	1	
	くだもの	1	くだもの(約200g)	1	
第4群 ♦	穀物	8	ご飯茶わん軽く3杯(330g)	6	
			食パン小2枚(60g)	2	
	砂糖	1	砂糖大さじ $2\frac{1}{3}$ 杯(21g)	1	
	油脂	2	植物油やバター(約20g)	2	

■ あなたの体重表



厚生省栄養課「肥満指導の手引き」より

▼おひたしというのがレパートリーにないようで……。

——ニラのおひたしがありますが、ニラ三分の一把というのですから、ずいぶん少いですね。

▼あまり好きでないんでしょうね。

どうも炒めて食べたほうがおいしい野菜をおひたしにしたり、しょうが焼きにレタスがついたり……もう少し使い方を上手になさると、このままでももっとたくさん取れて、おいしく召し上がれるんじゃないかと……。でもやはりいちばんの問題は朝食ですね。

——要するに手を掛けるか掛けないかではなく、四群のバランスを取るといことが大切なんです……。

▼そうです。お忙しい方なら、もう少し鍋物とか鉄板焼きとか、簡単でたくさん野菜のとれるものを活用なさってはい？毎日では飽きるかもしれませんからこれから鍋物はよろしいでしょうね。

だしはだしの素で十分

——外食の問題ですが、ここでは中華そば、ミックス・サンドイッチ、それから定食ですか……セットものを食べられますね。

▼外食はできるだけ、定食式のセットものがいいですね。

——この献立の最大の問題点は朝食のようですが、先生の今日の朝ごはん、どんなものを上がったのか、ちょっと教えていただけませんか。模範朝食。

▼簡単ですよ。目玉焼き、トースト、ハムとキウリとトマトとレタスのサラダ、ブロッコリーのゆでたの。ミルクティ、それから食後にキウイとパイナップルの切ったのに、ヨーグルトを掛けたものです。これで調理時間は十五分くらいですよ。火を使うのはお湯をわかして、まほうびんに入れる、その残ったお湯でブロッコリーをゆでるだけ。あとは目玉焼き。ゆで卵のときは、やはり沸かしたお湯の残りを鍋に入れて、卵を入れておき、身じたくする間に卵が温まって割れなくなるから、

火をつけてぐらぐらと来たら半熟ですからね。卵をあげて、残ったお湯に塩を入れ、ブロッコリーなどゆでます。

夫が昼は外食しますので、朝必ず緑黄野菜をゆで、生野菜サラダに加えます。さもないと夜だけでは取り切れないので……。今ならブロッコリーかグリーン・アスパラですね。

——やり方ということですね。最後に会員からの質問を一つ、うかがわせて下さい。だしのことなんです、煮干しでとるだし、かつぶし、それからこのごろ市販されているだしの素、栄養的にそれぞれ差があるでしょうか。

▼栄養的にはほとんどありません。成分が違っただけ。グルタミンソーダか、アミノ酸かの違いで、だしはうま味だけですから……。栄養ではないです。だしは。

——コンブでも。

▼もちろんそうです。

——何だ。わかりました。(笑)

(まとめ 和田好子)

主婦のための女性問題入門

全3巻 定価各1200円

女であることの意味をもう一度考えてみよう
自分にとって夫とは子とは、親とは友だちとは何かを

1 女の体と心・結婚

主婦にとって自立とは
夫婦とは何か
女のからだと心の結びつき
河野貴代美
佐藤 萌子

2 共働き・離婚・友だち

共働き
離婚はこわいか
夫の再教育
血縁から地縁、女縁へ
男ともだち、女ともだち
佐藤洋子
俵 萌子
樋口恵子
吉武輝子
木元教子

3 子育て・子連れ・老後

子どもの性差教育
子育てを歪ませるもの
子連れ—人間の自立
子育てと老後—親のみとり
老いては子に従え—老後の経済
樋口恵子
武田京子
永畑道子
永畑道子
中島通子

子を持つ女が輝く時

おお 子育て

保育所の子どもたち
ちとちのわが子
佐藤洋子
1200円
黒岩秩子
1200円

水畑道子 いま、父母と先生に訴える！

PTA歳時記

●わたしの
教育論

●読売新聞教育欄に好評長期連載の教育論に、書き下しのPTA論と参考資料を一冊の本にまとめた、全国の父母と先生必読の書！
●絶賛発売中の女性生活史『野の女』、『炎の女』の著者が、ひとりの母親としてジャーナリストとして関わってきたPTAをめぐる問題点をわかりやすく語りかける。
●本書より▽
この本はPTAの『常識』にさからい、それをくつがえし、ひとつひとつ「原点」をたしかめる作業だった。四六上製予1000円



好評既刊

現代PTA入門

平湯一仁
1200円

わが子のためのPTA

杉村房彦
1500円

実践未来をめざすPTA

藤田恭平編
1200円

PTA広報づくり入門

大内文一
1800円

父母と教師の手づくり新聞

大内文一
1800円

きびしさの復権

三上 満
1200円

非行に負けない子育て

三上 満
1200円

シラケ・つつぱり世代

関根庄一
1200円

新評論

東京都新宿区西早稲田3-16-28 (〒160)
電話(03)202-7391 振替・東京6-113487

わたしの一冊



あなたの一冊

家事・育児を分担する男たち

福岡・女性と職業研究会編

わいふ一七八号家庭科にのせた記事、「楽しいかな家事」を覚えておいでだろうか。あの中で男女の家事分担は夫婦をフレッシュにし、文化を育てると書いたが、この十月に出版された「家事・育児を分担する男たち」を読むと、その思いがさらに強くなる。

福岡・女性と職業研究会のメンバーは、一九七三年三月に発足し、女性の解放や職業に関する研究を重ねてきた有職女性たちである。これまでも「働き続ける女性たち——その現状と課題——」なる著作があり、働く女性の社会で、家庭での問題点を追いつけてきた。本書は、家事労働の夫婦による分担——家事労働の男女共同責任——の観点から、家事・育児を日常的にかなり多く分担している夫たち三三名に対し、アンケートと面接をし、そのきっかけや生活歴や今後の希望などを問

いただいている。

またイギリス・アメリカの夫たちは家事分担をどうしているか、生活史の中で家事・育児についても明らかにされ、人間が人間らしく生きるには、誰もが家事分担をする必要がある、と解き明かす。

夫と妻とのかわりだけでなく、子供たちにも生活に根ざした教育をし、労働問題も考え直さなければならない。「家事・育児の仕事には、どれもみな、やかかいで退屈で消耗する瞬間があり、どのような仕事をするときにも、これらのいくつかがついてまわるといふことを、いつも心にとめておかねばならないと思う（イギリスの老婦人）」という言葉に家族間の思いやりに飢えている女性たちが、少しでも家事・育児から自由になりたいと願っている姿が浮び上ってくる。よりよき家庭であるために一読をおすすめする。

現代書館 一四〇〇円 (原田静枝)

現代女性の生き方

何のための女性学かシリーズ／女・いま生

きる／① 小森健吉編

本書は、大学で長年教育学の教鞭をとっていた編者が、一般教育の改革の試みの中で、女性学を総合科目としてとり入れ、そのテキストとして編まれたものである。

何のための女性学かという問いに発して、歴史、社会、心理、生理、宗教、福祉、法律など、さまざまな角度から、現代に生きる女性のスタンディングポジションを明らかにしてくる。

必ずしも全面的に見解を一つにしない皆さんの執筆者が関わっているにもかかわらず、全体として共通する強い主張は次のような言葉の中に集約されているといえよう。

「今日、複雑化した、女性をとりまく情勢の認識とその打開は、単に女性のための、個々人の努力によるだけでは困難である。この困難に立ち向かい、真の女性解放を実現する道程

において、今、望まれることの一つは、フェミニズムの教育課程への導入である」

女性の自立を算術的ではなく、ネズミ算的に増やし、ついには普遍的なものにしたいためには、「主婦」になってから「何かおかしい」と気づくというパターンを、どこかで断ち切る必要があるのだ、と痛感している者にとって、こうした姿勢が教育界に浸透していくことは、まことにヨロコバシイ。

読書会のテキストとしてシリーズで読んでいくのに好適。そして何よりも、エンターテインメント志向の高校生、大学生に、じつくりとこういう本に向き合ってもらいたいと思う。

ミネルヴァ書房 一七〇〇円（横山典代）

主婦症候群 円より子著

雑誌に、新聞に、本やチラシに、「主婦」という言葉を見つけると、私の神経は訳もなくピリッと緊張する。主婦——夫を含む家族の世話をし、家庭内の一切合財をとりしきる存在……。女の幸福は、主婦になること、主婦であることによってのみ得られるのだという社会通念に、どれだけ私達は縛られ続けてきたことだろう。

ここに出てくる妻たちは、典型的な「良妻」「賢母」。決して歌うことのないめんどりと

して、家庭を守り、子どもを育ててきた。でも、今彼女たちは本気で怒っている。口答えしようものなら、すぐなぐりかかる夫、妻と口をきこうとしない夫、浮気をする夫、召使いのように妻をこき使う夫などに……。勘忍袋の緒が切れた、もうがまんできない、と彼女達は言う。その症状は「夫婦中毒症」、「専業主婦閉症」、「主婦失調症」、「神経性冷感症」など、さまざまだが、一人の人間として目覚めたい、自分の足でしっかり立ってみたい、健全な人間の生活をとり戻したいという彼女たちの願いに、しみじみ私は同感するのだ。

文化出版局 九五〇円（友松悦子）

父親の自立と子育て

木村 栄著

親であることを引き受けようとせず、子どもへのことはすべて妻にまかせ、子供のまわりに父親が見えなくなっているいわゆる「父親不在」、「いるけれどいない」父親の精神的不在、思い当る家庭も多いのではなからうか。

この本は、「父親不在」の問題と父親の役

割を、性別役割分業の見直しとのかかわりの中でとらえているのが、大きな特徴である。

父親は仕事、母親は子育てという役割分業、これは決して本質的な役割ではない。

「親とはもともと中性的なもの。子どもの年齢、必要に応じた親としての対応があるだけで、父親、母親は単なる性別にすぎない。父親の家事育児は、母親の助けではない。父親のたまには生活の共有、子育ての共有である」そしてこのような家庭は、共働き、子育てにおいて、はじめて可能になるのである。「男の子育てなど世迷言にすぎない」と大方の男たちが思っている現実が、当面少々のことではびくともしそうにないが、こういう中でも、ラマーズパパ・父親学級に学ぶ父、地域づくりに参加する父にみられるように、男の子育ての社会的認識を求める動きがあちこちで始まっているのも事実である。

世のすべての父親に「直接子に対峙する親であってほしい、その上でそれぞれの『父』を創ってほしい」という著者の願いは、また世のすべての母親の願いでもある。

父親、母親ともに、ぜひ一読をすすめた一冊である。

汐文社 一二〇〇円（加藤歌子）

「中絶禁止」の

ホンネとタテマエ

●討論●わいふ編集部

他人ごとか「優生保護法改正」反対署名

A 驚いた、おどろいた、オドロイタ。

B なにをそんなに驚いているの？

A 「優生保護法改悪」反対の署名を断られた！

B そりゃ断る人もあるでしょうよ。

「生長の家」の会員は多いもの。

A ちがうのよ。三十そこそこの若いお母さん。「十代の性の乱れがひどいっていうから少しはきびしくなったほうがいいんじゃないの」だって。

B えっ！ 自分はもう子生み・子育てに縁がないっていうつもり？ その人不妊症なのとちがう？

A その人だけじゃないの。「わいふ」の有力投稿者のSさんもなんだから。

「私は下半身は十九世紀だから、ホントは中絶禁止に賛成したいところなんだ」って、反対署名にはいっこう乗ってこないんですってよ。

B そういえば思い出した。大使館につとめてる三十すぎの人で、ずっと働き続けたい、っていう独身の、イキの

いい人がいるのね。女性解放にも興味を持って人なのよ。それなのに、中絶が禁止になりそうだけど、どう思う？ っていったら、「あ、それには私、カンケイありませんから」だって。

A どうして？

B 「私、中絶の原因になるようなコトしませんから」っていうの。

A ガーン！

B 教育を受けてない人ならともかく、最高の教育受けてて、おまけにウーマンリブを志向してる人がこれなの。

A カンケイない、カンケイないって、

どうしてみんな、何かにつけてカンケイないが出てくるんだろノ

B ほうら怒りだした。

自分で自分の首を絞める 「カンケイナイ」

A 当り前よ。あなた、私たち女は、いつもこの手でやられっちゃうんですよ。やるほうもアクどいけど、やられるほうもだらしがないのよ。だらしがないというより、「自分にはカンケイない」って思うのは、やっぱりエゴイズムなんですよ。

B そのエゴイズムで、結局は自分で自分の首を締めるのにねえ……。

国民の持つてゐる権利なんて、ちよつと油断してるとすぐに取り上げられちゃうのよね。戦前の軍国主義時代に、おかしいことが一つ一つまかり通って行くときにも、「あれはブルジョワがやられているんだ」「アカがひくくくられているんだ」「怪しからぬ学説をたてる学者がやられているんだ」って、

国民の大多数が「カンケイない、カンケイない」でいるうちに、手も足もなくなっちゃったわけでしょ……。

A 「カンケイない」だけじゃなくて、他人のことなら中絶禁止も悪くない、って思わされてることがあるわけよ。

妊娠中絶だって、統計をみれば八五%が二・三代、大部分既婚女性で、十代の中絶なんてたったの三%、ふえたふえたっていわれているけど、主婦の中絶に比べれば圧倒的少数なのよね。

それをことさら「十代の性の乱れ」、

「水子地蔵に詣でるセーラー服の少女、これが青春といえるか」なんて十代の中絶をクローズアップする理由は何だと思う？

やれ校内暴力だ、家庭内暴力だ、親殺しだ、シンナーだ、万引だ、暴走族だ、不純異性交遊だって、ティーンズの非行の話がすごいでしょう。たしかに中・高生の妊娠なんかも増えているし、親としてはいつ自分の子もそうなるか、しれない、って心配でたまらない状態

だと思ふの。

B 中絶禁止でそれに歯止めがかかるっていう期待を持つわけね。

A 何しろ今の親は、子どもを管理しなくてはたててしょうがないわけよ。

中絶が禁止されたら、そのぶん避妊教育を徹底的にしなくちゃいけないんだけど、今の親たちは反対に、「だから結婚まではノーセックスで」って、純潔教育のほうに走ると思うわよ。

B ありそうだなあ。今だって、未婚の娘に体温計やピルを与えて、避妊教育をしている親って、私の知り合いにも、たった二人しかいないもの。

A まだまだ親たちの意識の中に、女の幸福は結婚にあり、的な考えがバッチリ根を張っているでしょ、だから十代のフリーセックスなんてとんでもない、やらせないためには中絶禁止もいいかも……なんて心の底で考えてる。そこがつけてこまれるとこなのよねえ。

いきとなるまで ボンヤリ、ノンビリ

B 「わいふ」の会員の若いお母さんがね、子どもの幼稚園のお母さん仲間に、「中絶禁止になるかも知れませんが」っていうと、みんな「マサカそんなこと、なりっこないでしょ」っていうそうよ。

A えーっ／＼ なぜそんなふうに思うんだろ。

B 私も驚いちゃってきいてみたからね、つまり そんなことが起りうるっていう想像がつかないんだって。禁止になったらもちろん困るんだけど、これほど自由な世の中で、そんな法律ができるはずがない、って思いこんでいるそうよ。

A ムー。

B その呑気なこと、鈍感なこと、もう話にならないらしいわよ。

A けどさ、自分たちには「カンケイない、カンケイない」っていう反応と、

「そんなこと、ありっこないでしょ」

っていう反応とは、ちょっと見ると違ってるみたいだけど、実は根っこんとこでつながってると思うのね。

われわれの暮してる、一見自由にみえる戦後の社会がどうやって作られてきたのか、われわれの手にしている集会の自由とか、信教の自由とか、投票の権利とか、どんな歴史の流れの中でつくられてきたのか、そのためにどれだけの血が流されてきたのか、それを守るためにどんなことが必要なのか、そういうことがいっこうに分かっていないから、一方では「カンケイない」になるし、片方では「なりっこないでしょ」になるわけ。この問題に限らず。

A なるほどねえ。

B 「カンケイない」っていわれると、エゴイズムだという気がして腹が立つけどさ、要するに問題は無知だということなんじゃない？

A そうだそうだ。だってそんなことがわかるように学校で教えてくれない

もんね。

B 国民をバカにするためにわざと教えないんだって説があるけどさ、私はそこまでカンぐりたくはないのよね。だけどこの間の教科書問題にしても、長いことかかって侵略を進出と書きかえたりさ、さしさわりのあるところはジワジワ骨抜きにしちまって、いったい何のこと教えられたか、生徒の頭にちっとも残らないわけ。一七八号の山住正己さんのインタビュー記事にも引用してあるけど、あーんな蒸溜水みたいな文章読んだって、なんにも頭に残りやしないわよ。

A うっかり生き生きした歴史を教えこんで、なまじ権利意識にめざめた国民なんかを作り出したら大変だ、って思ってるんじゃない？

B 「戦後はとかく、権利ばかり主張して義務を行うことがおろそかにされている」——なんておエライさんが二言目にはいうもんね。

A 冗談じゃないわよ。こんなに大人



優生保護法改悪反対集会

子連れの母も・11/3 優生保護法改悪反対集会

しく、権利の主張もしないでせつせと働く国民がほかにあるもんですか。
 B ウサギ小屋の働き蜂だもんね。奥さんもそれにちっとも文句いわないし……外国の女なら夫が毎日八時九時に帰ってきたら離婚しちゃう。
 A 戦争中に永井荷風が克明に日記つけてたでしょ。荷風が入りびたっていた浅草のオペラ劇場に、国策で解散命令が出たのね。ところが驚いたこと

には、踊子たちがそれに対してちっとも反撥もしないし、怒りもしない。悲しそうな様子もしない……。解散になったら、即生活に困って、うっかりすれば売春でもやらなければ食っていけない、っていう人たちのために、「解散になるんですって、しかたないわねえ」ってしごくのんびりしてる。いったい何を考えているんだ、自分たちが路頭に迷うかもしれないのに、って荷風の

ほうがヤキモキする。ところがついに解散の日がきて、お別れの席になったら、もう一同泣いたり悲しんだり、たいへんな騒ぎになったというのね。
 つまり目の前まで来なきゃ分からないのよ。
 B そんなとこ、今もあんまり変わっていないみたいだなア……。ああいやだいやだ。
はびこるヤミ中絶の

おそろしさ

A だけどあなたどう思う、言い出さずの村上議員は、中絶が野放しになっているから避妊に力を入れないんだ、中絶が禁止になったら避妊をきちんとするようになって、今までみたいなことはなくなる、って断言しているんだけど……。

B 一七八号の「わいふ」の特集投稿にもそれに近い例が出てきて参っちゃったけど、でも村上議員のいっていることが真実じゃないことは外国の例見

ればわかるわよ。

フランスじゃ七十四年まで中絶が禁止されていたでしょ、だけど十九世紀の末からちっとも人口がふえなかった。不思議でたまらなくて、フランス人の友だちに思い切ってきいてみたの。そしたらやっぱりヤミ中絶。産婆の別名をフザール・ダンジュ＝天使の作り手、つまり赤ん坊を殺す人っていうぐらいだもんね。

A ギャツ、おっそろしいノ

B 七四年に中絶解禁の大運動が起きたとき、ボーヴォワールやサガンが、「私たちも中絶した」って発言して一大センセーションをまきおこしたんだけど、あれほど避妊に気をつかって、子どもを生まないようにしているフランスのインテリ女でさえ、やっぱり中絶に訴えなきゃならないときがあるわけよ。

A 避妊ってほんとに失敗しやすいからねえ。

B 完全に失敗しない、っていうこと

はむずかしいものね。中絶を避妊がわりに使っている人じゃなくとも、やっぱり百度に一度は失敗しちゃう、っていうことがあるわけじゃない？ そんなとき、中絶すれば堕胎罪、っていうことになればどうなると思う？ まだ堕胎罪はちゃんと残っているんだから。A でも「経済的理由」では許されなくても、「身体的理由」っていうのは残っているんだから、何とかそっちの理由で中絶できるんじゃないの。

B じゃあそれ、何ていって医者に頼むのよ。少なくともニセの診断を下してもらおうってわけでしょ。

サルトルの小説に、女友だちが妊娠しちゃって、パリ中かけずりまわって中絶してくれるあやしげな医者を探すって場面があるけれど、日本でも真面目な医者だったら違法行為はいやがるだろうし、やっぱり引受けるのは、うんと高い金を取りたさに法網をくぐる悪徳医っていうことになると思うわよ。A 高い上に技術が下手、とくる。中

絶したほうも、トナリの奥さんに知られないように、入院もしないで早々に帰宅する……。

B ろくなことにならないわよ。ヤミ中絶ってやっぱりこわいよねえ。

A 村上議員は、世の中のおかしなってるのはぜんぶ妊娠中絶に原因がある、みたいな言い方してるんだけど、でも日本の民衆は昔から、もっとひどい形で人口調節をやっていたのよね。

B 間引きっていうやつでしょ。

A そう、中絶じゃなくて、れっきとした子殺し。口に灰をつめこんで俵に入れて川に投げこむ、締めころす、押しころす、そりゃ残酷なもの。

それで徳川時代には大体三千万で人口が安定してたわけ。

B でも今のような家庭内暴力はなかったわけよねえ。人命軽視の現代的風潮は、みんな妊娠中絶のせい、なんてこじつけもいとこね。

A ほんとほんと。村上議員にいわせると、「自分も中絶されたかもしれな

い」って思う子どもは親を信頼しなくなるというけれど、逆に、望まれもしないで生まれてくる子のほうがよっぽど不幸だし、親子関係もよくないと考えるほうが自然じゃないのかな。

「生命尊重」は タテマエで

B 「生長の家」は、胎児も一つの生命である、ってそればかりドラマティックに強調してるんだけど、おかしいと思うのは、それほど人命尊重をとえるなら、マザーテレサのように、強姦による妊娠も、障害や悪性遺伝のある胎児も中絶してはいけない、というべきなのに、条件つきで中絶を認めることなの。村上議員は、「私は一切の中絶に反対するものではありません」ってわざわざ強調してる。

A 生命尊重、生命尊重っていいながら、おかしいねえ。

B 「生長の家」の青年にもきいてみたの。ほんとに宗教的信念で中絶反対

なら、どんな場合にも反対すべきじゃないかって。

A なんて答えた？

B 現在の中絶はほとんどが「経済的理由」で行われている、他の理由のものはごく少数だから、たとえ中絶されても人数的にはネグリジブルだ、というのね。

A フウーン。百人救えればあとの十人は殺されてもかまわない、というわけね。

B 私、こんなのは宗教者の考えることじゃない、と思うのね。キリストは九十九匹の羊をおいてもあとの一匹を探しに行く、といったでしょ。宗教者としてはあれが本当の態度だと思うの。人間の生命を量ではかるなんてニセモノよ。

要するにマザー・テレサのように、すべての妊娠中絶に反対、っていう主張は、政治的にはラジカルすぎて反撥をくらう、って思っているんでしょね。「身体的理由」での中絶ならみと

めるっていう路線は、大衆的支持を得そうだ、って。

A 身体的理由で中絶することをみとめる、ということは、「優生保護法」の根底にある、悪い遺伝を持った人間は切り捨ててしまおう、という思想をみとめることでしょ。健康な人間、役に立つ人間なら生かしておいて、そうでないのは殺しちゃえ、って、これは宗教精神にはほど遠い、人間をモノとして見る思想じゃないの。

B あの「優生保護法」って、ほんとに読めば読むほどおそろしい法律だもんねー。どんな人があんなもん作るんだか。

A 宗教者だったら、真先にあの法律自体に反対するはずだと思うわね。

B 一生懸命、純粋な気持で運動している「生長の家」の信徒たちはそこに気がつかないのかなあ。

A 政治に利用されているわけよね。自分たちはひたすら「生命尊重」のためにやってると思ってるわけだけ



手話通訳がついた

ど、村上議員の主張をよくよくみると、宗教的信念どころか、政治的思惑で動いていることがよく分かるもの。

B 生命尊重なら戦争否定のはずだけど、自衛のための戦争ならやむなし、って自衛隊もみとめているものね。

タテマエの背後にある ホンネは

A だけども、政治家ってしょせんはそういうタテマエで国民を釣っていくものなのよ。タカ派だってハト派だって、右翼だって左翼だって、口にすることは平和だ、民主主義だ、自由だ平等だって、みーんな同じじゃない。きれいごとのタテマエで票を集めてさ、ホンネは党利党略っていうのが議会制民主主義の実状なのよ。村上議員にかぎらず。

B だから私たちは 美辞麗句の背後にどんなホンネがあるか、それを見抜かなくちゃいけないわけね。

A じゃあなた、村上議員のホンネはなんだと思う？

B そうだなあ……。やっぱり最終的には人口をふやしたいんでしょね。

現在の閣僚のきょうだい数を調べ上げて、八人、十人、十一人きょうだいなんかが多いって、賛美しているもの。きょうだいが多ければもらえるからそれだけで社会性が身につくし、忍耐力も備わる、っていうわけ。

A 昔の大家族制度と今とはちがうのよ。兎小屋で十人も子どもを生んでどうなるの。第一、高校にもろくにやれないことになりかねないわよ。

B むしろ教育程度下げることねらってるみたい。誰もが高等教育受ける必要性はない、職業高校や専修学校で十分だ、って生長の家の青年幹部がいていたもの……。

A ウーン。

B 村上議員の出したパンフにも、「日本民族を死滅への道から救うために」ってサブタイトルがついているの。最

近一組の夫婦が平均一・七人の子どもしか生まなくなったのにたしかに危機感を持っているわね。

A そんなことをいうけど人口問題研究所の統計だと、一九九〇年になっても日本の総人口は一億一千七百万人で今とほとんど同じなのよ。この狭い日本に、まだ多すぎると思わない？

B 中卒、高卒の就職まできびしくなっているという状況なのに、これ以上労働力をふやしてどうするつもりだろう。まだまだ社会人として働ける主婦の予備軍がいるというのに。

A 主婦についてはどういってる？

B 女というものはやさしく美しく、一家の太陽としてあたたかく家庭を守り、なるべく夫の給料でくらししてほしい、というの。

戦前型社会への郷愁

A わかった／ 要するに優生保護法

「改正」を称える人たちは、戦前型の社会に郷愁をもっているのよ。女にはできるだけ子どもを生ませ、母として一家を守らせる。人口をふやして中卒や高卒の安価な労働力を確保する。教育程度が低くなれば権利意識を持った国民が育たないからエライさんのいうことはよくきく。こりゃ一石二鳥じゃない／

B そういえば、人間の生れてくるのは、何万、何千万のご先祖さまの生命があればこそ、だからその連綿たる生命の流れを象徴している天皇の存在はありがたい、っていったなあ。

A 不思議だなあ／ 戦後三十七年もたっているいまでも、戦前の家族制度だの、天皇制でまとまっていた国家主義にノスタルジーを感じる人がまだたくさんいるなんて。こういう人たちにいわせると、子どもがおかしくなるのも、青年がシラけるのも、みんな戦後の民主主義と新憲法、新教育がわるい、

ってなるんだから。十月二十八日に名古屋で開かれた中学校長大会でも、学校が荒れる原因は、生命尊重、児童中心、民主主義の戦後教育に原因がある、って提案が行われているでしょ。

B えーっ／ 言っていることが全部逆じゃないの。

A アゼン、ボーゼンよ。そういう人たちは、現状を改善するのに国民がオカミのいうことを何でもハイハイときいていた、戦前の社会に戻ることにしか頭に浮ばないみたい。

B その一方で、若い世代は「カンケイナイ、カンケイナイ」でしょ。情ないというか、腹立たしいというか。

中絶はホントに「悪」なのか

A でもね、政治家の思惑はさておいて、妊娠中絶はほんとに悪いことなんだろうか。

B 胎児に魂があるかないかとか、いろいろむづかしい議論はあるけれど、

やっぱり殺人とは違うんじゃない？

A 中絶した人にきいてみて、罪悪感を抱いてる人もあれば、いない人もある。「いいこと」とは誰も思っていないでしょうけど、妊娠のごく初期には、やはり自分の自由になる肉体の一部、って感じてる人が多いんじゃないかしら。五カ月、六カ月にもなったら胎動でも感じだしたら全然違うでしょうけど。

B 妊娠中絶を経験した女子学生の手記なんかには、「やはりどんなことをしても生むべきだった」なんてあるけれど、それがほんとに自然な感情なのか、社会的に作られた感情なのか疑わしいと思うのね。水子地蔵だの水子観音だの、金もうけのために罪悪感をあおり立てるお寺まであるんだもの。

A 十月十六日の労働省の勤労者意識の調査で、中絶を「よいと思わないが仕方がない」って答えてる人が約半数なんだけど、そのへんが平均的な感じかたじゃないのかな。

B 食べもの一つにしても、人間って必ず他の動物のいのちを奪って生きていくわけでしょ。

A この間の善法寺保育園の実践は、そういう事実を目をふさがれてきれいごとで暮している子どもたちに、いや親たちに、生きることの真実を体験的につきつけてやろうという試みだったわけよね。

B 生きるためには他者の生命を奪わなければならない哀しき、人間ってどうしてもそこからは脱けられないんじゃないだろうか。

A そういう存在としての人間をどう考えるか、どう救うかということが哲学や宗教の役目なんだろうけど、妊娠中絶もいわばそういった人間の業の一つじゃないかなあ。

B 人命尊重、尊重って絶叫するんなら、ピルを解禁するなり、ペッサリーを普及さすなり、高校の授業に避妊教育をとりいれるなり、もっとやり方はいくらかあるはずよね。

A そっちは放つという、政治が宗教の衣を着て中絶禁止に人命尊重のタテマエをくっつけようとしている。

B 民主主義の世の中から、女たちの耳に入りやすいきれいごとで飾り立てなきゃね。昔みたいに権力が素顔でまかり通るわけに行かないもん。

A 富国強兵のために子どもを生め、なんていったって、誰もいうことじゃないものね。

B 考えてみるとオカミっていうのは、いつも国策に合わせて、女に子どもを生ませたり、生ませたがらなかったりしてきてる。

徳川時代は間引き黙認。ゼロ成長社会だから人口増えたら悲劇。

明治から太平洋戦争までは富国強兵、生めよ殖やせよだから墮胎罪がきびしかった。避妊もろくにできないから女は五人も十人も生みつけ。

戦後、人口がふえたら国家の破滅、とばかり、墮胎罪はそのまま残っていて優生保護法で中絶公認。



天井サジキまで超満員

昭和四十年代の後半から、高齢化社会がきて労働力が不足する、っていうんで中絶禁止の試みが目立ってきた。

B 今度で三度目よね。「生長の家」は、今度こそ十二月の通常国会で通してみせるっていきまいてる。

だけどホネをまきちらすと反撥買うから、政治的側面はなるべく引込めておいて、「人命尊重、人命尊重」。ものすごく心情的なやりかたで、高校生の信者に学園祭なんかで「胎児の生命守ろう」ってキャンペーンにのり出しているわけ。

A 「生命尊重」ってうち出されると、正面切って反対しにくいものねえ。

B 他人の持つてる権利を取り上げるんだから、そりゃいろいろ工夫をこらすわよ。

A 日本人はお涙頂戴でこれされると弱いもんね。各高校学園祭での、生長の家の中絶反対キャンペーンの展示にきた人たちなんか、「中絶のおそろしさが身にしました」って大感動よ。

B それが政治的に、どういうところに結びついてるかは気がつかない。

A 歴史や社会の全体が見えてないのよね。

B 自分の権利を守ることを知らない前近代的国民だもの。おまけにそうでない人たちは、カンケイナイ、カンケイナイだもんね。

A 今度の優生保護法改悪問題に、何ともいえずイヤなものを感じられるのはそこなんだなあ。

(討論・鈴木由美子・鈴木みち子)

田中喜美子・和田 好子

まとめ・田中喜美子)

(写真 長野早紀子・重広 愛子)

私のえらぶ画家 10 佃 堅 輔

野村 順子

アール・ヌボー風な、洗練された野村さんのタブロー。

美しい女性が、静かな表情で、両手をあげて立っている。彼女のガウンは、渋いヴァイオレット。彼女の足もとには、バラやボタンが咲き乱れ、彼女をとりまく画面全体には、白い小鳥が飛び交い、無数の小さな球体が、重なり合いながら、空にむかって、気球のように浮上している。

もう一枚の絵は、女が片手をあげているが、自然のなかで、何かに驚きを感じたようなポーズだ。この絵も、同じように、画面全体に、小鳥や花や小さい球体が描かれている。

野村さんは、なぜ、球体をよく描くのだろう



カトレアの誕生 (美術報知社賞)



蘇
生

うか。

「この地球には、あらゆるものをつかさどる、眼にみえない潜在的ないろいろな生命のエネルギーがあります。花とか鳥は、そのような生命のひとつの形をとった表れです。生命のエネルギーの集約されたものが、わたしの描く球体といえましょう」と野村さん。

いっぽう、野村さんは、『平和への祈りをこめて』というシリーズで、積極的に平和問題をテーマにして描いている。原爆体験こそしなかったが、かつて広島で、悲惨な原爆体験をみたという。

「そのとき、ほんとうに生命の尊さを、しみじみ感じました」と語る野村さんが、生命の象徴ともいえる「球体」を描く理由も、体験に裏づけされたものであることが分るだろう。

「自然界の動きのなかで、心の無限のよろこびを、なんとか表現したい。それをどこまで具象化できるか、可能なかぎり、とり組んでゆきたい……」

野村さんは、現在、『新芸術協会』の主要メンバーの一人。現代文化協会賞、美術報知社賞など受賞。また、フランス国営ル・サロンの会員。期待の人である。

妻たちの蟻地獄

木下 律子

その一 佐伯京子さんの話

ここは社宅とは呼びません。A銀行家族寮です。銀行の場合はたいていこういう名がついてるみたいです。寮なんていうと、引揚げ者か難民が一時的に入る場所みたいですが、四階建ての棟が三つなら普通の住宅です。

家族寮住まいもここが三か所目。結婚して十三年間のうちに二度転勤がありましたから。巨大銀行というのは全国に支店があつて、これから先もどこに行かされるかわからないですね。

はじめのうち私は、家族寮って何と暮しやすいところかと思いました。下の子が赤ん坊で、上の子が勝手にヨチヨチ外へ出てという時期でも、へいに囲まれていて交通事故の心配がない。みんなうちの子の名を知





っていて、危ないこととしてれば止めてくれます。布団を干して外出しているときにわか雨が降ってくれば、管理人さんが合カギで開けてとりこんでくれました。

田舎で育って、隣家の人の顔も知らない都会暮らしの冷淡さというのを恐れてたんですが、ここなら大丈夫だと思いましたね。私は集まってにぎやかにおしゃべりするのが好きなたちで、一緒にケーキを作るやらパンを焼くやらして、家族寮の暮しを楽しんできました。いつのころから居心地が悪くなってきたのかははっきりしないんですが、私が家事や育児だけにかまけていないで、婦人問題や教育問題の本を読むようになって、勉強会などに歩き始めたあたりから、周囲の光景がちがって見えるようになってきたんです。

○

大銀行は不況に強くて、夫一人の月給で一家がゆったり生活できます。家族寮の家賃はタダみたいなものだし、マイホームを買うときにはすごく低い金利で資金を貸してもらえるし。

このくらい甲斐性のある男たちは、妻に家庭にいろと強制できるんでしょうか。この家族寮三十数軒、奥さんはみんな専業主婦です。だけど、一人一人の男性の意向というより、銀行内の空気によってこうなっている感じですね。行員は健全な家庭を築くべし、健全と

いうのはまず奥さんが家にいること、という空気があるんです。男っていうのは、職場内の雰囲気と同調しますから、私生活が職場につつぬけの家族寮では、妻にきびしいですね。

一度子どもがいらない家の奥さんが、資格を生かしてアルバイトに出ましたが、周囲の拒絶反応や夫の反対によって、すぐやめてしまいました。

その反面、銀行が忙しいときに、家族寮の奥さんが短期アルバイトに出るのはかまわないんです。職場結婚がやたら多いから、以前この銀行に勤めてた人は、ときどきお呼びがかかってるようです。

この「銀行内の空気」なるもの、恐ろしいですよ。女子行員が「アンアン」や「ノンノ」ならともかく、「クロワッサン」を読んでいたというので、あの女は思想的に偏向しているとマークされるぐらい。ウソみたいですが、どっぷりそのなかに漬かっていると、おかしいと思わなくなるんです。

家族寮に住むというのは、当然その空気のなかで暮すこと。あるとき私のうちで、買ってまだ一年にしかならない全自動洗濯機からボツと火が吹き出した。有名メーカーのものなのに何という欠陥商品だと驚いて、消費者団体に連絡しようとしたわけ。原因を説明しなきゃ、この機種が火事でも起すかも知れないでしょ。

そしたら、夫と大ゲンカ。待て、絶対そんなことするな、この洗濯機のメーカーは、ウチの銀行の大切な得意先だ、お前が消費者団体に訴えて出て、この寮の住所でも書いてみる、どうまわりまわって銀行に知れ、オレの首をしめるかわかったもんじゃない、と必死で止めるんです。

こういうケンカ一度や二度じゃない。デパートの地下売場で買ってきたおそうざいが痛んでたから、文句言って返品しに行こうとしたら、待て、そんなことするな、あのデパートはウチの銀行の得意先だ、あとは以下同文って具合に、夫は私を叱りつけてばかり。

私が泣き寝入りできない性質なのが、夫には気に入らないんです。銀行員とその妻に一番必要なのは、ひよっとしたらこの「泣き寝入り体質」なんだってこのごろわかってきました。

「身辺に不祥事を起して銀行の名を出すな」がモットーなんです。よくこのへいによその子が登って遊んでいる。すると自治会の幹事さんから回覧板が回ってきて、「ケガ人でも出て銀行の名が出たら大変だから、へいに登らせないよう注意しましょう」とか書いてある。大人が子供に危ないことをしないよう注意するのはいいことだけれど、あまり露骨に「銀行の名が出ないよう」と言われると抵抗を感じますね。大

人たちが協力して、この地域の子供たちを守りましようという発想じゃない。

前にいた家族寮で、一階の家に泥棒が入って、宝石や現金を盗まれた事件があったんですが、その家では盗難届を出さなかった。新聞ダネになったりしたら銀行に迷惑をかけてそのご主人の出世の妨けになるから、それが当然だと周囲も受け取めて。

犯罪といえば、痴漢事件というのもありました。構内にうっそうと繁る植え込みがあって、その裏を通ろうとした奥さんが、隠れていた男にいきなり抱きつかれていたずらされかかった。その人は振り切って逃げ、息はずませて今あそこで痴漢が出たわよ、ああこわかった、気をつけてねとほかの奥さんたちにしゃべったわけ。

その夜男の人たちが帰ってくると、どこの家もその話でもちきり。あとでわかったんですが、うちでもよそでも、奥さん連中はみんな亭主に説教された。お前がもし同じような目にあったとしても、あの奥さんのように軽卒に騒ぐようでは、亭主の足を引っぱることになる。落ちついて何くわぬ顔で家に帰り、オレにだけ打明けろ。どこのお家も言われたことが同じなんですよ。

そして植え込みは短く刈り込まれたんだけど、被

害にあった奥さん、まるで女学生のように若くて率直なそのひとが、かわいそうなことになってしまった。

自分の妻にクギを刺したあとで男の人たちが、あの女は服装も派手で男の気をそそるところがあるから痴漢を呼び寄せたんだらうという目で、その奥さんを見るんです。身体を好奇の視線でながめまわしたみたい。そうなってきたら、奥さんがたも含めて、被害者をさげすむ雰囲気が生まれてきたんですね。

この事件のなりゆきを見ていて、あまりにもひどいじゃないかと思いました。私の幼なじみで、ほかの銀行に勤めている男性に出会ったときにこの話をして、どう思うと聞いてみた。そしたら、ボクがいる家族寮でも同じようなことになるんじゃないかな、ああいふところはそういうもんだよって言われて、もいちどびっくりしたんです。

ここで「いい奥さん」になるとはどういうことなのか。欠陥商品で誰かがケガしようが、痴漢が別の女性を襲おうが、われ関せずの精神。まともな人間ほど悪妻になりそうな感じがするんですね。

○

こんな話ばかりしていると、私の夫がゴリゴリの保守的な人物みたいに見えるでしょうね。実は、夫はかつて学生運動の闘士だったんです。私は大学には行き

ませんでした。が、社会科学の勉強会場で彼と知り合いました。

彼が銀行に就職してしばらくたつたころ、私と結婚することが職場に伝わると、直属の上司がわざわざ私に会いにやってきました。

彼の出世の妨げになるから、彼を大切に思うなら身を引けと私を説得するんです。私は当時すでに離婚歴があり、彼のほうは初婚です。一流大学卒の銀行員なら、取引先のお嬢さんと縁談をすすめることもできるのに、平凡な家の私のような女性と結婚するのは愚の骨頂だと考えたんでしょうね。女なんか誰でも同じなんだから、男は社会的に有利な結婚をすべきだという考え方です。

愛してるなら身を引けなんて、まるで戦前の出来事みたいでしょ。でも私はいま三十代の人間ですよ。そんなことが本当に昭和四十年代にあったんです。彼は、上司の意向など無視して、断固として私と結婚する道を選びました。

だけど、男というのは変わります。こんな生活をしてたら、変らずにいられないのかも知れません。とにかく仕事がいそがしすぎるし、休日も職場や取引先の人間とだけつきあっている。それで住んでいるのが家族寮ときたら、もう二十四時間まるごと勤務している

ようなものですから。銀行の中での自分の立場だけが唯一の関心事、というふうになってきたようです。

男の人は、私生活まで厳しく見張られてるんですね。たとえば、最初に住んだ家族寮に、革新系の政党に入っているご主人がいたんですが、その人、絶対職場から直接党の会合の場所へ行きませんでした。まず家に帰り、ふだん着に着替える。そうしてツツカケ履いてタバコでも買いにいって格好で外へ出ていき、ついでに飲み屋に寄って遅くなったという風情で帰宅していたという話です。職場から尾行されるのを避けたかったんでしょうね。

夫を見ていて不安なのは、このまま職場以外の世界を知らずに年を取っていくと、価値観に幅がなくなるんじゃないかという点です。今でも、学生運動仲間だった友人と会ったりするんですが、そっちの男も大会社の中での出世しか考えてないから、役に立たないです。

昔の仲間の一人が、恵まれた職場を捨てて故郷に帰り、学習塾を開きながら市民運動をしていると、うわさが伝わってきました。そしたら夫と運動仲間の友人とが、その人をばかにして笑ってるんです。聞いてて情ない。昔みたいに未熟なやりかたで旗を振ってほしいなんて思いもしないけれど、せめて、自分と違う生

き方を容認できる心の広さが保てないかと思うんですね。彼の老後がとても心配です。

○

そうそう、このことだけはお話しなくては。私は一途に熱中するところがあって、少し前は本多勝一に傾倒してました。だからNHK受信料の不払いをやるうと思った。正しいと思ったらバツとやっちゃうほうなんですよ。

やってきた集金人に、受信料は支払わないと言うとその中年男、いきなりとてつもない大声を出して、わめきだしたんです。

「えーっ、銀行の奥さんがそんなことやってもいい

んですか、そんなことするのは、共産党とお宅だけですよ。」

この声をご近所一带にひびきわたる。明日中には夫の職場全体に知れわたること確実。あわわわ、と黙ってもらって、お金払いました。

夫に養われ、その勤務先から貸してもらった住宅に住む女が「自立した市民」のまねごとをしようなんて甘かったのね。集金人のほうがはるかにうわてでした。こうやりや、社宅の女なんか赤児の手をひねるように扱えると知ってるんですね。公団住宅なんかだったら、主婦が少しは自由に行動できるかも知れないけど、ここではだめ。



といっても、この家族寮にも、奥さんがたが熱心に参加しているサークル活動があります。婦人の友社の友の会です。きちんとした良い主婦になるための勉強だから、夫からも銀行からも文句が出ないんですね。私はあまりそういうことはやりたくない。読書会や裁判の傍聴に出かけ、自分にとって興味のあることを勉強していこうと思ってます。夫と子供を家に残して夜の読書会に出かけるとき、門を出て振り返ると、あの階この階の窓からのぞいていた顔があわてて奥へ引っこむんですよ。

○

長年暮して思うんだけど、社宅って、働く人のためじゃなくて会社のためにあるものですね。ここに社員を入れとけば、企業は本当にトクしますね。

その二 大石ひろみさんの話

夫が突然ドロンと消えてしまっって、いつ帰ってくるのか見当もつかない。この会社の男性と結婚したらそんな目にあいます。世界各地の建設仕事を請負う会社で、社員を単身で長期間派遣するのです。

結婚してしばらくたって私のお腹が目立ってきたら、主人は東南アジアへ行ってしまった。子供が生れたく

らいで帰国させてはくれません。電話で、アウアウオギャーと長男の声を聞かせるだけ。年に一度だけ短期間家庭に帰してくれることになって、父と子の初対面は生後六カ月めでした。

主人がまた赴任地に戻ったあと、最初一年半の約束だったからあと数カ月で夫と暮せると思っ暮らしていたら、全然帰ってこない。一年半で工事が終わるはずだったのに、現地の都合で進行状況がはかばかしくなくて、二年、二年半経っても完成しないんですね。結局国内勤務に戻れたのは三年後でした。契約違反もいいとこだって、私は腹が立ってしょうがなかった。長男はそのときもう二歳半。主人は、受話器からパパ、パパと聞こえる声だけで、親である実感をつないできたと言っていました。

国内の単身赴任なら、一週間に一回とか、月に一度とか家に帰ってきますが、海外となると、もう船員さんの妻と似たような状況ですね。結婚生活十年といっても、半分は全く夫ぬきの生活でした。

商社あたりだと、妻が日本に居たくても、夫婦そろって海外に行ってパーティーを開けとか言われるそうですね。この会社はその反対で、妻と一緒に生きたくても行かせない。強制的な単身赴任です。どっちにしろ、会社の都合で家庭の形が決められる点は同じです

よね。

○ この社宅、不便な場所でしょ。田んぼの中に鉄筋の建物が並んでいる。都心に出るのに、へたすると二時間もかかります。ここに九年間住んですが、右隣の家のご主人が久しぶりに帰国したら、左隣のご主人が出発するって具合で、いつも半数以上が母子だけの家庭です。男はここじゃカゲが薄くて、女だけの社会という感じ。

ここに入居してるかたがたの年齢の幅がけっこう広くて、二十代から五十代まで。赤ちゃんの母親も大学生の母親もいます。

○ ご近所に同世代がそろっているのと、さまざまな年の人がまじっているのと、どっちがいいのかわかりませんが、ここは社宅という特殊なところでしょ。世代の違いが独特の問題になってくるんです。

たとえば、自治会で積立てた環境整備用のお金を、何に使うか話し合うわけですね。砂場の砂がごっそり減っているから砂を買おうと若い人が提案する。誰が見てもあの砂場はひどい状態だから、みんなに納得してもらえらるだろうと思ってたら、強硬な反対が出てきた。「そんなの必要ありませんよ」と、高校生くらいの子を持つ人達が言下にしりぞける。自分の子は砂場遊び

と無縁だし、小さい子が庭でワイワイ遊ぶとうるさいと考えるんでしょうね。自分の子にも小さいときがあったのに、のどもと過ぎてしまってる。

普通の団地だったらここでカンカンガクガクの議論になるでしょうけど、ここでは年長の女性というのが、会社で地位の高い人の奥さんである場合が多いでしょ。夫の上司の奥さんとケンカするのは大変なことだから、若い人達が黙ってしまふ。

○ いつも行く公民館の女性主事さんが、長く家にいた主婦ほど、狭量で利己的、消極的で、はっきりいえば人間的にダメになってる人が多いなんて言っていました。この社宅の奥さんはあまり外へ働きに行きませんからね、その「家に長くなってダメになった」人ほど、エライ人の奥さんとして強い発言権を持つわけですね。

○ 約四十軒のうち、外に働きに出ている奥さんは二、三人。それともかなり年長の人達です。ほかは全部専業主婦かなんてとんでもない。子供がある程度大きくなったら、社宅内の内職グループに入ってコツコツ働くのが平均的なコースです。一部上場の企業といっても、社風は地味なほうじゃないですか。それに、ご主人が単身赴任中なら食事の用意も簡単だし、遊んでいるのはもったいないという雰囲気ですね。

このように、ここでは女がお金を稼ぐこと自体は非難されませんが、社宅のへいの外に出ていく人、個性的な生活をする人への風当たりが強いんです。

私も風当たりを受けてるほうでしょうね。英語塾の手伝いに行ったり、子供文庫の活動をしたりして始終歩いていますから。

ただ、最初にこの社宅からボランティア活動に出た女性ほどには白眼視されずにすんでいます。私より四五歳年上の、すばらしい女性がいたんです。その人は児童文学や絵本の勉強をしてグループを作り、近所の公民館や児童館で子供達に本を読み聞かせたり、ストーリーテリングしたり、積極的な活動をやってたんですね。何せ異端児第一号だから、子供を放ったらかしにして遊んでるとか、家事があとまわしになってるとか、陰に陽にさんざん悪口言われましたね。

私の子供の本の活動に入っていたのもその人の影響なんです。パイオニアになって前例を作っておいてくれたので、二番手の私はまたああいうのが出てきたなって感じで、ずっと楽だったと思います。

世間では、主婦のボランティア活動なんてごく普通のことでしょう。社宅の中から、その普通のことを始めるには、五倍も十倍も勇気がいるんです。外部の人にはわかってもらえないでしょうね。

○

私が困ってるのは、ちょっと言いにくいんだけど、この社宅で猥談があまりにも盛んなこと。

奥さんがたが集まってしっしやべっていると必ず話がそこへ行くんですね。それがまたものすごく露骨な話ばかり。後生だから実例を挙げるなんて言わないでくださいね。

性の話をするのは別に悪いことじゃないですよ。真剣な討論も、大人の会話の性的なジョークも、結構なことだと思えます。でもこのは、ただ末端肥大的な卑猥さで、いやになってしまふ。

一種馴れあいの雰囲気があるんですね。世間から狐立した狭い社宅に女たちが閉じこもって暮してる。みんな一緒に低いとこにドーンと落っこちて、共犯者めいた連帯感を確認するのもかも知れない。私は猥談に入りこまずに笑って逃げ出しちゃうから嫌われる。もともと口数の少ない内気な人ならともかく、ふだんポンポンしゃべるくせに猥談だけ参加しないというのは、上品ぶってほかの人をバカにしてると受取られるんですね。社宅ではみんなと同じにするのが一番大切なことですから。

それから、夫が留守中の妻の行動に対する監視がすさまじい。車が止まってあの家に男の人が入って行っ

た、どういってお客なんだろうってすぐ話題になります。おしやれして出かければ、外で何してるんだかわかったもんじゃない、とかね。

農村の戦争未亡人の話が載った本を読んだら、家の前に自転車が止めてあるだけで村の人にせんさくされると書いてありました。こと全く同じだと思いましたね。

私、いつのまにかヘンな習慣がついてしまった。男の来客があるときは、近所の人にさりげなく話しておくんです。「出張ついでに弟が寄るから、今日はビールを頼まなくちゃ」「ピアノの調律師さんが午後から来ることになってるのよ」というふうに、我が身の潔白を証明する根回しをしとくわけですね。これをやっとかないと、変なうわさに尾ひれがついてあとが面倒なことになるから、先手を打ってるんです。

すさまじい猥談と男出入り相互監視体制。この二つ

はちっとも矛盾してない、むしろ表裏一体のものだっ
て感じがするんですが……。

○

杜宅の中だけにいるのは、人間的成長にとってマイナスじゃないかと思います。主婦同士のつきあいというワクの中でも、子供文庫に参加してみたら商家の奥さんもある、先生の奥さんもある、それぞれがちがう知恵を持っていて、今まで見えなかったものが見えてくるんですね。

同じ境遇の人間ばかりの集まりは、別に猥談でなくとも、まとまって低いほうヘドーンと流れていって歯止めがかからないような気がするんです。

この間、ここのご主人のおひとりですが、ガンで亡くられました。みんなショックでしたね。

そしたら誰かが、力を合わせてこの杜宅でお葬式をしてあげようと言ひ出し、みんなが賛成して、誰が何



を分担してというところまでとんとん拍子に話が進みました。

ところがご主人を亡くした奥さんは、当然のことながら杜宅のそんな雰囲気を知らないから、迷惑をかけないよう遠慮して、申し出を断りました。そして市立の斎場で告別式をすることに決めたとわけですね。

自分達でお葬式を出そうと張り切って盛り上がっていた面々は、肩すかしを食ったような気がしたんでしょね。その奥さんに腹を立ててしまったんです。

当日会社がわざわざ杜宅へバスを回して斎場へ送ってくれるというのに、黒スーツ着て乗りこんだのは私を含めて四、五人。お葬式をしようと騒いだ人達が来ずに、異様な少人数でした。

こんなの自己中心的で子供みたいだと思っんですね。自分の好意に背を向けた人のことなど知らないという態度で、相手の気持をくんで行動することができない。それから打算的。ご主人を亡くして杜宅から去る人とはもうつきあうこともないし、失礼なことをしても自分の不利にならない、とソロバンをはじいてるんです。

○

下の子はまだ幼稚園ですが、上の子は小学四年生。この長男がこのごろ皮肉家になってきた。杜宅のおばさんたちを軽蔑したようなことをよく言うんです。

この子が駐車場の車のボンネットに乗ってたとき、通りかかったおばさんは何も言わなかった。あとになって別のおばさんが母親の私のところへ、誰それさんたちがお宅の坊やの悪口言ってるわよと電話してきた。

また、私が外出しているときには、「お母さんまた出かけたの？ かわいそうに」と、子供への思いやりよりは母親への非難がこもった言葉をかけられてきた……この子はこの環境で育つてますからね。

口とがらせて、きらいなおばさんの声色をつかって「オタクノボッチャンガマタコンナコトシテマシタヨ」なんて言って笑ったりしてる。

この子、将来新聞記者になりたいって言ってるんです。芽生えてきた批判力が役に立つかななんて、親バカなことを思う反面、皮肉っぽさが不安ですね。大人なんて、女なんてでしょせんこんなものだと見くびってしまふと人間として危いと思います。広い社会には、杜宅のおばさんたちとはちがういろんな人間がいる、そのことを子供たちに実感してほしいですね。

読者のみなさまへ

「わいふ」の誌名についてご意見をお寄せ下さったみなさま、ほんとにありがとうございます。

誌名は変えず、字を片カナにしたかどうかというご意見、「女性」という名にしたら? という提案など、さまざまのお声がありました。もう「わいふ」という名は定着したのだからこのままでいいじゃないか、というご意見が今のところ多いようです。この問題はロング・レインジで考えて行きたいので、引きつづき声をお寄せくださるようお願いいたします。

お忙しい中をお声をお寄せ下さったみなさま、ほんとうにありがとうございます。

×

先日、息がとまるほどびっくりしたことがあります。

「わいふ」を熱心に読んでくださる読

者の方に、お話のついでに新しい読者をふやして下さいませんか、とお願いしたら、

「余り大きくなってしまふといやだから……」とお断りを受けたのです。頭をガーン、と叩かれたような衝撃でした。

発足当時の百人の読者から比べると、「わいふ」の読者は数十倍にふえましたが、まだまだミニコミの域を出ず、原稿をおねがいする方には、非常識といわれてもしかたのない安い稿料しかお払いできませんし、赤字を埋めるために編集部スタッフ一同、外注のごとをこなして印刷費につきこんでいるのが現状です。

ボランティア活動に等しい働きが、二年や三年ならともかく、八年も、九年も、十年も続くだろうか、という不安にかられます。

「大きくなりすぎるといやだから、読者をふやしたくない」とおっしゃる方

は、もちろんこの現状をご存じないのだと思います。そしておそらく、他の読者の方たちも、同じなのではないでしょうか。サークルで回しよみをしている、とおっしゃる方も多く、それはとてもうれしいことなのですが、本音を吐けばその方々が正規の読者になって下さればなァ、と痛切に思います。

「大きくなる」ために、などというにはほど遠く、このささやかな雑誌をつまでも奉仕的労働に依存させないために、「わいふ」をつぶさないために、どうか読者をふやしていただきたいのです。

この呼びかけをお読みになった方、お知りあいの中に、「わいふ」の読者になって下さりそうな方を、お一人だけでもみつめて声をかけていただけないでしょうか。「わいふ」は生き続けるために、あなたのお力を必要としているのです。

編集部

電話料金についてのアンケート(1)

1. 家族構成

	職 業	年令	月収(月平均)	子供の数と年令
夫				
妻				

2. 使用電話の種類

台数

3. 過去3カ月間の電話料金 8月 9月 10月

◆他の月に比べて料金の多かった月の通話内容
(例 冠婚葬祭・病気など)

◆主に電話を使う人は誰ですか？

4. 現行の電話料金について (マルをつけて下さい)

◆高いと思う 安いと思う 妥当だと思う

◆その理由

5. ダイヤル通話料金の明細をどう思いますか。

◆必要 不必要

◆明細を明らかにすることはプライバシーの侵害になるという人がいます。
どう思いますか。

6. 基本料金についてどう思いますか。

7. あなた及びあなたの家族の生活の中で、電話はどれほどの重要性を占めていますか？(具体的にお書き下さい)

8. 何かご意見があったらお書き下さい。(料金、時間、電々公社への意見、または改革案など)

記名・無記名自由・この項を切りとって編集部までお送り下さい。

不当な料金値上げを許さないためにぜひあなたの声を!!



心のこもった
手作りの味
萩窪（有）すみれ家

杉並区萩窪3の20の10

電話 398-5877

主婦の自立は年月がたてばたつほどむづかしい

日々悩みつつそれでも一同がんばっています。

すみれ会 ご案内

（わいふ会員及び紹介要）

忘年会・新年会のお集まりに

お出かけ下さいませ。

西荻窪駅より五分

●クリスマス・忘年会メニュー

三千五百円

前菜（三種盛合せ）

おさしみ

吸物

煮物

焼物（または揚げ物）

サラダ

いくら寿司（香の物）

甘味 抹茶

予約制十五人位（貸切りも可）

●おせち料理

限定二十組

三段重 二万九千円

四・五人用（重箱別）

二段重 一万五千円

少人数用（重箱別）

洋風つめ合せ 二万円

四・五人用（大皿容器盛）

くわしくはお問い合わせ下さい。

予約制 先約二十名様まで

配達都合上、車で

四十分以内。

★情報コーナー

パレスチナの絵本を 私たちの手で

一冊の本があります。ペイルートで出版された絵本で、ハサンアブダッラーという人が書き、ビルミー・トウニイという人が絵を描いたものです。原題は、「魚たちが死なないために」邦訳を、「さかなはおよぐ」としました。

パレスチナ問題にとくにくわしいわけではない私たちがこの絵本の出版を思ったのは、何よりもそれが私たちの貧しい想像力を裏切るような、すぐれた内容と色彩とに

いろいろとれているからです。そこには、いきのいい魚のように、「生きてる」ことのイメージがビチビチと飛びはねています。

そんな感動の渦が、時を同じくして報じられたイスラエルのレバノン・パレスチナ人民虐殺のさなかですます大きく拡がり、どうしてもこの



本を、日本の子どもたちの手に届けたいという一つの意志にまで発展しました。

定価は七八〇円ですが、下

記に購読の予約をいただけるとそのうち一五〇円がパレスチナの子どもたちへの医薬品、医療器具代としてカンバが可能になります。

申込先・東京都千代田区神田駿河台二一三 子どもの本の専門店 ピッピ

(〇三) 二九五・二五八〇

定価を訂正します

一七八号に掲載しました「ネットワーク・ノット」の定価が七五〇円となっていました。が、八五〇円の間違いでした。おわびします。

直販（郵便振替口座＝東京〇一九五六七一・グループサンロクロク宛振込）以外にも銀座伊東屋、全国の紀伊国屋書店他で、販売しています。

グループ366

ベルマーク・ロータスクーポン、古切手送って下さい

小学校のP・T・Aでも、ベルマークをあまり集めていないようです。もったいないなあと思っていましたところ、ベルマーク、ロータスクーポン、古切手の三種を集め、各方面に役立てている方がいました。私一人ではなかなか、集まりません。

ご協力いただける方いらっしゃいましたら、お手数ですが、あまり小さく切らずに、お送りいただけませんか、うか。申し訳ありませんが、郵送用の切手もお払いはできません。よろしくご協力下さい。

〒193 八王子市長房町七一九・七九一三〇四 松本裕子

ローマ在住十八年・絵本作家藤田桜さんの愉快な随筆おすめします

布地を活かしたカラージュ（貼絵）で、「みずうみはなぜこる」「つきよのおんがくかい」などの絵本を創作している藤田さんが、はじめて『ローマでエプロンかけて』というエッセーを出しました。イタリア政府に招かれた夫君（画家高橋秀氏）と共に、「住めば都というもののさ」と暮しはじめてみたものの、何かにつけてカチンとくるイタリア人の頑固さにあきれながらも、その開放的な屈託のなさ、親愛感は憎めないとい十八年も住み続けている桜さん。仕事をしながら妻として、二人の子の母として生活しながら見聞きしたあれこれを、

楽しい自筆のイラストと共に語ってくれます。

日本とイタリアの松の違いが教育にまでおよんだり、奇想天外な省エネ運動が風騒動にまで発展したり、中絶の話、空果のことなど、面白い太陽の国イタリアは実に愉快です。あなたもお読みになりますか。

定価九百三十円 新潮社版

原田静枝



託児所つきのコンサ

ート（クラシック）

新星日本交響楽団の演奏会は全会場とも託児所完備です。また車イス席もあり、介助の人も含めて割引があります。電話で問い合せ、住所を知らせると、スケジュールなどの資料を送ってくれます。

小宅昌枝

新星日響チケットサービス

☎〇三一九八五―四八三六

「女の自立と老いを考える」報告集完成

△わいふ／一七七号でお知らせした、第一回、女性による老人問題シンポジウム「女の自立と老いを考える」報告集が完成しました。のべ十五時間に渡った分科

会及び総合シンポジウムの克明な記録です。超満員のため、止むなくご参加をお断りした方々のため、そして老後を豊かに全うしたい方々のため作成しました。ご希望の方は左記へお申込み下さい。（頒価・報告集千二百円、資料五百円）

東京都千代田区三崎町二―一三一五

「高齢化社会をよくする女性の会」 ☎二六五・一四四九

女たちよ！ 生き方を決めるのは女自身であれ！

優生保護法「改正」ぜったい反対！ の討論会とコンサートを開きます。ぜひ来て下さい。

十二月十一日（土）

所・共済会館（京浜東北・浦和駅歩五分）

討論会・PM 1:00～4:00

コンサート・PM 4:30
青木とも子・ハネムーンズ
7:00

前売一〇〇〇円、当日一二〇〇円（高校生二〇〇円引）

△戦争への道を許さない女たち
の埼玉集会▽八風船爆弾▽
四〇四八八・八五・一三三八
四〇四八八・三三・一二五一
☆女には産めない時もある
（定価四〇〇円）も出版しま
したので、読んで下さい。

「古事記の植物画集」(上) 発刊のお知らせ

日本最古の叙事詩である、古事記の中には七十九種ほどの植物が出てきます。海布は海藻、^{なまこ}笋はたけのこ、菰菜はかぶ、佐草は山ゆりというところをご存知ですか。

ヤマタノオロチの目は「赤加賀智如して……」とあり、

古事記の植物画集(上)

寺田英子



これははおすぎだそうです。美しい筆致で画かれた四十種の植物。一つ一つに原文が付けられていますので、古事記の世界が鮮やかに展開していきます。

添え書きに、「東京・神代植物園でスケッチする」とあり、古代の植物がいまでも身近かに生きていることがわかって、散策の楽しみにもなります。

作者の寺田英子さんは、本誌、私のえらぶ画家、執筆の

佃堅輔さん推選の画家です。

頒価一五〇〇円

丸善出版サービスセンター
中央区日本橋二一三一〇

“わいふ”の読者が

本を出しました

最近の「わいふ」読者、なかなかの健筆家が増えてきました。嬉しいかぎりです。

札幌在住の石本礼子さんもその一人、この九月に朝日ソノラマから「東欧の窓ブダペスト——最新ハンガリー事情——」を出版されました。

石本さんは、一九六二年に民間日本人家族として、はじめて一般市民の中に居住を許され、首都ブダペストに住んだ経験があります。

それから二十年、しばしば渡欧とハンガリー訪問の旅を

重ねながら、日本人にとってまだまだ未知の国に属するハンガリーという国について、少しでも多くのことを紹介したい思いにかられ、書いたのがこの本です。

社会主義国ハンガリーの歴史から、首都ブダペストでの見る、聞く、食べる、楽しむについて、いろいろ。女の一人旅のすすめ（五章）には大いに励まされます。ご一読を、
定価一〇〇円



（写真いずれも長野早紀子）

フリータイムコーナー

らうんどてーぶる



随筆



私の旅立ち

東京都文京区 松山 峰子

「わいふ」一七四号に「主婦の再就職」のテーマで、一文を書いた者です。題は編集部でおつけになったもので「四十を越えてわが道を往く」となっていました。あの題はシヨッキングでした。私自身終りに「……四十

を続ける生活ができるようになるまでに、エンジンを始動してから七・八年の準備期間があったわけで、その点からも抵抗を感じた題でした。それはさておいて、その後のことを書きたいと思います。

程を出ても、非常勤の口さえ見つからず、やむなく近所の塾で教えたりしてチャンスをつ例も少なくないので、感謝しなければなりません。

を過ぎて白髪が増し、体力が衰え……云々」と書きましたので、あの題をつけられても文句は言えないのですが、自分が言うのと他人から言われるのでは、同じではないのですね。ちなみにあれを書いた時、私は四十一歳でした。

それからまた、人に教えながら自分も研究

今春の新学期から、去年一年間の非常勤講師としての経験がきいたのでしょうか、あと二校からお誘いを受け、一校につき四コマ（一コマは九十分授業）、計十二コマを一週間に受けています。出かけるのは四日間、二校は片道二時間、一校は一時間の所にあつて、通勤に非常に時間をとられるのですが、博士課

私の場合、大学卒業後短期間勤めたあと、十五年も家庭にこもっていましたから、大学院で勉強し直しても、結局趣味で終るのではないかと、私自身大いに不安に感じ、指導の先生方も同じ考えのようでしたので、三カ所で教えさせてもらえることは、身にあまる幸運と言っているほどです。

十二コマの授業の準備（なにせ新米ですの

で準備に時間がかかる」と、長い通勤時間と、六人家族の主婦としての家事、プラス自分の研究発表とその準備で、七月二十日近くに三校の夏休み前の全授業を終えた時には、息もたえだえの状態でした。

二三日ボケッとしてから、いよいよ夏休みの計画にとりかかりました。何年も前から、イギリスにもう一度行って劇を見た(私の専門は演劇ですので、鈍ってきた英語の勘をとり戻したい、と考えていました。この数カ月間は、忙しければ忙しいほど、その思いが募ります。

お金の方は五年間にわたって、少しずつためてきました。最大の難関の夫には、だいが前からそれとなく匂わせています。ごく何気なく、「ああ(と溜息をついて)またイギリスに行きたいなあ。こんどの夏休みに行つてようかなあ」と半分独言のように言うのです。彼の返事はいつもきまって、「行きたかったら行つたらいいじゃないか」というものでした。彼を知らない人には非常に理解ある夫と聞えますが、これは「行けるものなら行ってみろ」ということなのです。それを承知の上で、今度はそれを言葉通りに受取った

ふりをすることにしました。

事実、行くなら今年が一番都合がよいのです。来年には長女が中三で受験の年になり、その翌年には二男が中三になります。うちの子供たちは昔から、落ちこぼれで、夏休みから勉強するわけではないけれども、いちおう夏期講習とやらには出席するでしょう。そのため母親が家にいて規則正しい生活を送らせる必要があるからです。そこで思い切つて今年行つてしようと決心しました。

いったん決めたものの、気分はすっきりせず、後ろめたさはつきまといましたが、機械的に足を運んで準備を始めました。安い航空券探し、パスポートの申請など、ツイていたのか思ったよりスムーズに片付いて、七月三十一日には成田を飛立っていました。夢でしかなかったものが、にわかに現実になったのです。決心してから十日未満という、あっけないくらい早い早さで実現してしまいました。高一の長男は、夏休み中アルバイトを引受けたので、私がいてもいなくても規則的な生活させざるを得ないから、あまり心配はない。中二と中一の二人は、ふだんの生活は死なない程度にはやっていけるとしても、クラブの

合宿と林間学校出発日のお弁当が上手に作れるかどうか心配です。これはお隣にお願いすることにして、一番の問題は小学一年の三男です。いつもは学童保育に通っていて、休み中も運営されているのですが、夏休みでもだれずにちゃんとした生活を維持し、毎朝彼を送り出すのは上の子供たちにはまったく無理な注文です。さりとて一日中ほったらかしにしておくのは危険過ぎます。最後の拠所として、私の姉にあずかってくれるよう頼みました。

姉は十年近く昔に離婚し、現在大学と高校に在学中の四人の男の子を、働きながら育てていますので、なるべく迷惑をかけないよう努めています。この時ばかりは特別で、無理やり承知してもらいました。

ロンドンでは、なにせ二十四時間すべて自分の時間ですので、やりたかったことはだいたいすませることができ、二十三日後に帰国しました。その間三回長距離電話をしてあれこれ指示を与えましたが、母親が留守なら留守なりに暮しているようでした。ただ、三男が、家の方がいいと言って姉の家に行っていないのを知った時には、本当に心配でしたが、



何千キロも離れていますから仕方がありますせん。

留守中統率をとっていたのはいつもは下宿人のような夫で、これは意外でした。私は、長男あるいは長女が元締役になるかなと思っていました。夫は家事をやった分だけ、勤めはお休みしようす。帰宅してみても、含めて全員無事だったのは何よりでしたが、一度も掃除をしなかったのも、そのきたなさには仰天しました。綿ぼこりが立たないよう、みな静かに歩いていたという話でしたが、人間はほこりでは死なないという証明になりました。掃除はそんなありさまなのに、台所の棚の鍋やかんがピカピカ光っていたのは、どういった気紛れでしょうか。

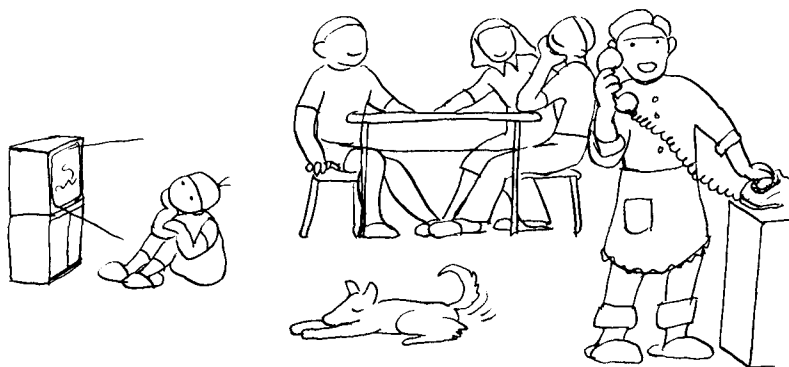
三男は私のいない間、家にこもって大好きなテレビと漫画を見て過していたので、夏の終りには、黒くなるどころか、見る影もない青びょうたんになってしまいました。そのせいですっかり身体が弱くなり、新学期が始まってからずっと、あれやこれやで医者通いが続いています。これが母親が留守をしたツケといえるでしょう。

夫と四人の子供を置いて、三週間以上も専

門の勉強とはいえ外国に出かけるなんて、なんて贅沢で恵まれているとか、と思われると思います。私自身も、数年前、いやつい二年くらい前（私自身の収入が入るようになってから一年半ですが）までは、それが可能だなんて考えられなかったことなのです。

結婚して十七年のうち、はじめの十年間は泣いてばかりいたように思います。夫は結婚する前はいい人に見えたのに、結婚してみると、どんな本にも出てこないようなマザー・コンプレックスの権化。おまけに、彼には年が少し離れた独身の姉が二人もいて、彼らに対するシスター・コンプレックスも加わっています。魂を実家の母と姉たちに占領されているばかりでなく、どういう心理からか、妻を積極的にいじめるのです。それも四人共謀して、妻をいじめるのが無上のたのしみという感じなのです。私のほうも、子供の小児喘息もあつたりして、精神的にまるで追詰められていました。いじめっ子といじめられっ子の関係です。いじめるほうに問題があるのはもちろん、いじめられるほうにも問題はあります。

私が夫とは全く無関係の自分だけの世界を



持つと決めた時から、このいじめられっ子に変化が起きました。いじめっ子の期待通りに傷つかなかったのです。メソメソ泣いたり暗くふさぎ込んでしまうどころか、石を投げられても悪罵されても、涼しい顔をして前と同じ歩調で歩いているというわけです。そこで待伏せしていたいじめっ子は拍子抜けがしてきました。いじめるのが前みたいにしたのしくなくなってきたのです。たとえて言えば、こんな風になるでしょうか。

それにもう一つ、子供たちが成長してきて厳正な裁判官になってきた、ということがあります。家は幸か不幸かひどく狭いところですから、互いの言ったりしたりすることが、家族全員に知られないですむわけにいきません。父親が理不尽なことを言えば子供たちがすぐに反発します。私は子供たちを自分の味方にするべく仕込んだ覚えはなく、私がおかしい時には遠慮なく言ってもらっていいのですが、ともかく、子供たちがもう父親の背を超越するような時期にきて、いじめっ子ぶりを発揮するのが、さすがに気がひけ出したわけです。

この夏、思い切って家を留守にしたことは、

三男の生活が非健康的になったり、洗濯を愛持った娘が、毎晩乾いたものをたたみながら量の多さに泣いたり、といった犠牲はあったものの、夫と私の関係では、たしかに一つの変化の節目になったと思います。少なくとも、彼が私の仕事をいやおうなしでも自分の生活とのつながりの中で認めてきているというあかしになりました。といっても、これを契機に家事を手伝うようになったわけでは決してありません。自分は全然動こうとしないのは以前と同じです。

先週から新学期が始まり、また二人分の体力が要求される生活が開始されました。彼が今回のような特別な場合ばかりでなく、実家に帰った時にその女性たちをやっているように、日常生活の中で、気軽に家事を手伝うようになるまでには、まだ遠いみちのりがあるようです。それまで私の体力が持つか、まだ活躍のできる年齢のうちに実現するかどうか、というところでです。

対話のページ



善法寺保育園の皆さんへ

東京都八王子市 小宅 昌枝

にわたりの件、私はこの保育園の人々の勇気とチームワークに、バンザイ、と言いたい。悪名高き女性週刊誌を筆頭に、今の世の中きれいごとの花ざかり。そして間接的体験の氾濫。これがくせもの。

以前「わいふ」に投稿した時も書いたけど、二十年ぶりに生のサーカスを見に行つてその迫力に驚いた。テレビではしょっちゅう見えても、それはやはり間接的なもの。つまり、私とサーカスの間にはテレビ局やら何やらの思わくや処理がなされていて、サーカスの場合など、絶対にやっている人は失敗しないと

いう深層意識がこちらのほうにある。

十九の時、漁船をチャーターして無人島に行つたことがある。帰る頃は貴重な水には虫の死体が浮び、海水で、シャンプーが役に立たず、全員ボマードをぬったようにベツトリ。

八日目に本土に帰つて、みんなでお風呂に入り、おいしい水を飲んでホッとした。たしかに楽しかったし、良い思い出もなつた。でも、それはとりもなおさず、帰っていただける文明的な生活が待っているからである。水の無い所に何日も暮して、水道からいつでも水の出る今の生活を、ありがたいと思つた。そし

て、楽しい思い出とともに、文化的なものが何もないあの不快感も、忘れてはならないと思つた。

少なくともこの保育園の子供達は、にわたりを通して、家畜をありがたいものだと思つたはずだ。屠殺場へ向かう車を、ここ八王子ではよく見かけるが、それを見て、「ワァーかわいそ」とか言つて肉を食べてる連中よりは、よっぽどまじな感性の持主になることだろう。にわたりを殺した人についても、だれが好んでその役を引受けるだろうか？ 今の人々（もはや子供達だけではない）は、みん

なそういうソンの役割は、自分達の遠い所の人がやっていると思っている。それを身近な人がやれば、むしろその人の気持を思いやるところまでやさしさを深めることができるのではないだろうか？

いつも思うのだけれど、試行錯誤の段階では非難はつきものだというのである。そして、それを乗り越えて真実を知ろうと頑張れる人は、本当のやさしさと強さを持っている人達だと思う。反論の原稿、見せていただいた

がきれいな字で簡潔に書かれた文章。きっとものごとを深く考える人達だと思う。これからも子供達のためにがんばって下さい。
(実は私は「わいふ」の原稿を打っているタイプです。)

——何のために働く——に答える私の理由

東京都杉並区 北川 洋子

五年前から夫婦共稼ぎです。ティーンエージャーの男女各一人の子供達も、将来共稼ぎの結婚生活をもつつもりらしいです。息子のその理由は、働き蜂としてアクセクしないので、自分の好きな勉強の余暇をもちながら、経済的にも、ある程度の余裕ある生活を理想とするから”であり、下の娘は、”何だかよく判んないけど、それ以外の生活が考えつかないから、だそうです。

「わいふ」誌上で、練馬区のH・Yさんから、何のために働くの”と質問を受けまし

た。H・Yさんは、どんな手段で生活の糧を得ていらっしやるのか判りませんが、もし父や夫の稼ぎで食べていらっしやるのなら、この同じ問を、その方に向かってされたことがあるのでしょうか。もし生甲斐のためなら、べつに給料などは要らないと会社に出られたら、多分、あまり面倒なこともなく、要求は通ると思います。もし金のためになら、あなたは彼の生甲斐を踏台にし、その金を搾取することによって、ご自分の生甲斐を全うしていることになりますね。そして、もしあな

たに、成人間近い男の子があつて、その子が給料の良い会社に就職しようか、あるいは家にあつて家事をしながら、生甲斐を追求しようかと迷っていたら、どんなアドバイスをなさるつもりですか。

大体生甲斐と生活を、どうやって二つにぶった切ってしまうのか、私には考えつかないのですが、H・Yさんばかりでなく、その質問を受けることがチョクチョクあります。健康で働きの夫の給料がありながら、妻も働くなんで、そんなに不思議なことなのでは

うか。私はいつも、*「金のためです」*と答えます。資本主義社会でより快適な生活を送るために、私には金が必要なのです。多分あなたの場合と同様に。

私はその金で、夫と生活費を分担します。

その金で、国や区に税金を払います。その金で、私の名前で、困っている人に寄付をします。その金で、習っている油絵の月謝、教材を賄い、わいふ誌代を振りこみます。その金で、一人で展覧会や動物園に行きます。その金で、夫と各自負担で休日にスポーツをします。その金で、ときどき家事を省いて家族と外食をします。その金で、自分の身の回り品を買い、医療費を払います。

あなたの言う生甲斐が、国や地域社会への参加を指すなら、あるいは音楽を聞いたり絵を描いたり、香り豊かな芸術的嗜好を意味するのなら、そしてまたあなたの言う生甲斐とは、夫や子供との触れ合いのことならば、私は確かに、外に出ることで、そのゆとりを以前より多くもち得ました。

でも、私の考える生甲斐とはそんなものではありません。これは、私自身外に出るまで気付かなかったのですが、奥さんという名譽

職を剥ぎとられてみて、自分一人の孤独をしっかりと胸にかかえること、自分の無力さを真正面から見据えて精進すること、これが働く私の生甲斐です。

女一人立っている足場の何ともろく険しいことでしょう。そのもろさが自分自身の無能、未熟さからくる時、私は先輩を頼りに努力し、またすでに取返しのない場合は、せめて愛する若い後輩だけは同じ轍をふまないようにと注意します。また働く条件の苦しさ、単に自分の無力からばかりでなく、男女の差別や社会の常識の圧迫からくる場合は——これがまたとても多いのですが——そのおりごと可能な限り、真摯にとり組んで戦おうとしています。

その点、大部分を夫の働きに頼って生活しているからこそ言いたいことが言えるのだと、独身の女性に笑われることがあります。でも、弱みにつけこまれて身動きのとれない男性や、独身女性の代りにその分まで戦うこと、これが私の使命であり生甲斐でなくてはなりません。うか。たいていの場合、それは螳螂の斧に終りますが、そんな時のがんばりを、私は何年か先に働こうとしている娘への、母としての

愛情だと思っています。そして実際にたくさん女性のくやし涙が、少しずつ少しずつ女性全体の地位をあげていることにあなたは気付かれませんか。

自分の本当にやりたいことならいいですが、とH・Yさんはおっしゃる。でもあなたも六年以上職場にいらつしゃった経験がおりなのだから、きつとお判りになるでしょう。職場のだれが本当にやり甲斐のある仕事をしていたか、思い出してみて下さい。たくさんのはいい仕事とはいえないでしょうが、人をあごで使つてとりとめもない会議に時間を潰すのも、あまりやり甲斐のある仕事とは思えません。男達も含めて皆耐えているのです。耐えることと働くことは同意語かとも思われません。

たまたま私の仕事先が福祉関係なのでよく、でもあなたはいいいお仕事だから、といわれます。私は慌てて、*「その使い走りです」*とつけ加えなくてはなりません。*「コピー取り、帳簿づけ、お使い」*そんなものが私の仕事の中身です。私がやめれば一時間後には誰かが私の後金に座っているでしょう。だから

私は頑張るのです。やめたくなければいつでもやめられる。だからこそ仕事の砂漠にじょうろで水を撒き続けようとする、これが私の社会に対する愛する人々へのそして私自身への誠実のあかしであり生甲斐です。

しかしこの答を、家庭にある女性への非難ととっていただいては困ります。今の社会では、女が外に出ては男が働けない仕組になっていて、家庭の主婦が非常に重要な役割を果たしている場面が多すぎます。私も多分老人が寝たきりになったりしたら、職場を去ることになるのかと思います。でも家庭に在る女性達も、その状態がごく少数の人を除いて、自分の選択の結果ではなく、社会におしつけられたわくなのだというだけでは忘れないで下さい。手作りのナプキンも、ホームメイドのクッキーも、それはそれで素晴らしいけれど、女性だけにおしつけられた家事は、経済界を男だけで牛耳るための企みの結果であることだけは忘れないで、外に出て行ける婦人達が、そのためにこそ戦っているのだと共感して下さい。生甲斐のために、自分は職場を放棄しているのだなどと、錯覚しないでほしいのです。

ハイヒールをはいて動きに出る婦人ばかりにでなく、カアちゃん農業などと煽てられて、苛酷な労働を強いられている女性、赤ん坊を背負いながらカウンターに立つ商店の奥さん、どれも働く女性です。

H・Yさん、あなたの問いかけを彼女達に向かってする勇気がありますか。これを書きながら、私はやはり足腰がしっかりしている間は働きつづけたいなあ、と心に強く思うのです。



優生保護法改正に思う

東京都目黒区 木村 道子

この文字を読んだ時、私は単純に「反対」だと思いました。とても産んで育てられる現状ではないのに中絶ができなくなるなんて、とても恐ろしいことだと思いました。

けれど今、新聞や雑誌類で読む限りの反対論は、あまりにもお手軽に、ハンターイ・と叫んでいるように思えてなりません。いつか路上で署名をしたことが、いつも心にひっかかるようになってきました。デパートで品選びをするように「必要か、不要か」と悩み、そのあげく、ヤッパリ イラナイ・式の選択法のように思われてなりませんでした。

そんな折、「わいふ」一七八号の「宗教は政治の召使いか」で述べられた田中喜美子氏の文中に「優生保護法改正に反対する女性グループは、女の産む性が、明治以来つねに国家管理の対象となったことを弾劾し、産むか産まぬかを決めるのは女の自由意志にのみよ

るもの、と主張する」と書かれてあるのを見た時、何か心の中で「反対します」と言切れなかったモヤモヤした気持ちが解けたように思いました。

そうだったのです。私は、自由意志が尊重されるのは良いことに違いはないけれど、あまりにも安易に、「間違えたから消します」という自由意志の人達とは違う立場で「反対」をとえたかったのです。

子供の一生が個人だけで負えるものではないことは、皆理解できていても、胎児にまでその考えが及ばないというところが問題なのだと思うのです。人情論や精神論だけでは解決できない問題だと思うのです。

日常生活の中で、どれ一つとっても社会との係りのないことはないように、この「産む産まぬ」もまた例外ではないことだと思えます。それは国家で管理されるということでは

なく、母性の利用ではなく、保護されるべきだということだと思えます。他にもいろいろ複雑な問題は、あるとしても、私は、この視点から優生保護法改正反対を訴えたいと思います。



おしゃべり



地域で子育てを考える

埼玉県人間市 土子 史子（46歳）

それは、春休みの出来事でした。肌寒いある日、わが家から少し離れたところに住む、カギツ子のA君が、「おばさん、ストーブが消えなくなっちゃったの」と青い顔をしてかけ込んできました。急いでかけつけてみると、黒い煙がもうもうとしていたが、ちょっとした操作ミスだったので、すぐ消すことができました。年に似合わず立派なお礼は言っただけ、なぜ、A君は隣近所に助けを求めなかったのでしょうか。

後日、母親と歩いているA君に出会い、先

日のことを思い出して笑顔で近づいていく私に、A君は不自然に目をそらすのです。その態度で、あの日のことは母親に話してないのだ、と気付きました。そこで私も、A君に合せて素知らぬ振りですれ違ったのですが、とても淋しい気持がしました。いったい、今度はどこに助けを求めにくのでしょうか。

小さな子どもを持つ母親が働きに出る大変さは、同性としてよくわかるし、隣近所に迷惑をかけないように気を使うこともわかるのですが、母親が働きに出ている、いないに係なく、地域で子どもを育てている役割は大きいのです。

いま、わいふの読者のなかにも、子どもに手がかからなくなったから働きに出たい、と

考えている人が大勢いるようですが、子どもは何歳になったら目を離していいという目安はありません。特に、他人との関り合いのなかで成長していく小、中学生時代は、母親も父親も、地域のなかでの出来事に無関心でいてはいけないと思うのです。

私の地域でも、小学生、中学生の非行化を防ぐため、子ども会の育成には力を入れていますが、この子ども会というのも難物で、赤ちゃんがいったり、寝たきり老人がいったりで、役員になれない人には寛大ですが、働きに出ているために役員になれないというと、まわりから冷たい目をむけられ、「では、家の子はお会させません」と意固地になるお母さんもあり、いったい誰のための子ども会なの

か、冷たい目をむける人も、意固地になるお母さんも、同性として情けなくなりませう。

特に、働きに出ているお母さんは、いろいろな面で、子どもは犠牲になっているのですから、物を買いはり与える愛情でなく、隣近所に進んで頭を下げる愛情を示してほしいものです。地域のなかで、自分の子どもがすごしやすい環境にいられるのも、お母さんの人柄だと思ふのです。

私の東京

東京都杉並区 山本 雅美

女、二十八歳、結婚一回。本年、四月二十九日、九年來の夢、東京へやってきました。そして墓場とするつもりです。

昨年六月に決心してから、不安と期待の落差激しく、期待が勝った夜には、興奮のためねつかれず、不安がおそろ日には、悪夢にうなされ、激しい時には、一時間おきくらいに両者入れかわり、心の安まる時はなかった気がします。

そして今、「出てきてよかった」

WELCOME TO TOKYO



そもその始まりは、大学受験時。東京の大学の受験手続きもすませた頃、母の心臓発作による入院。当時、家には兄弟三人の内、私しかおらず、運命をのろうも、親を捨切れず、

断腸の思いで断念。地元岡山大学に進み、そのまま、小学校教員となりました。そして四年。その間、生きがいを感じ、一生けん命やるも、心のどこかに、スースーすきま風。未練に泣いたことは、数しれませんが、さりとて、もはや、東京に出てくる元氣も自信もなし。そして昨年五月、見合結婚。

それと並行して、偶然のことから、理想の人めぐりあい、修羅場となり、結局、四十日で、婚家を飛び出しました。

主人は、非常に真面目で、穏やかな人で、その上、二度目の結婚でしたので、私は非常に苦しみました。だがしかし、主人の私に対する評価は、「明るく、やさしく、行動的」程度だったのに対し、彼の方は、私の「元氣の良さ」を認めてくれた、私の人生唯一一人の人だったのです。

「自分をわかってもらえろ」喜びほど、自信につながるものはありません。私は、今まで知らず知らず押えていたものが、一度に吹出して、変わってしまったのです。そして最後のほうは、「主人を裏切れない」気持と「人生、一度しかない」思いとの葛藤で、ノイローゼ寸前までいきました。

そして結局、自分の人生捨切れず、婚家を出たのです。「あなたを不幸にした以上、私も、畳の上で死ぬつもりはありません」と。

さりとて、彼の方も、彼女との結婚がきまつていて、そちらに行くつもりありませんでした。

でも、彼のおかげで得た自信は、見事に私の中で生き残り、すべてを捨てて、東京で勝負しようと思ったのです。決めたものの、職業の性格上、途中やめは気持が許さず、三月までは、勤めようと決意しましたが、それからのつらかったことは、前に書いたとおりです。

そんな九月頃、またもや、母の病気が非常に良くないことがわかり、この時は、あまりの運命の皮肉に、二日間寝こんでしまいました。それから、三月まではゆれにゆれ、苦しんだ末の結論は、「私は、母と一緒に死ぬるわけではない」でした。父もいるし、姉も近くに嫁いでいたので、心から気持を話すとわかってもらえました。

そして、上京後六カ月。その間、アメリカ旅行、母の看病のため一カ月帰省、二度の失業、初めての質屋通いと、目まぐるしい日々

送っています。誰でもない、自分という一点から、池に投げた小石のごとく広がる人間の渦に、この上ない喜びを感じています。

そして、捨てるものがない身の、強さ、気持よき。貯金二百万ほどは、結婚、離婚、上京、旅行で、あっという間に消え、公務員という保証も、結婚も捨て、これ以上失うものは何一つありません。

これから先、どんな人生になるか、予測つきませんが、女性問題に、何らかの形で、一生関わりたいと思っています。

東京の先輩たち、よろしく。

ラブレター？

神奈川県川崎市 久保田房子

小学六年生の息子が、母親の私と同じ位の背丈（一メートル六十二センチ）になり、足（二十四センチ）も私以上、ちょっと男っぽくなってきた息子を感じていた矢先、夕食の

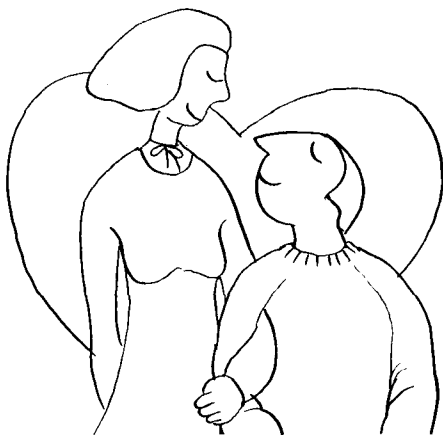
後にこにこして、「お母さん、いいものを見せてあげようか」と言って、可愛らしい封筒を差出しました。見ると同級生の女子から、夏

休みに海外旅行に行った時のおみやげなるハンカチに手紙が添えて入っていました。息子にとって初めてのラブレター？で、弟（小学五年）に羨ましがられ、本人も嬉しそうでしたが、手紙を見た母親の私自身、ああ息子もそんな年頃になってきたのか、という感懐と、何ともいえぬ暖かい喜びを感じました。

手紙の中に河野進の『友情』という詩の一篇が添えてありましたが、最後の一節の、友情は言葉でなく、心だから、というように、まだまだ可愛らしいお友達に失礼にならぬよう、これからも、お互いの心を大切に、明るく、のびやかに成長して行って欲しいと思います。遠くなった自分の青春を思い出し、これから先も、息子達と気楽に恋の話ができる母親でありたいと願う一方、中学・高校・大学と沢山の恋をしていくであろう息子達が、少しずつ親離れしていく淋しさを思う中で、世界のどこかで戦争のあることに心を痛め、平和な日本が続いて欲しいと思うこの頃です。

アニー・ホール・ルック

東京都府中市 赤井久美子



アメリカで流行したものは、ほとんど遅かれ早かれ日本でも流行する。ジーンズ、ジョギング、ウォークマン……ところが、五・六年前からアメリカで流行しているらしいのに、一向にわが日本では流行しないものがあるのである。それは、アニー・ホール・ルックとよばれる、つまりは、ノミのカップルである。なぜ私がこのことにこだわるかといえはそう、私達夫婦は、身長差、じつに七センチの堂々たる、ノミの夫婦、だからなのである。

五・六年前、新聞で、「ノミのカップル、アメリカでちょっとした流行」の記事をみつけた時、私は一人ニンマリとした。その記事によれば、映画「アニー・ホール」の主人公は自分より背の高い女性と恋におちるが、米国では、小柄の男性とノッポの女性のカップルが「アニー・ホール・カップル」とよばれて、一種の流行になっている。実際、ダスティン・ホフマンの奥さんは、六センチも高いし、ヘンリー・キッシンジャーや、アーサー・シュレジンガーなど、この「ルック」の先輩は少なくない、とのことであった。

行の最先端をいくカップルになるなんぞ、なんと心楽しきことではないか……ところがところがある。それ以来、時節の到来を、今か今かと待ち続けているというのに、未だにその気配がないのである。わが日本では、まだまだ流行しないのであろうか……その記事には、今や男女とも自分の個性を大事にして、あるがままのフィートで立つ時代になったというわけだろう、とあったのだが……。

（その記事ですか？ もちろん、大事に大事にスクラップしてあるのです）

「出演者の裏側」
——ラジオ・モニターを終えて——

埼玉県北足立郡 小川 由里

さっき、最後のモニター報告を書きあげた。ひとつ肩のあたりが軽くなった。これで終わったという安堵の気持と、一年間ってすぐだなあというちょっと惜しい思いもある。

安堵感の中には、これであの複雑なためらいから解放された、という気持が混ざっている。

モニター報告を書きながら、私は何度かペンを置き、考えてしまうことがあった。私のやっていたのは、ある民放局のラジオ部門モニターである。局から指定された番組について、もろもろの意見や感想、その他を書く仕事である。

聴いて楽しい、面白い、愉快だ、よかったとかの場合は、耳から広がるイメージをありのまま書けばいいから、すらすらペンが動く。つかえつかえになるのは、いやーな出演者とかが、ついていけないような闇雲に騒々しい番組に当たった時である。

当然、誉めたり、感心したりする類の言葉は使えない。悪口めいた批判を頭の中でまとめ、書こうとしてハッとする。このタレントやアナウンサーにも家族がある。生活がある。まさかとは思いますが、私の手きびしく書いたばかりに番組をおろされたりしないだろうか。私はしばらくお茶をのんだり、溜息をついたりして、一枚のレポート用紙の及ぶ影響にあれこれ思いをめぐらせ、悩む。しかるのち「しかし、私はモニターなのだ。これは愛のムチなのだ。局からも、あなた自身の正直な感想を書くように」と指示されているのではな

いか」と、感じたまま書くことになるのである。組上の鯉の裏側に目を向けたら、モニターはつとまらないのだ。

機関とか公共体とかのカタマリをあこれ言うのは、気が楽だが、個人についての感想は、非常に書辛かった。

出演者の裏側とモニター意識とのジレンマに悩みつづ、その割には書きたいこと書いて（許せ、〇〇〇名前前）と心の中であやまつた私のラジオモニター一年間でありました。

神沢利子作

「おなべ」をおなべを読んで

神奈川県川崎市 野村 純子

まさにこのおなべのばあさんのような私の母が、息子に買ってくれた本です。本人は気付いていないようですが、私は、だから読むたびに、母のイメージをこのおなべにかぶせてしまっています。普通の女でいることに満足しないで、いろんなことに次々にトライするフアイターです。

「人のごちそうを作ってばかりいるなんて

もういやだ。これからは私がおいしい物をい

っぱい食べるのだ」と台所を出て行くおなべ、食べても食べてもそのたびに大きくなって、

やっぱりはらべこ、おなべは本当にしまいにどうなるのだらうと思うと、地球にとどまらず、無限の宇宙に飛び出し、答は宇宙時代を生きた子供達にまでおあずけ。いとも簡単に出会った動物達を食べてしまうので、子供は目を丸くしてしまっています。

そのブラックなところはマザーグースと相通じ、やっぱり作者がマザーだからかなと思ったり、童話としてしまうにはおもしろいような、子供に読んでやる母親の胸にするどくつきさる童話です。

「さだまさし 旅のさなかに」 を読んだ

東京都八王子市 松本 裕子

「前回の「さだまさし 時のほとり」に次いで、さだまさしの詩とエッセイに写真をつけて伝える自選詩集」との解説がある。

私は二十九歳で八歳と五歳の男の子がいて

コンサートなど行ったことはない。レコードももちろん買わない。ラジオで聞くくらいで、それ以外彼の歌は聞いたことはない。しかし、そういう視点を離れて「詩」として充分たえるものだと思うし、その詩に添えられているエッセイは、彼のその「詩」がどういところから生れてきたかを知り手がかりとして、また彼の人生の生きざまを知るものとして、たいへんおもしろい。

人気歌手のその手の本というより、心がうつろな時、私はパラパラとこの本をめくる。私の唯一のスペース——台所のひとすみ——にこの本はある。

「ああ あたりまえに生きたい ささやかでいいから ああ 前のめりに生きたい ひたすら生きてゆきたい」 生生流転
「人の心移ろい易く その傷癒え難く 立ち止まって うろたえるは 愛と同じ重さの悲しみ」 鳥辺野

年をへるたびに失ってきた熱い思いがこの本にある。映画「長江」についてもかなりのページをさいてふれている。

ひとすじの糸

東京都世田谷区 大辺 理衣



幼い時からみそっかすの私でした。チビでやせっぱちで、体力的には同年配の子達よりも劣っていたのです。その反面、勝気であそびなどで負けると口惜し涙にくれました。

そんな私が、物語や小説の世界に没頭したのは、当然のなりゆきだったのでしょうか。少年倶楽部、少女倶楽部、世界少年少女物語などをむさぼり読みました。本をたくさん持っている友人と仲良くなり、その子の家にいりびたって本を読んだものです。女学校に入ると、その熱はますます燃えあがりました。

戦時中、戦後の混乱期にも、われ関せずと、たった一人で小説の世界に身をあそばせていたのです。なぜか、わが家の押入の中に、本がぎっしりつまった茶箱がありました。それを見つけた時のよろこびは、たとえようがありませんでした。「大地」三部作を読んだ時の感動はいまだに忘れません。

エミール・ゾラの「呪われた抱擁」という小説は、伏字だらけの頁がいたるところにありました。少女期の私は、その××××と伏字の場所にくると、胸がときめき、頬がほてるのでした。見てはならぬ男女の秘密を垣間見た思いにかられたのでしょうか。後年、「嘆

きのテレビズ」という映画を見て、それが同じストーリーなのにびっくりしたものでした。

九條武子の「無憂華」、啄木の「二握の砂」、吉川英治の「親鸞」なども好きな本でした。

なんといっても庄巻は、林芙美子の「放浪記」でした。私はこの小説のとりこになりました。いつの日か、自分もこのような素晴らしい小説を書くことに決めたのです。

社会人になり、世の中のきびしさに直面し、ものを書くということが、生易しいものではないと理解したのです。「詩を書くよりも田をたがやせ」誰の言葉でしたか忘れましたが、幻の自分の世界を築くよりは、現実に生きていかねばならぬ自分の糧をかせぐのが、先決問題でした。

結婚しました。一時の甘い時が過ぎると、ほろ苦い時が訪れました。その後に続く長い長い退屈の日々。子供の成長の楽しみも、成人式がきて終りを告げました。

これから何を目的にして生きてゆかねばならないのだろうと考えると、私はがくぜんとなりました。

暗中模索の中でめぐり合ったのが、「わいふ」でした。まったくの素人、そして主婦の

ための投稿誌です。私の求めていたもの、そのものだったのです。

書いてみよう、長い間胸の中でもややもやもやしていたものが烈しくゆさぶられました。今まで何をやって一人前でなかったみそっかすの私でした。

ただ、神は、こんな私を哀れにおぼしめしてか、書く楽しさとよろこびを与えてくれました。小学生の時から一番好きな学課は「綴方」でした。

幼い時からの楽しみを、少女の頃夢見たものを書くことを、実現してみようと思ったのです。技術的には未熟でもいいのです、玄人の目から見たら、子供の作品にも等しいでしょう。でも、心の底からはとばしるものを書いてみたいと願っています。季節の移り変りに感じたこと、人生の哀歓に触れた時、人情のやさしさに心を打たれた折に……。

くもの糸にすがって、極楽浄土にたどりつこうとした、極悪人カンダタのように、私もこの一本の細い糸（ものを書く）にすがって生きてみようかと決めたのです。

苦しい精進が求められるでしょう。カンダタのように他を思いやらぬ貧しい心になった

時に、ひとすじの糸はふつりと切れることは必定かと思っています。

新築の外観で迷いました

東京都渋谷区 山根いく子

この間はせっかくお時間を作って下さいましたのに、たいへん遅れてしまい、ゆっくりに話できなくてほんとに残念でした。それもこれも私のドジで、口惜しいやら情ないやらすっかりしょうやない白いお家になっていて、ホント、見分けがつかなくて、二度も前を通りすぎてしまったわけです。

でも今度の編集部、本格的な洋風建築で気に入りました。プレハブも進歩したんですね。とくに大工さんにお茶を出す手間が省けるというのはいいですね。プレハブがみなそんなのか、三井ホームだけなのか知りませんが、そんなところにもプレハブが伸びて行く秘密があるような気がします。

広くなった空間で、さぞお仕事がかどることと思います。一七九号のしつけ特集、すごく興味があるので首を長くしています。ガンばって下さい。

息子語録にみる「男と女」

東京都杉並区 辻 裕美子

女は女につくられる——と、ある女史はいいましたが、幼い時から少しずつ女は、女に、男は、男になっていくのですね。男の子の母親となって五年。息子の小さなつぶきから、その変化を拾ってみると……。

入浴中、「あ、おかあちゃん、チンチンないよ」と、驚きの声をあげたのが二歳三カ月。いろいろ考えていたのでしょうか。数カ月後、「おかあちゃん、チンチン、中、入ってんの」と納得。「女っていいなあ、ズボンとスカートはけるもん」とうらやましがりました。三歳になって、夕方のテレビニュースのチャネルを変えた時のことです。ニュースキヤスターの組合せの違いに、「こっちの方がいいよ。男と女だもん。あつちが女と女じゃないか」男と女じゃないといけないんだ。だつてずるいよ、それじゃ」数の上からの平等を主張。

ある夜、楽しみに歌い出しました。

「あゝ、ワタッシーのコオイは」

「ねえ、こいつて知ってる？ 男が女にね、こいこいつて言うんだよ。それで女が男にこないよっていうことなんだよ」

男にはつきりノンという女とは、さすがわが子、と喜んだのも束の間、四歳。金切り声で命令する私に、「このお、いばる気かあ、おんなあ。男が女にいばるんだよ」

自称が僕になったのはこの頃です。「ボクって男の子がいうんだよ。お母さんはワタシって言わないといけないんだ。オレは強い男の人がいうこと。ワシ？ ワシはね、こわい男の人がいうんだよ」よく観察しているものです。

天の羽衣のお話のくだりでは言ったものです。「天女は羽衣を取られて泣いていました」と語る私に、すかさず「じゃ、悪い女に変身すればよかったのに」

女は男にいばられて泣いてばかりでないことを御存知。

五歳の誕生日を目前にして、やっと男女共存に気づいたか、コマーシャルよろしく叫びました。



「男は女を大切にしよう！」

誕生日すぎると、ケッコンなどと難しい言葉を覚えて、声を張りあげ歌いました。

「太郎さんと花子さんは結婚できるでしょお



ったかも知れません。

「がらにもない」ということは、意味深いものがあるのでしょう。

思いつくまま一息に書きました。よみにくい点はお許し下さい。

おちこぼれ女

匿名

十カ月間のオーナーの座をおろされ、代って、夫の妹が男三人女二人を率いていくことになった時、心の底でホッとしたものの、は

たして私にできなかったことが彼女にできるだろうか、と懸念した。がオープンして三日目四日目と、毎日何かにかの用があつてのぞきに行くたびに、何と私が采配をふるつていた頃より何倍も流行り出しそうな気配。夫がぞっこんほれこんでいる妹だけあつて、流石と舌を巻き、己の不甲斐なさ、無能さを痛いほど感じ、いたたまれなくなつた。

夫について私は何を学んできたのだろう。夫の手から離れて一人立ちどころか、手を離されたとたんこのさまでは、夫の片腕どころかおじゃま虫みたいなものだったと考える。家庭的でもなし、母性愛に満ちてもいず、職業婦人としても無能に近く、セックスアピールも皆無で、私は本当に何だろう。

あれほど欲しかった専業主婦の座を与えられても嬉しくなくなつた。自分の無能さをこれほどまざまざと知らされて落ちこまず、しつかと片手で何かにぶら下がっているのは正直苦しい。無能さに追いうちをかけるのかのごとく、女のおちこぼれだとも知らされること、次々と出てくる。

あの男、私の告白をものともせず、さらりとかわし、「貴方は今非常に不安定な状態だ

から、誰かにすがりつきたいんじゃないの」「貴方は不思議なほどセックスアピールのない人だと思う。男が不とき心を出せないような女だね。すてきなことだと思うよ。ムンムンした感じの女って多いけど、貴方そんな感じまったくないのね」

要するに、女としてみる事ができないから下手な告白は野暮だと体よくふられたわけ。若いピチピチギヤルの告白か、もしくは女房よりぐつと色香のある女ならばいざ知らず、容色、能力、頭脳すべて女房より劣る女が髪ふり乱し、化粧ははげて、しかも四十ン歳でちっとも魅力のない女がせまつたって、アホかいな、と一笑されるだけなのに、なぜに私は告白したのかと電車の中で悔んだ。私が告白している間、男は菌に楊枝を入れて、ブザマな体をわざとさらけ出していたのを、帰ってきてから気づいた。

友達にそのことをデソワで話し大声で笑い合ったら、何だか今までのモヤモヤが幾分とれてまた頑張ろうという気持が起きてきた。

そう、おちこぼれ女にもそれなりの生き方が待っているはずだから……。必死で探せば何かみつかるだろうから――。

空しい抵抗？

東京都練馬区 十河 温子

子供が生まれたらぜひ実行したかったしつづがいくつかあって、その一つにテレビのことがある。最初は絶対に見せない方針で、夫も私もほとんど見ることがないので、テレビとは縁のない生活をして満足をしていた。

ところが長男が三歳半を過ぎた頃から知恵がついてきて、チラッと見えたテレビのマンガに目が止まり、それ以来すっかりテレビの魔力に取付かれてしまった。そこで実生活では知り得ない世界を知るためや、私達にもある幼い頃熱中したマンガの楽しさを味わうために、番組をよく選び時間も決めて見せるようにした。そこまでならいいのだが、次は見てほしくない番組を猛烈に見たがるということになってきた。一番恐れていたことだった。

あまりのしつこさに、親子ゲンカで泣きわめかしておくよりも、三十分でも見せて、満足させてスイッチを切るというやり方の方が、子供の精神衛生上いいのではないか、という

考えになってしまった。

どんな番組かという、今はやりの合体物である。争いの場面ばかりで、破壊が続いたり、目をそむけたくなるような怪物がでてきたり、「ドカーン」「バキューン」「やっつけろ」「発進」「やられたー」とことばといえない音が耳にさわる。中には、適当に愛とロマンを盛り込んで、大人でも面白く感じる作品もあるが、ともに地球平和のためとの名目で、戦争を美化してしまっている。

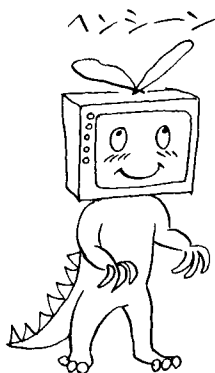
戦争を憎み、平和を愛し、いい音楽とお話を聞かせ、情緒豊かな自由な子供に育って欲しいと願っているのに、当の本人は、朝起き抜け早々「合体だ」「それゆけ」「やったゾ」「バキューンバキューン」のワンパターン。そんなふうによられては、子供の趣味は親の意志ではどうにもならぬと感じてしまう。夫は「これからは機械文明の時代だから、小さいうちから機械に慣らしておく方がいい」などという変な理屈をつけて、見ることを肯定している。

男の子が好戦的なのは、どうやら生れ持った本能のように思える。いくら禁止したって、止められないのだから、好きにさせておくし

かない。

テレビを見るようになってから、合体物こ、変身ごっここの好きな友達と、以前にも増して親しくなり、一緒に遊ぶことの楽しさを覚えたようだ。家の中で字や数字のお勉強をするよりか、活動的で友達との協調性を学ぶこともあるであろう。今のうちにいやというほど親に反抗し続け、たっぷり戦争ごっこをしていたら、思春期になって突然あばれ出すこともなからう、と期待している。

今回何よりも私自身が学んだことは、がんこなも時には必要なことだけれども、流れに棹さしてばかりいると、心身ともにくたびはてて損をしてしまう。嫌でもそれはそういう時代なんだ、と時代に流されることを覚えたことであつた。



イラスト・松本をきえ

投稿規定

定期購読者はどなたでも投稿できます。
(定期購読申込は直接編集部へ)

チャター・ボックス

●職場レポート(四千字まで)
あなたの職業体験や、職場でのトラブルなど、具体的に切実なレポートを求めます。

●随筆(千六百字まで)

●親ばかチャンリン(千二百字まで)
子どもにまつわる苦しみ、楽しみ、悩み、ユニークな体験などをお寄せ下さい。

●エコー(千二百字まで)

わいふ誌上の投稿、記事などに関する反論、感想、批判など。

●私の視点(千二百字まで)

問題提起、意見、なんでも自由に。体験的実感のあるものを歓迎します。
●おしゃべり(八百字まで)
おたより其の他、気楽なおしゃべり

のページ。おたよりをそのままのせさせていただくことがありますので、掲載をご希望でない場合は必ず「私信」と明記してください。

情報コーナー(二百字まで)

あげます、貸します、こんなこといっしょにしませんかなど、何でもお知らせ欄。扱っていらっしゃる商品やおしごととは「私のPR」として一括します。

サークルだより(八百字まで)

サークルでの集会・その他のニュースなどを寄せて下さい。原稿用紙にまとめてお願いします。

●以上の欄にお寄せ下さった投稿は、原則としてすべて掲載いたします。

テーマ原稿

テーマ原稿募集欄をお読み下さい。

持ちこみ原稿 長さ自由

旅行記、詩、小説など、何でも。

わたしの生活誌

「わいふ」の読者は全国各地にちらばっています。郷土色に溢れた珍しい話や、画一的な核家庭の暮しとはちがうユニークな日常を送っていらっしゃる方、どうか興味深いレポートを送って下さい。

●以上三点の原稿は編集部で協議の上、えらばせていただきます。採用分にはいずれも薄謝をさし上げます。

わたしの一冊

これまでの書評欄でなく、この一冊こそ絶対にみんなに読んでもらいたい、という一冊を、ご紹介下さい。編集部一同で回し読みした上、ほんとうにすばらしいと思ったものに限り掲載します。新刊書でなくともかまいません。

テーマ原稿募集

●一八一号のテーマは「PTA・その苦しみと楽しみ」(仮題)にきまりました。

子どもを生んだ女が家庭に入ってしまったことの多い日本では、子育て後の冬ごもりの後、そろそろと穴からはい出して広い世界に目を向けてみる——そんなチャンスを母親に与えてくれるのがこの「PTA」ではないでしょうか。

うるさいお姑さんの目が光っている家庭といえども、わが子のため、という大義名分のつくお嫁さんの「PTA」通いをとめるすべはありません。

そんなこんなで、大半の人が経験するPTAではありますが、ある人にとってはそれはやりきれない苦役、他の人にとっては社交場、他の人には学校教育に疑問を抱ききっかけになる場と、これほどひとさまさまの経験をす

る場というのも珍しいのです。

●あなたにとって、PTAとは何でしたか。

PTA無用論などというものさえとなえられる昨今ですが、意外に多くの女たちが、多くの体験をPTAから得ているのではないかと、それを探ってみたいと思います。

こんなによいものを得た、というかた、いやとんでもないヒドイ目にあつた、というかた、いろいろあると思います。どうか面白い体験をそのままお寄せください。

●内輪話になりますが、何をかくそう現在の「わいふ」編集部誕生のきっかけもPTA。PTAがなかったら、今日の「わいふ」もなかったらうと考えると感無量です。

どうか力作をお寄せください。

四百字づつ原稿用紙十五枚〜三十枚

締切 一月三十日

お友達に(わいふ)をおすすめ下さい

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さるごとに、誌代プラス送料とも一回延長。

(六人ご紹介下されば、翌年の誌代・送料とも無料になります)

△わいふ▽年間分をプレゼントにお使い下さい

●ご結婚のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。

お申込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

編集だより

●「母親はどんなとき子どもを叱っているか」に各サークルの方から寄せられたレポート、予想以上に枚数が多く、全部を掲載できなかったのが残念。お忙しい中をレポートをお寄せ下さった皆さま、ほんとに有難うございました。レポートは全部、貴重な資料として編集部保管してありますので、興味のあるかたは御一報下さい。実費でお送りいたします。

●毎日新聞誌上の「フルタイムで働くべきか、パートでよいか」の論争に関して、読者の方々から投稿をいただきましたが、毎日を購入していらっしやらない方には内容がつかめない恐れがありますので今回は割愛させていただきます。この問題は来年度の「わいふ」で、「わいふ誌上論争」としてバッチリ取り上げるつもりですのでご期待下さい。

●一七八号五九頁上段、妊娠八週間→は十週間の誤りでした。訂正しておわび致します。

●今回で一九八二年は最終号。来年からのスタートに備えていろいろ企画を練っています。が、まずは投稿規定にいくつかわりがありますのでぜひご一読下さい。とくに職業現場か

らの声は「わいふ」が今後力を入れて行きたい分野ですので、どうかふるってご投稿下さい。

●一六頁に「電話料金についてのアンケート」のその一が掲載されています。今回だけでなく、資料を揃えて、いざ値上げ、のときの申す武器にしたいと思うのです。あなたの声をお寄せください。

●ユニークな実践記録「子どもが主人公」(八〇頁参照)、近所で手に入らない方は編集部へ直接ご注文下さい。送料サービスでお送りいたします。

●筑摩書房から十月末発売された「女の生きる職業」第三巻「再就職」、わいふ同人が総まくりで書いているからいうわけではありませんが、この手のものでは大変充実した、親切なよい本です。とくに柳本綸子さんはじめ投稿者のレポートは、まとめて読んでみると実に迫力があり、まさに圧巻。「わいふ」の価値を改めて認識した次第です。再就職を夢みていられる方にはぜひおすすめしたいと思います。

●今年もあつという間に終わってしまいました。皆さまよいお年をお迎え下さい。来年に備えて編集部一同、頑張るつもりです。ではまた。

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。

すぐ本に振替用紙をそえてお送りします。で、折返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。二冊以上まとめますと送料が半額以下になります。

わいふ

179号

1983年1月1日発行
印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共 3600円)

発行所・(株)グループわいふ

編集・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4 162

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座 三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

□購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れても引き続き送本しています。お申出がないと、お送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

沙文社

東京都文京区本郷1-26
TEL. 03-815-8421

父親の自立と子育て

●子どもにとって父親ってなんだ！

木村 栄 著

1200円

絶賛発売中!!

家庭内暴力、登校拒否、そして異常な母子密着……。その背景に横たわる父親の「不在」と「喪失」状況。いまこうした子どもと家庭の危機をのりこえるには、何が必要なのか。いったい父親は、家庭のなかでいかなる役割を果たし、子どもにどうかわるべきか。男の、親としての自立をとおして新しい子育て像・家庭像を提起する待望の書。

母性をひらく ●6刷

木村 栄 著

子育てや共働きのなかで、女が人間として自立するとは？ 母性のありようをとおして見つけた女の生きかたの書。好評のロングセラー！
1200円

●女子学生のための 発売！

あなたを就職ハンドブック

来栖 琴子 著

狭き門に挑む女子学生の姿、就職のための技術と考え方、各職場からのレポート、女の仕事と自立への展望、等をまとめた就職への手引
1200円

家の光の本

大地の女たち

向井 承子 著

●定価 1100円



向井 承子

北海道で大地を切り拓く、ゆき。山形で有機農業に燃える、美恵。大地にしっかりと根を張って生きる二人の農婦の人間像を浮き彫りにした感動のルポルタージュ。読売をはじめ、各紙誌書評で絶賛！

テレビ症候群

THE TV SYNDROME

K・ムーディ 著 / 市川孝一 監訳

●定価 1500円

脳波が変化し、眼球運動がマヒし、そして……テレビを長時間見続けることは、子供たちに一体いかなる影響を与えるのか。そして子供たちはブラウン管の前で、どんな人間に成長してゆくのか。本書は総合的に事実を分析しながら、家庭、学校、社会での対策を提示。

家の光協会

〒162 東京都新宿区市谷船河原町11
電話 03(260)3151

Be a get-out.....

あなた自身への美しきチャレンジ



肩の力 抜いて.....

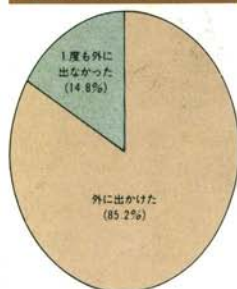
働きに出る——というありふれたことを母親であればこそでしょうが、ことさらに重く考えがちです。家のこと、夫のこと、そして子どもの生活、とくに母親の目の届かない空白の時間をどのように過ごすのか気をもめる点でもありましょう。この辺の事情を調べたのが「be able」NO.3の調査レポート。これによると事態は楽観的です。つまり母親が働きに出ると子どもたちは逆に甘えがなくなり自分に厳しくなると

いうことで、よく塾に通い、友達と電話をし予習復習に多くの時間を割き昼寝をキチンとするようになる、と報告されています。案ずるより、生むは易しです。あれこれ気をめぐらさずに、肩の力を抜いて楽に仕事に就いてみる——すると案外に家庭内のことは自然と解決していくということなのでしよう。「be able」NO.3(マンパワージャパンが発行している働く女性のための情報誌)より。

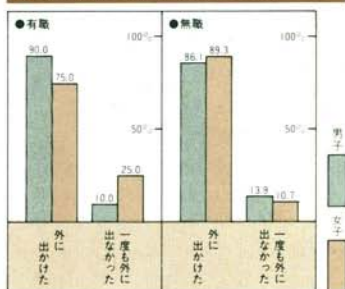
応援します。

マンパワージャパンは、自分自身のために働こうとする女性のために望ましい職場と環境、さらに働きやすい条件を整えていこうとする会社です。もし「あなたが働きたい職場で、働きたい時間だけ、しかも、あなたの能力にふさわしい収入を得たい」とお考えなら、マンパワージャパンにご相談ください。現在、マンパワージャパンでは、6500人もの女性がスタッフとして、およそ4400の優良企業で働いています。

●帰宅後の外出状況



●母親の仕事の有無と帰宅後の外出状況



●マンパワージャパンの窓口は全国10ヶ所。最寄りの支店へお電話ください。経験豊富なサービスレプレゼンタティブがご相談に応じております。

- 東京 銀座 ☎562-4271
- 赤坂 ☎478-6311
- 新宿 ☎342-5555
- 横浜 ☎314-1222
- 札幌 ☎222-4881
- 名古屋 ☎962-7771
- 大阪 ☎222-6300
- 神戸 ☎321-5951
- 広島 ☎223-1100
- 福岡 ☎741-9531

あなたの経験と時間を生かします。

世界最大の事務事務請負サービス
マンパワー
 マンパワージャパン株式会社 本社 東京都港区赤坂1丁目11-45第3興和ビル

